

改訂宣言は各國の態度如何に拘らず斷じて實行を期するといふ頗る強硬なもので列國に多大の衝動を與へ急進政策を如實に示せる横紙破りの行動として外交團方面ではあまり好感を以て迎へられなかつた。しかし支那としては不平等條約撤廢といふ國民政府の確固たる方針の下に出發してゐるので列國の意向などはむしろ問題としてゐないのであつた。改訂宣言に對し日本側は七月二十日を以て満期となる日支通商條約は一九二六年以來三ヶ月毎に延期を重ね條約にある六ヶ月の期限内にいづれよりも廢棄の通告をなしをらぬから期限後更に十ヶ年間有効であるとの解釋を下し極めて強硬なる態度を示した。條約問題が喧嘩を極めてゐる間外務省は濟南事件交渉案として(一)國民政府の誠意ある謝罪(二)責任者の處罰(三)損害賠償(四)將來の保障(五)排日宣傳禁止の主要項目を決し、これに對する支那側の誠意の程度如何と交の涉

進捗に伴つて山東派遣軍減兵の限度を裁量せんといふ方針を定め先づ上海の矢田總領事をしてこれが瀬踏交渉をなさしむることになり矢田總領事は右政府の訓令を奉じ七月十七日上海發南京に向ひ十八日國民政府外交部長王正廷氏と會見した。この會見において「濟南事件の交渉開始に應ずるや否や」の日本側の提議に對し王正廷氏は「支那側でもこれに應ずる十分な準備を有する」と答へ先決問題として山東派遣軍の撤退を要求し日本側に支那側が日本の要求を容れる誠意があるなら考慮の余地があると答へた。濟南事件の交渉が第一歩を踏み出してから僅かに二日皮肉にも七月二十日の日支通商條約満期の日が到來した。果然十九日駐日公使汪榮寶氏は外務省を訪問して有田亞細亞局長に對し日支條約の満期を通告し一方國民政府は同日南京の岡本領事に同様の通告を發した。日本側では豫期はしてゐたものゝすがに動搖の色

があつた。通告を受取つた日本の態度は俄かに強硬となり日本政府は現行の日支通商條約が満期となつたといふ事實を認め得ない。従つて臨時弁法適用の必要をも認めない。通商條約改訂に關し支那側が解釋を改めない限り日本政府は斷じて新條約締結の交渉談判にも應ぜざないとの意見一致折返し次の如き回答文が發せられた。「日支通商條約第二十六條には改訂とあるも廢棄とはない。かくの如きは國際信義を無視するものである、もし國民政府があくまで條約の規定を無視し廢棄を主張しまたは臨時辦法を適用するといふやうな一方的行爲によつて國際關係を蹂躪するならば日本政府としてはその權利及び自己の立場を保護するたためやむを得ず適當の手段を講じなければならぬ。右の回答は岡本領事の手を経て國民政府に手交されたが日本側が廢棄通告に對し議論紛々たる間に列國殊に英米は暗中飛躍、潛航艇式の活動を試み先づ

米支の關稅條約が疾風迅雷的に成立したことは如何にも皮肉なる現象といはねばならぬ。日本は米國のこの抜駝的外交に全く鼻をあかされた形であつた。日本の外交通はそれまで少くとも、支那のこの廢棄通告に對し列國は日本に追隨し協調的態度を取るだらうと考へ至つてはその最も甚しきものであつた。形勢は急轉直下し、支那側の態度はこれによつて俄かに強硬となり日支條約に對し日本が飽まで廢棄を認めねば日本と絶交をも辭せざないといひ出した。廢棄通告による支那の外交孤立を豫期してゐた日本は今や反對に自ら外交孤立に陥るといふ苦境に立たねばならなくなつた。正義の孤立、光榮の孤立といふ負け惜しみの言葉が繰り返されたが、見事に背負ひ投げを喰つたといふ事實は遂に蔽ふことは出来なかつた。王正廷氏はアメリカによつて救はれた。そして國民政府の外交はこれを期とし

て次第に有利に展開し來つた。勢に乗じた王正廷氏の太刀先は鋭かつた。國民政府には反田中内閣論極度に高まり政府有力者は田中内閣の存在する限り日本との妥協は絶対に不可能だといひ日本との開戦論さへ唱ふるものがあるに至つた。この數日間まさに日英米の對支外交戰が現出された。米の拔駝的行動に對し英國の暗中飛躍目ざましきものがあつた。しかし結局英國また讓歩外交により支那の意を迎へんとするに至り佛國また條約改訂に應ずる意向を洩し其他イギリス、デンマーク、オランダみな道連れになり最後に日本だけ取残された形となつた。この波瀾曲折の後國民政府の第二次通牒は八月十四日岡本南京領事に手交された。内容は臨時弁法は適用せぬからとて改訂交渉の開始を望み廿六條の解釋の相違をあげてあく迄現行條約の無効を主張したもので條約問題は結局双方の解釋に根本の相違があることが認められた。第

外交—對支關係(日支交渉問題)

二次通牒に對し日本側では現行條約の有効を確認しない限り斷じて改訂交渉に應ぜぬと頑張り紛糾はますます甚だしくなるのみであるかくの如き状態の中に窺かに心を苦しめたものは矢田總領事であつた。矢田總領事は大勢の趨くところ日本の強がりが何等奏功するものでないことを洞察しむしろ列國と同様互讓的態度によつて紛糾を解くことの賢明なるを信じてゐたが對内關係に左右される本省からの訓令は徒らに強硬一點張りであつた。つひに矢田氏は交渉願末の報告をかね實情を目的あたり陳明するため八月十七日上海發歸朝の途についた。矢田總領事のこの歸朝は本省並に日本朝野に國民政府の現勢と南京の外交空氣を諒解せしむるに相當の効果があつた。矢田氏の「適當の機會を捉へて條約改訂に應ずべく徒らに交渉を選延することは我國に不利である」との進言は外務省内にも賛成者多くこれによつて對支總和論有力と

なり政府の方針は俄かに軟化したかの感があつた。たゞ軍部方面は依然強硬論に終始し矢田論に耳をかさなかつたが一般の對支意見は余程緩和された状態となつた。かくてわが對支政策は幾多の曲折を経て漸く轉換期に到達した。すなはち國民政府の第二次通牒に對しては改めて意思表示をせぬが國民政府内部の政權確立を俟つて万事を決定するといふ方針が定められた。日本の對支態度が轉換期に向つたとき恰も國民政府總參議張群氏は大演習陪觀のためと稱して九月二十九日密かに東京に入つた。張群氏のこの渡日は大演習陪觀と稱するもその實日支問題就中濟南問題に關して支那側の意向を説明し日本政府の諒解を求むるにあつたのはいふ迄もない。張群氏は入京と同時に直ちに田中首相と會見した。その結果は懸案解決に重大なる諒解が成立つたものゝ如く張氏は大演習陪觀を中止し四日東京發俄かに歸國の途についた。交渉

の機は熟した。張群氏のこの機微しが交渉促進の最大動機となつたのはいふまでもないが同時に日本政府の希望せる國民政府の政權確立の時期が來たからでもある。それは支那の責任内閣ともいふべき五院制の確立である。從來國民政府に對する各般の交渉案件は委員制のもとに明白なる責任者なき状態であつたのが五院制の確立によつて譚延闓氏は行政院長、立法院長に胡漢民氏、司法院長王寵惠氏、考試院長羅天仇氏、監察院長蔡元培氏就任し蔣介石氏は國民政府主席すなはち支那の元首として一切を統裁することになつた。五院制は双十節すなはち十月十日を以て成立した。こゝにおいてか日本政府はいよいよ正式交渉開始の肚を決め矢田總領事に對し交渉開始の訓令を發した。矢田總領事は上村領事、草野書記生を從へて十月十八日上海發南京に向つた。南京に着いた矢田氏は直ちに王正廷、蔣介石氏と會見、五院制の確立を祝



福すると共に懸案の解決交渉に入らんことを希望した。蔣介石氏と矢田氏の意見の結果は極めて円満で蔣氏は行政院長譚延闓氏に命じて王正廷氏を支那側全權に任命し十九日から正式交渉を開始することになった。十九日の意見は先づ南京、漢口兩事件から濟南問題、條約問題に亘り大體原則的解決の目算がついたが濟南事件は双方の主張に甚だしく隔たりがあり懸案中の最難關とされた。かくて交渉を重ねること前後九回、果して濟南事件で王全權の態度強硬、日支の正面衝突となり矢田總領事は交渉を打切つて上海へ引揚げる決心までしたがその後双方で妥協點の發見に努めた結果二十五日附矢田王正廷兩氏連名で「濟南事件を除き他の懸案は凡ての意見が一致した、双方政府に請訓する」といふステートメントを發表した上矢田氏は同夜上海に歸任した。次いで有田亞細亞局長は濟南事件解決策に關し二十八日東京發上海へ向ひ

濟南西田總領事と上海に落合の兩氏相携へて南京に乗込んだ。有田局長は交渉の結果に關し政府の訓令を齎したもので西田總領事は濟南の現地事情を支那側に説明するためであつたが兩氏の南京乗込は時節柄頗る注目をひいたものである。越つて十一月十九日矢田總領事は再度南京へ向ひ引續き濟南問題の交渉を遂げんとしたが王正廷氏は會見に先ち矢田氏に撤兵問題の確答を求め、はては矢田氏の全權としての資格問題まで持ち出し前回はまるで打つて變つた態度を示した、次いでともかくも會見することにはなつたが王正廷氏は正面から撤兵期限の明示を迫り日本側が撤兵を聲明しない限り交渉は打切るの外なしと怪氣焰を吐き矢田氏はこれに對し直ちに本省に請訓したがこれによつて交渉は全く危殆に陥つた。かく王正廷氏が撤兵問題で強硬に突つ張り前回は打つて變つた態度に出でたのは各國との條約調印で國民政府の立場が

頗る有力になつたのと日本内地で外交失敗による田中内閣反對の聲喧しく一方民政黨の倒閣運動起り田中内閣の前途危懼さるゝものあつたのが反映したものであらうと察せらる。かくて交渉は停頓のまま矢田氏は二十三日南京を引揚げた。交渉の停頓と同時に國民政府は各地の反日會に對し對日經濟絶交の秘密命令を發した。舉國一致の排日を以てあく迄日本に肉薄しようといふ策戦で交渉の前途は全く暗影にとざされた。その後昭和四年一月末芳澤公使の渡支まで行詰のまゝ推移したがその間に幾多の問題があつた。(一)日支關稅交渉の成立、二月一日から新關稅を實施することになつた(二)床次氏の南京訪問(床次氏は支那の政情視察を兼ね日支關係打開の目的を以て南京で蔣介石氏と會見し更に國民政府の要路と懇談を遂げた。その結果は行詰まれる日支の關係に多大の光明を投げた)と傳へられたが床次氏の渡支に

よつてこの難局面が打開されやう善はなかつた。たゞこれによつて支那側の感情が多少でも融和されたことは確かである。また床次氏の渡支の間南京反日團が王正廷氏邸を襲撃し更に田中内閣の密使と目して床次氏の襲撃を企圖した事件もあつたがこれは蔣介石氏の嚴重な取締りで大事に至らず問題ともならなかつた。(三)英支關稅條約成立に次ぎ英國公使ランプトン氏は一月二十日蔣介石氏に國書を捧呈し正式に國民政府を承認した。(四)漢口における排日事件すなはち我が海軍のオートバイが支那人車夫を負傷せしめたことから同地の反日會はわが租界の經濟封鎖を行ひ交通を斷つて食糧攻めにし漢口租界は我陸軍隊警備の下に約一ヶ月にわたつて籠城状態を續けた。床次氏の歸國報告により停頓状態にあつた日支交渉の氣運が再び動きかけた。床次氏との會見後田中首相は國民政府が山東撤兵を一切の交渉開始の前提として

ある如き現状では日支交渉再開の端緒を得ること極めて困難であるもとより南京事件および濟南事件が解決しなければ撤兵しないとするものではなく支那側が安全保障の責任を執りかつ實行するに至れば決して自主的撤兵をなすに躊躇するものでない。すなはち問題は支那側の態度是正を先決とするといふのであると言明し支那側にしこれまでの不遜の態度を改めさへすれば何時でも交渉を再開し撤兵の聲明に應じてよいと暗に讓歩的意向を洩したが越つて數日いよ／＼芳澤公使の南京乗込を見るに至つたのである。これより先御大典參列のため北京から歸國して東京に留まつてゐた芳澤公使は時機熟すると共に日支關係打開、懸案解決の重大使命を帯び一月十六日東京發、上海に向つた。芳澤公使の渡支と前後して床次氏を黨首とする新黨クラブは(一)支那の和平統一を完成せしめんため速かに國民政府を承認すべし(二)日支新

外交—對支關係(日支交渉問題)

條約は平等を原則とし成るべく速かに締結に努力すること(三)滿蒙における帝國の特殊立場を確保し領土權の尊重に努力せよ(四)相當の手段を講じて濟南より撤兵すべしとの聲明を發したがこの聲明は支那側に少からず好感を以て迎へられやがて開始されんとする芳澤公使の交渉に益すること大であつた。芳澤公使は一月十九日上海に到着、同二十二日堀内書記官を伴ひ南京に乗込んだ、公使の南京乗込と同時に日本では第五十六議會が開會された。對支問題は質問戰の大部分であつた。劈頭永井柳太郎氏は滿洲問題を提げて肉薄し次で中野正剛氏は對支外交の失敗と更に某重大事件をもつて亂及の下に奮戦したがつひに政府の堅壁を崩すに至らず、幣原前外相起ち若槻前首相室々の陣をもつて攻め立てたが政府黨の守備堅うして闘士徒らに恨を呑み民政黨の奇襲また奏功せず某重大事件の決議案は葬られ去つた。議會のこの形勢は

南京の日支交渉に直接反映した。野黨優勢なれば支那側の態度俄かに強硬となり政府黨優勢と見れば忽ちまたその態度を改めるといつたやうに議會のその日／＼は恰もパロメーターの如く日支交渉を左右した。芳澤公使と王正廷全權の日支正式交渉は二十四日から南京薩家灣の王正廷氏官邸で開かれた、日本側委員、芳澤公使、堀内書記官、有野通譯官、上村領事、支那側王正廷、周龍光、崔士傑、交渉は劈頭濟南事件から討議された。第一次會見において見られた極めてなごやかなる空氣は第二次會見に至つて俄かに險惡となつた交渉は果然撤兵問題で決裂の危機に瀕した。支那側の態度がかくの如く硬化したのは全く我が議會における黨間戰の反映であつた。支那側は民政黨の華々しき黨間戰に政府黨敗ると見たのである。だが一時立すくみの交渉は王氏の繼續申出により打開點を發見し日本側は撤兵期日の明示を考慮するこ

ととなつて繼續されることになつた。芳澤公使は三十日一應上海に歸り二月二日から上海佛相界の王正廷氏私邸で再開された。この會見においては支那側の態度余程緩和し濟南問題解決の端緒が見出された。次で四日から三次會見が行はれたが交渉はいよ／＼最重要點に觸れ夜に入つても散會せず結局四日午後三時半から翌朝四時半まで正味十二時間夜を徹したる空前の長時間會見でさしもの難關濟南問題は勃發より九ヶ月目に手續のみを残して完全に解決した。會見を終つた兩國全權は喜色をあふらして調印の日を待った。ところが調印されるばかりになつてゐた濟南問題は八日午後三時半からの第四次會見で賠償金の範圍問題で意見衝突し形勢逆轉まつた決裂状態に陥つた。交渉停頓の原因は日本側から新に賠償相殺の提議をなしたのに對し支那側は日本側に誠意がないと怒つた結果であるといはれ、わが政府側の説明によれば



政府が芳澤公使に對し撤兵の條件たる將來の保障問題に關し單に支那側の聲明に満足することなく具體的方法を提出すべく要求するや訓令した結果支那側が日本の誠意を疑つて交渉を打切つたのであるともいふてゐる。この間議會においては政府不信任案が上程され濱口總裁は現内閣の存続する限り對支外交の好轉なしと不信任案を説明し野黨玉碎の奮闘振を見せ倒閣黨分院の内外に横溢した。停頓のまま推移した交渉はそれでも重光總領事(前任天田總領事は交渉問題に際し政府との意見を異にしたため田中首相の忌避するところとなり突如歸朝を命ぜられて重光總領事を繼いだ)上村領事と周輔光、崔士傑氏の間頻りに非公式折衝が行はれた結果三月五日夜の會見でいよいよ完全なる解決を見た。解決案は直ちに調印されるはずであつたが時恰も南京軍と武漢軍の戦争始まり國民政府は戦事に及々として他を顧みるの違な

つたため延期され三月二十四日芳澤、王兩氏は上海の王邸で會見、解決文書に假調印を了し次で二十八日芳澤公使は南京に至り外交部官邸で正式調印を了し公文交換を終つた。解決條件は(一)調印後二ヶ月以内に撤兵すること(二)保障は支那側で全責任を負ふ(三)双方陳謝(四)賠償は共同調査會による原則として相殺する。同日外務省は濟南事件に關する日支の共同聲明書を發表し數ヶ月の久しきに亘つて波瀾重疊を極めた濟南事件はこゝに目出度終結したのである。最難關の濟南事件が解決した以上其他の南京、漢口事件は最早問題ではなかつた。四月一日芳澤公使は上海外交部弁事處で改めて王正廷氏と會見し、右兩事件の交渉を開始した。次で五日兩事件は僅かに字句の修正を殘して解決し十二日假調印を了した。十八日引續き會見行はれ最後に殘された條約改訂問題が討議されたがこれまた手続問題について意見一致し日支の懸案は條約改訂の手續を將來に残したのみで全部終結した。

對滿洲問題 張作霖の爆死後滿洲の政局動搖し御曹子張學良氏によつて支持される滿洲獨立の形勢危ふく國民政府の勢力は屢々として東三省におよんだ。東三省のこの新形勢は少からず我が當局を悩ました。すなはち國民政府の勢力侵入の曉は滿洲におけるわが既得權は必ずや蹂躪されるに至るだらう、これを未然に防ぐためには張學良氏に勸めて南北安協を打切らしめ南方勢力の侵入を阻止せなければならぬといふのであつた。すなはち帝國政府は三年七月二十日林奉天總領事をして張學良氏に對し奉天側の南方屈服に日本は斷然反對である、あくまで保境安民の下に現状を維持せられたしとの警告を發せしめた。右の通告に接したる張學良氏は二十一日林奉天總領事に對し當分南北安協を打切り現状を維持すべき旨の回答を寄せたがその後南方政府の壓迫と奉天

内部の空氣は日本の勸告を容れて南北安協を打切ることを許さず張學良氏は板挟みの苦境に立つた結果八月七日重ねて林奉天總領事に對し「南北安協に關してはさきに貴國の勸告により一旦これを打切ることにしたが周囲の事情は到底これを許すべくもない、すなはち奉天當局としては近日中に急速に南北安協を成立せしめることにしたから日本政府においてもこれを諒として貰ひたい」とさきの回答とは全然反對にわが勸告を斥け南北安協打切り拒絶を通告して來たこれより先政府は東三省に對するわが方針遂行のため張作霖氏の本陣に參列する林權助男に依頼し張學良氏と會見して忌憚なき意見の交換を行はしむることに決し林男は八月四日奉天に到着した。かくて八日林男と張學良氏の會見が行はれたが、かくの如き状態であつたので會見は安協問題全く意見の相違あり交渉は停頓してわが對滿策は一時行詰りの形となつた。次

で張學良氏は十二日重ねて林男に會見を申込み安協問題に關しては更に慎重に考慮した結果日本の好意的勸告に従ひ向う三ヶ月間三民主義の遵奉および青天白日旗の掲揚を見合はせる旨回答した。この間専ら日本は東三省に對する經濟援助に活躍し山本滿鐵社長の歸任と共に(一)吉會線關係借款契約の離立、投資、擁護の方法、吉長線との經營連絡(二)吉會線その他今後の日滿經濟關係において必要な鐵道の敷設(三)產業開發のため奉天票の整理、東三省銀行の設立北滿貨物の庫下策問題等具體的對滿交渉を進むることになり松岡滿鐵副社長は専らこれが交渉の衝にあつた。かくて日和見のまゝ數ヶ月を経過したが南北統一の大勢は最早動かすべくもあらず、國民政府の張學良政府委員任命と共につひに一月二十九日東三省は日本側へ一片の通告なしに青天白日旗が掲げられ南北統一は成立した。

が國は前後八回の排日に遭遇してゐる。その第一回は明治四十年の辰丸事件、同四十三年の安奉線問題、大正四年の廿一ヶ條問題、同八年パリ會議における山東還附、同十二年三月の露支密約兩期による旅大還附、同十四年上海の五卅事件、昭和二年の第一次山東出兵、同三年の濟南事件といふ順序である。今回の排日も濟南事件に起因したのだから同事件が解決した以上排日は間もなく終息するやうに思はれたが事實は全くこれに反し解決の當座こそ一時緩和の形勢が見ゆぬでもなかつたがやがて反日會は救國會と改稱し依然として執拗なる運動を續けてゐる。それには目下支那で行つてゐる排日が根底深い思想問題の上に立脚してをり國民政府の存立の武器として使用されてゐることを考へねばならぬ。過去における排日は同じく國民運動ではあつたが今日における排日のごとくそれほど主義主張の徹底したものではなかつた。すな

はち民國十三年一月十五日廣東で國民黨の第一次全國代表大會が開かれ孫文のいはゆる聯黨容共の政策が決議されて以來の排日は從來とは異り帝國主義打倒、不平等條約撤廢といふ二大標識のもとに國民黨の黨是として極めて眞剣なる主張のもとに行はれるやうになつた。いひ換ふれば排日なるものはこれを機として國家の政策として採用されるに至つたのである。これが國是または黨是である以上一濟南事件の解決によつて排日が終息すると考へることすでに間違ひ不平等條約撤廢の目的が達せられるまでは次から次に新なる排日が起ることを豫期しなければならぬのである。今日の日支交渉は際し芳澤公使はその後半の大部分をもつて排日の終息といふことに死力を盡したものである。公使のこの熱心なる努力に對しさすがに頑迷なる支那側も屈服したものか四月十八日の會見で王正廷氏はつひに

「排日に對しては政府より直ちに嚴命を下して取締る」といふ一札を入れしむるがらこれに調印したのであつた。しかし支那側ではこれに調印はしたものの、幾日経つても取締令を發せず、芳澤公使はために再三王正廷氏に命令の即發を促しつひには支那側の誠意の有無をさへ詰問したが結局要領を得ず、依つて當時漢口にゐる蔣介石氏に對し公使自ら電報を以て命令發布を督促した結果數日を経て蔣氏から「目下急激に排日を取締るとは反動分子を激發する恐れあり、貴意の趣十分諒承せるを以て中央と計り徐ろに策を講ずべし」といふ極めて煮に切らぬ返事が到着した。その間上海では公使と支那官憲側の折衝のほか日支實業家提携して警備司令熊式輝氏、上海市長張群氏と非公式に談判を續けたが目前の回答と結果とはいつても相違するといふ有様で結局支那側には排日取締の誠意がないこと明瞭となつた。越つて數日行政院長



護廷閣氏の名義にて人権擁護令なるものが發布された。すなはち政府としてはこれを以て取締令に代へたつもりであらうが、かやうな不徹底な命令が幾何の効果を齎すものかは問はずして明かである。要するに支那側は取締協定に調印はしたものの、これを履行する意思は毛頭有せぬと見るが、至當であらう換言すればこれを履行するといふことは國民黨の黨是に背くものであり國是の遂行を妨ぐることになるからである。かくて排日は今後條約改訂交渉に際し更に滿蒙問題の交渉に乘じ不平等條約撤廢、帝國主義打破の大旗の下に幾度も繰り返されることを豫期せねばならないのである。

**國民政府承認 懸案解決し山東派遣軍の撤兵終了して日支の關係は全く舊に復した。** 天長節には南京に降泊せる我が第一遣外艦隊と支那海軍との間に禮砲の交換あり早くも國交の敦睦を示した。わが對支政策はこゝに一大轉換を來

し専ら積極政策を中止して誤解を一掃するにいつとめ傍ら貿易の好轉を圖るといふ方針が定められた。やがて四年六月一日若き支那の國を擧げての大典、孫文移靈祭が行はれたがそれには犬養、頭山兩翁はじめ其他わが國における孫文の舊友同志多數参列して異彩を放ち芳澤公使また参列して帝國政府から贈つた花輪を供へた、次で六月三日午前十時芳澤公使は南京國民政府の大禮堂において蔣介石氏に國書を捧呈し帝國政府はこゝに正式に國民政府を承認した。

**一ヶ年の主要事件**  
**日露石油契約調印** 波瀾を重ねた日露石油交渉は三年九月五日正式調印ができたが同協定は全文十四ヶ條、三ヶ年に六萬五千トンの原油を全露石油シンヂケートから北極太石油會社へ賣渡すのであつて、買入値段は發表されなかつたが、買入元廿三圓程度である。  
**露領漁區の紛糾** 日露漁業新協約成立後初めて行はれた昭和四年度の出漁において未曾有の混亂紛糾が現出された。昭和三年十二月極東露國漁業當局に

よつて發表された四年度出漁條件は邦人漁業家の利害と衝突するところ少からず先づ問題の種を下した。殊に鮫魚漁區として指定されたものは、邦人側要望漁區二百余ヶ所が含まれざること、露國が國營漁區に選定したもの、閉鎖せんとするもの、中邦人既經營漁區多數含まれてゐること等々は條約に違反しわが既得權の侵害であるとして我營業者を激昂せしめ遂に二月廿八日の鮫魚に不参加を聲明し漁區八十七ヶ所は露人單獨入札となつた。越に三月十五日第二回の鮫魚を行つたが日本側又々参加を拒絶した。その中出漁の時期も迫るので日露當局も問題解決に努めた結果ロシア側折れて「日本の權益を尊重する」の言葉を與へたので四月五月初めてウラチオに開かれた三田貫一郎は露人コルサコフを代人として日露漁業會社既經營漁區七十七、西出氏の漁區一、計七十八區を二百九十九萬七千七百五十一ポンドと云ふ法外の高價をもつて落札し世間を驚愕せしめ「島對日魯の争」の幕を開いたのであるが、この七十八區は鮫、鱈、蟹の最も優良なる漁區で日魯にとつては致命傷となつたわけである。宇田の背後に島嶼、中山殿太

郎氏等あり政黨關係も入組んで未曾有の紛糾を來したが兩派は五月廿九日郷、杉山氏等の仲裁で一先づ妥協成り、宇田氏の權利をそのまゝ日魯が受けつぐ所迄こぎつけた。その後なほ日魯の對露國借區料、島嶼の仲割割れ等色々紛糾を續けたが、六月十八日之に關する日露當局の協定成り問題の七十八區を百廿五萬ポンドで漸く日魯の權利に歸した。これで内紛は收つたがこの機に乗じて露國の積極的進出は兩國の國際的問題にまで發展して來た。即ち日魯の經營に關する十八區に對してこちらの承諾なしに國營として投標を開始した事で度々のわが抗議も聞かず今や全く露國の手に奪取された状態である。之に反し露國の四年度の漁獲高は著しく増加し彼は彼の極東露領十年計畫に向つて着々進んでゐる事が見られるが我國としては今後條約改正とその嚴守について努めねばならぬであらう。  
**對アビシニヤ條約問題** 日本とアフリカのアビシニヤ國との修好通商條約は昭和二年六月當時のルーマニヤ國駐劄武官小路公共氏が同國首府アズアババで攝政マツコンネル殿下との間に直接調印を完了したものであるが原語がアマリツク語で認めてあるため我國にて完全に同語を翻譯するものがないので、極密

院で問題となりアマリツク語を解せずして調印した責任と同國との通商條約の必要ありやとの疑問から審議進行せずそのまゝとなつてゐたが政府は七月九日の閣議で一應撤回し改めて完譯を附して再諮詢を仰ぐ方針と決定した。

**日洪通商取極** 日本とハンガリーとの通商關係は平和條約滿期後舊條約の復活を見ずにあつたが四年一月廿三日ブタペストにおいて兩國當事者間に通商航海條約暫定取極の公文の交換を了した。これでは日本と歐洲大戰當時の舊敵國に當る各國との通商關係は本條約を最後に全部平等關係に入つた。

**カナダ初代公使** 外務省ではカナダ駐劄初代公使について登擡中のところ四年四月廿日前シドニー總領事徳川家正氏を任命した。なほ東京駐在カナダ公使はハーバート・マラー氏に決し赴任した。

**日波通商修好成立** わが國とベルシャとの間は從來無條約國の状態であつたが近來漸く對波貿易發展著しきもあり、過般來兩國當事者間に通商條約暫定取極に關し交渉中のところ四年四月一日同國駐劄わが二番書記官と同國外務當局との間に公文交換を了し四月八日よ

外交—主要事件

り實施される事になつた。右取極の要旨は兩國は相手國の外交官領事官の待遇、相手國民の居住および兩國間の通商に關し最惠國待遇を許し且つ相手國と產品に對する輸入税賦課に對しても最惠國待遇を許するにある。しかして外務省では應々四年八月一日よりベルシャの首府テヘランに公使館を新設することとなり初代公使として國際勞動事務局理事空間吳雄氏が任命された。

**日土通商條約交渉** トルコとの通商關係は一九二三年七月ロザンヌ會議で平和條約と共に締結されたものであるが四年八月六日を以つて期限満了となつたのでトルコ政府は新條約締結を各國に提議したが、それまでの暫行處置として兩國代表者間に公文が交換された。新條約締結は目下スタンブールにおいて準備中である。

**不戰條約公布** 昭和四年七月廿四日完全に効力發生を見るに至つた不戰條約は廿五日官報號外を以つて發表されたが條約およびこれに關する帝國政府の宣言書は左の如く公布した。

**條約正文**  
獨逸國大統領、亞米利加合衆國大統領、白耳國皇帝陛下、佛蘭西共和國大統領、

領、グレート・ブリテン、アイルランド及グレート・ブリテン海外領土皇帝印度皇帝陛下、伊太利國皇帝陛下、日本國皇帝陛下、波蘭共和國大統領、チエツコ・スロヴァキア共和国大統領は人類の福祉を増進すべき其の嚴肅なる責務を深く感銘し

その人民間に現存する平和友好の關係を永久ならしめんが爲國家の政策の手段としての戰爭を率直に擯棄すべき時機の到來せることを確信し

その相互關係における一切の變更は平和的手段に依りてのみこれを求むべくまた平和的にして秩序ある手續の結果たるべきこと及今後戰爭に訴へて國家の利益を増進せんとする署名國は本條約の供與する利益を拒否せらるべきものなることを確信し

その範圍に促され世界の他の一切の國がこの人道的努力に参加し且本條約の實施後速にこれに加入することに依りてその人民をして本條約の規定する恩澤に浴せしめ以て國家の政策の手段としての戰爭の共同擯棄に世界の文明諸國を結合せんことを希望し

こゝに條約を締結することに決しこれが爲左の如くその全權委員を任命せり

(全權氏名略)

因て各全權委員は互にその全權委任狀を示し之が良好妥當なるを認めたる後左の諸條を協定せり

**第一條** 締約國は國際紛争解決の爲戰爭に訴ふることを非とし且その相互關係において國家の政策の手段としての戰爭を擯棄することをその各自の人民の名において嚴肅に宣言す

**第二條** 締約國は相互間に起ることあるべき一切の紛争または紛争はその性質または起因の如何を問はず平和的手段に依るの外之が處理または解決を求めざることを約す

**第三條** 本條約は前文に掲げらるる締約國によりその各自の憲法上の要件に従ひ批准せらるべく且各國の批准書が總てワシントンにおいて寄託せられたる後直に締約國間に實施せらるべし本條約は前項に定むる所により實施せられたるときは世界の他の一切の國の加入の爲必要なる間開き置かるべし一國の加入を請する各文書はワシントンにおいて寄託せらるべく本條約は右寄託の時より直に該加入國と本條約の他の當事國との間に實施せらるべし

亞米利加合衆國政府は前文に掲げらるる各國政府および爾後本條約に加入する各國政府に對し本條約および一切の



外交—主要事件

批准書または加入書の認許書を交付する義務を有す...

宣言

帝國政府は千九百廿八年八月廿七日巴里において署名せられたる戦争抑止に...

不戦條約問題

不戦條約は一九二八年八月二十七日パリで調印され我國も調印國の一であるが...

主権が人民にあるかの如き疑を起さしめ憲法に違反するものであるとの論が起り、極めて重大な政治問題に化した。

名において」と解釋するより外に適當の譯のないことは明瞭であつて人民の名において戦争放棄の條約締結を宣言することになつては...

りおくれ遂に確信なきまゝ六月十日に至り漸く御諮詢奏請の手續をとつた。

列國航空兵力

英吉利

Table listing military aviation forces for Great Britain, including categories like 飛行隊數(中隊), 偵察隊, 轟炸隊, etc.

北米合衆國

Table listing military aviation forces for the United States of America, including categories like 飛行隊數(中隊), 偵察隊, etc.

佛蘭西

Table listing military aviation forces for France, including categories like 飛行隊數(中隊), 偵察隊, etc.

伊太利

Table listing military aviation forces for Italy, including categories like 飛行隊數(中隊), 偵察隊, etc.

ソウイェト聯邦

Table listing military aviation forces for the Soviet Union, including categories like 飛行隊數(中隊), 偵察隊, etc.



外交—在外帝國大使館・總領事館

在外帝國外交官

昭和四年八月一日現在

大公使館

- 在英國大使館(在ロンドン)
  - 特命全權大使 松平恒雄
  - 大使館一等書記官 佐分利貞男
- 在法國大使館(在パリ)
  - 特命全權大使 安達峰一郎
  - 大使館一等書記官 河合博之
- 在獨逸國大使館(在ベルリン)
  - 特命全權大使 長岡春一
  - 大使館一等書記官 東郷茂徳
- 在波蘭國大使館(在ワルソワ)
  - 特命全權大使 白鳥敏夫
  - 大使館一等書記官 信原正信
- 在ソウイェト聯邦大使館(在モスコウ)
  - 特命全權大使 佐久間
  - 大使館一等書記官 栗原

- 在伊國大使館(在ローマ)
  - 特命全權大使 松田道一
  - 大使館一等書記官 吉澤清次郎
- 在土耳其國大使館(在スタンブール)
  - 特命全權大使 小幡西吉
  - 大使館一等書記官 二瓶兵二
- 在米國大使館(在ワシントン)
  - 特命全權大使 出淵勝次
  - 大使館一等書記官 東郷茂徳
- 在伯利西國大使館(在リオ・デ・ジャネイロ)
  - 特命全權大使 有吉明
  - 大使館一等書記官 藤田榮四郎
- 在瑞典國公使館(在ストックホルム)
  - 特命全權公使 子武者小路公公共
  - 公使館一等書記官 天城篤治
- 在波蘭國公使館(在ワルソワ)
  - 特命全權公使 松島健
  - 公使館一等書記官 佐久間
- 在チエツコスロウアキア國公使館(在プラハ)
  - 特命全權公使 木村鏡市

- 公使館一等書記官 永田安吉
- 在羅馬尼亞國公使館(在ブカレスト)
  - 特命全權公使 アート・スロヅエマ(在ブカレスト)
  - 公使館一等書記官 大野守衛
- 在捷地國公使館(在プラハ)
  - 特命全權公使 川島信太郎
  - 公使館一等書記官 吉田伊三郎
- 在希臘國公使館(在アゼンズ)
  - 特命全權公使 廣田弘毅
  - 公使館一等書記官 藤田榮四郎
- 在西班牙國公使館(在マドリッド)
  - 特命全權公使 荒井金太
  - 公使館一等書記官 芳澤謙吉
- 在支那國公使館(在北平)
  - 特命全權公使 重光葵
  - 公使館一等書記官 天羽英二
- 在暹羅國公使館(在曼谷)
  - 特命全權公使 矢田部保吉
  - 公使館一等書記官 青木新
- 在墨西哥國公使館(在メキシコ)
  - 特命全權公使 山崎次郎
  - 公使館一等書記官 越田佐一郎
- 在亞爾然丁國公使館(在ヴェニス)
  - 特命全權公使 山崎次郎
  - 公使館一等書記官 越田佐一郎

- 在智利國公使館(在サンチャゴ)
  - 特命全權公使 北田正元
  - 公使館一等書記官 來栖三郎
- 在加奈陀公使館(在オタワ)
  - 特命全權公使 岩手嘉雄
  - 公使館一等書記官 岩手嘉雄
- 在ラトヴィア國公使館(在ルカセブルグ國公使館)
  - 特命全權公使 長岡春一
  - 公使館一等書記官 永井松三
- 在倫敦總領事館
  - 總領事 永澤菊二
- 在漢堡總領事館
  - 總領事 山路章
- 在浦羅德總領事館
  - 總領事 渡邊理恵
- 在ハバロンスク總領事館
  - 總領事 山口爲太郎
- 在アレクサンドロフスク總領事館
  - 總領事 川角忠雄
- 在オハ分館
  - 總領事 佐々木靜吾
- 在哈爾濱總領事館
  - 總領事 八木元八

二〇四

- 在吉林總領事館
  - 總領事 中川兼雄
  - 副領事 川越茂
- 在閩屬總領事館
  - 總領事 鈴木要太郎
  - 副領事 岡田兼一
- 在滬春分館
  - 總領事 東仁松
  - 副領事 東仁松
- 在百草灣分館
  - 總領事 東仁松
  - 副領事 東仁松
- 在局子街分館
  - 總領事 田中作
  - 副領事 田中作
- 在頭道溝分館
  - 總領事 田中作
  - 副領事 田中作
- 在奉天總領事館
  - 總領事 森島久治郎
  - 副領事 森島久治郎
- 在海龍分館、通化分館
  - 總領事 前田五郎
  - 副領事 前田五郎
- 新民府分館
  - 總領事 清野長太郎
  - 副領事 清野長太郎
- 在天津總領事館
  - 總領事 關本武三
  - 副領事 關本武三
- 在濟南總領事館
  - 總領事 田代重徳
  - 副領事 田代重徳
- 在青島總領事館
  - 總領事 西田時一
  - 副領事 西田時一
- 博山出張所、張店出張所
  - 總領事 奥平昌長

- 在青島總領事館
  - 總領事 藤田榮介
  - 副領事 藤田榮介
- 坊子出張所
  - 總領事 藤田榮介
  - 副領事 藤田榮介
- 在上海總領事館
  - 總領事 矢田七太郎
  - 副領事 重光葵
- 在漢口總領事館
  - 總領事 林島主計
  - 副領事 林島主計
- 在成都總領事館
  - 總領事 田中賢太郎
  - 副領事 田中賢太郎
- 在福州總領事館
  - 總領事 林島主計
  - 副領事 林島主計
- 在廣東總領事館
  - 總領事 林島主計
  - 副領事 林島主計
- 在香港總領事館
  - 總領事 林島主計
  - 副領事 林島主計
- 在河内總領事館
  - 總領事 林島主計
  - 副領事 林島主計
- 在新加坡總領事館
  - 總領事 林島主計
  - 副領事 林島主計
- 在マニラ總領事館
  - 總領事 林島主計
  - 副領事 林島主計
- 在ダヴァオ分館
  - 總領事 林島主計

- 在バタヴィア總領事館
  - 總領事 三宅若二郎
  - 副領事 三宅若二郎
- 在カルカッタ總領事館
  - 總領事 村井倉松
  - 副領事 村井倉松
- 在アレキサンドリヤ總領事館
  - 總領事 横山正幸
  - 副領事 横山正幸
- 在シドニー總領事館
  - 總領事 佐藤由己
  - 副領事 佐藤由己
- 在木ノルル總領事館
  - 總領事 赤松祐之
  - 副領事 赤松祐之
- 在桑港總領事館
  - 總領事 井田守三
  - 副領事 井田守三
- 在紐西蘭總領事館
  - 總領事 内山清
  - 副領事 内山清
- 在メキシコ總領事館
  - 總領事 内山清
  - 副領事 内山清
- 在サンパウロ總領事館
  - 總領事 川島清一郎
  - 副領事 川島清一郎
- リベロンプレイト分館
  - 總領事 川島清一郎
  - 副領事 川島清一郎
- サントス出張所
  - 總領事 川島清一郎
  - 副領事 川島清一郎
- 在リヴァプール總領事館
  - 總領事 江戸千太郎
  - 副領事 江戸千太郎
- 在里昂總領事館
  - 總領事 小川昇
  - 副領事 小川昇
- 在馬耳他總領事館
  - 總領事 小川昇
  - 副領事 小川昇
- 在末蘭總領事館
  - 總領事 小川昇
  - 副領事 小川昇

- 在アンツェルス總領事館
  - 總領事 坂根準三
  - 副領事 坂根準三
- 在ストックホルム總領事館
  - 總領事 加藤三郎
  - 副領事 加藤三郎
- 在オデッサ總領事館
  - 總領事 島田滋
  - 副領事 島田滋
- 在ブラゴウエスチエンスク總領事館
  - 總領事 平塚晴俊
  - 副領事 平塚晴俊
- 在ベトロパワフスク總領事館
  - 總領事 緒方登庸
  - 副領事 緒方登庸
- 在ノヴォシビリスク總領事館
  - 總領事 田中文一郎
  - 副領事 田中文一郎
- 在滿洲里總領事館
  - 總領事 清水八百一
  - 副領事 清水八百一
- 在齊々哈爾濱總領事館
  - 總領事 永井清
  - 副領事 永井清
- 在長春總領事館
  - 總領事 宇佐美珍彦
  - 副領事 宇佐美珍彦
- 在農安分館
  - 總領事 近藤信一
  - 副領事 近藤信一
- 在安東分館
  - 總領事 近藤信一
  - 副領事 近藤信一
- 在遼寧分館
  - 總領事 近藤信一
  - 副領事 近藤信一
- 在撫順分館
  - 總領事 近藤信一
  - 副領事 近藤信一
- 在鄭家屯總領事館
  - 總領事 前田治之助
  - 副領事 前田治之助
- 在遼陽總領事館
  - 總領事 前田治之助
  - 副領事 前田治之助
- 在牛莊總領事館
  - 總領事 前田治之助
  - 副領事 前田治之助
- 在旅順總領事館
  - 總領事 前田治之助
  - 副領事 前田治之助
- 在天津分館
  - 總領事 前田治之助
  - 副領事 前田治之助
- 在青島分館
  - 總領事 前田治之助
  - 副領事 前田治之助
- 在濟南分館
  - 總領事 前田治之助
  - 副領事 前田治之助
- 在張店分館
  - 總領事 前田治之助
  - 副領事 前田治之助
- 在博山分館
  - 總領事 前田治之助
  - 副領事 前田治之助
- 在威海衛分館
  - 總領事 前田治之助
  - 副領事 前田治之助
- 在煙台分館
  - 總領事 前田治之助
  - 副領事 前田治之助
- 在龍口分館
  - 總領事 前田治之助
  - 副領事 前田治之助
- 在濰縣分館
  - 總領事 前田治之助
  - 副領事 前田治之助
- 在周村分館
  - 總領事 前田治之助
  - 副領事 前田治之助
- 在臨淄分館
  - 總領事 前田治之助
  - 副領事 前田治之助
- 在博山出張所
  - 總領事 前田治之助
  - 副領事 前田治之助
- 在張店出張所
  - 總領事 前田治之助
  - 副領事 前田治之助
- 在博山出張所
  - 總領事 前田治之助
  - 副領事 前田治之助

二〇五



外交一在外帝國領事館・名譽領事

Table listing consular offices and honorary consuls for various countries including Japan, Korea, and others. Columns include location, name, and title.

Table listing consular offices and honorary consuls for countries like Mexico, Spain, and others. Columns include location, name, and title.

Table listing consular offices and honorary consuls for countries like Brazil, Italy, and others. Columns include location, name, and title.

Table listing consular offices and honorary consuls for countries like the United States, France, and others. Columns include location, name, and title.

Table listing consular offices and honorary consuls for countries like Germany, Russia, and others. Columns include location, name, and title.

Table listing consular offices and honorary consuls for countries like the United Kingdom, Italy, and others. Columns include location, name, and title.

外交一在外帝國名譽領事

二〇六

Table listing consular offices and honorary consuls for countries like the United States, France, and others. Columns include location, name, and title.

帝國駐在外國

大 使 館 昭和四年七月一日現在

米國大使館(東京市麹町區内山下町一)

特命全權大使 大 使 館 參 事 官

エドウイン・エル・ネヴィル

ノーマン・アーマー

大 使 館 一 等 書 記 官

ユージン・エツチ・ドーマン

ブラジル大使館(東京市赤坂區表町

三) 特命全權大使

イボリツト・パセロ・アール

ヴェスベ・アラウ

大 使 館 一 等 書 記 官

カルロス・エ・デ・ラトローレ

リスボア

シルヴィオ・ランヘル・デ・カ

ストロ

白耳義大使館(東京市麹町區三年町

三) 二〇七



外交—帝國駐在外國外交官

特命全權大使 アルベール・ド・パツソンビエール
大使官一等書記官 ジョセフ・ベリアー

ソウイェト聯邦大使館(東京市麹町區芝罘關一)
特命全權大使 アレキサンドル・トロヤノフス

公使館參事官 サンチャゴ・デ・オツサ
丁林國公使館(東京市麹町區丸の内仲道八)

二〇八
ギリルモ・マルチイネス・ロドリゲス
羅馬尼亞國公使館(東京市麹町區内山下町一ノ一)

外交—帝國駐在外國外交官

在神戶領事館(神戸市京町九三)
領事官 アル・アール・ディクオ

伯利西爾國
在橫濱總領事館(横濱市山下町八六)
總領事官 レオナルド・オラゾ・ダ

在神戶名譽領事(神戸市東町一六)
ハミツシユ・コリン・マクノートン

二〇九
在長崎領事館(長崎市大浦町)
領事官 エフ・シー・グレイトレッツ



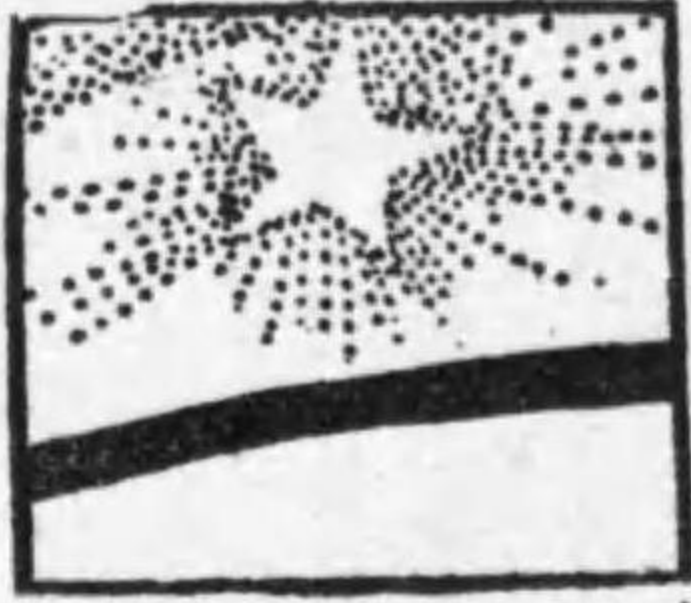
外交—帝國駐在外國外交官

在大阪領事館(大阪市北區梅田新道太平ビル内)  
 在神戶領事館(神戸市京町七二タレセンビル内)  
 在横濱領事館(横濱市山下町三二)  
 在東京領事館  
 在神戶總領事館(神戸市海岸通五)  
 在横濱總領事館(横濱市山下町七六)  
 在東京名譽領事(東京市芝區三田南寺町八)  
 在神戶名譽領事(神戸市海岸通商船ビル内)  
 在神戶領事館(神戸市浪花町二二)  
 在下開名譽副領事(下開市唐戸町一)  
 在東京名譽領事(東京市麹町區有楽町一ノ二)

在横濱名譽領事(横濱市山下町一)  
 在長崎名譽領事(長崎市大浦町)  
 在東京領事館  
 在横濱領事館(横濱市山下町)  
 在東京名譽領事(東京市牛込區早稲田南町一六)  
 在大阪名譽領事(大阪市西淀川區大仁町)  
 在神戶領事館(神戸市前町)  
 在下開名譽副領事(下開市西南部町)  
 在神戶總領事館(神戸市山木通二)  
 在東京名譽領事(東京市芝區高輪南町四七)

在神戶領事館(神戸市前町一四)  
 在神戶領事館(神戸市中山手通一)  
 在横濱名譽領事(横濱市山下町一五三)  
 在神戶領事館(神戸市播磨町二八)  
 在東京名譽領事(東京市牛込區早稲田南町一六)  
 在神戶名譽領事(神戸市西須磨下小神町五)  
 在横濱名譽領事(横濱市山下町八七)  
 在東京名譽領事(東京市芝區高輪南町四七)

在神戶領事館(神戸市前町一四)  
 在神戶領事館(神戸市中山手通一)  
 在横濱名譽領事(横濱市山下町一五三)  
 在神戶領事館(神戸市播磨町二八)  
 在東京名譽領事(東京市牛込區早稲田南町一六)  
 在神戶名譽領事(神戸市西須磨下小神町五)  
 在横濱名譽領事(横濱市山下町八七)  
 在東京名譽領事(東京市芝區高輪南町四七)



太平洋問題

航空路

人類の宿望であつた天空征服の端緒を開いたのは今から僅かに二十六年前即ち一九〇三年アメリカのライト兄弟であつた。航空機はそれ以來加速度的進歩を遂げ今や歐亞の連絡飛行はいふまでもなく、大西洋の無着陸横断飛行にさへ、幾度も成功し、太平洋上亦一飛びに飛越さんとする勢である。

海道方面より霞ヶ浦に飛來し、更に南方香港に飛んだがこれは途中各地に着水したのである。同年英機マクラレン少佐本國よりインド及び支那を経て日本に來り、北方航路に依り北米に飛べんとしたがカムチャツカ半島の東方コンマンドルスキー島において機體に故障を生じ飛行を中止した。

昭和三年わが飛行協會で太平洋横断飛行を計畫したが實行を見ずして中止の姿にある。今四年はアメリカのプロムリー中尉が飛行準備中である。

又順風にも恵まれないので飛行最も困難とされてゐる。

特別記事—太平洋問題



ら着陸場を設備する必要がある。南太平洋諸島は平地少く陸上機は不適当なるも到る處灣入港があるから水上機の使用に便である。濠洲のためにも敵國のためにも戦略上バブア、ソロモン等は前進飛行基地として重要な地帯である。

空中航法 大海洋上の飛行は船と同様羅針盤と天體観測とによるものである。天體観測にはわが海軍の小倉博士が作った高度表が外國でも重寶がられてゐる。わが海軍水路部では今航空要表、航空年表、航空用位置の線記入器などができてゐて計算によらず速に空中の位置を求め得ることとなつた。

また別に天體観測によらずラヂオ・ビーコンといふ無線による方法もある。たとへば東京からサンフランシスコに向ふ場合には東京ハワイ、サンフランシスコに無線の発信所を置きその信號によつて方向を定め航行するのである。今

や飛行機は無着陸飛行において七、四五六飛行時間六十五時間二十五分、速力四九七ノットの記録を示してゐる。將來の發達を想像すれば、太平洋横断飛行の如きは易々たるものとなるであらう。しかし今日の程度において

國防上 より見れば太平洋の横断飛行は直接に價値あるものではない。蓋し多量の爆弾を積み五六千噸を飛航して襲撃を加へるとは未だ全く不可能だからである。ゆゑに今の所は艦隊又は航空母艦並に飛行前進地の接近による攻撃のみである。その恐るべき實際的攻撃距離は五六百海里であるからこれが防禦には第一に敵の艦隊又は前進根據地をその距離以内に進入せしめない方法を取らねばならない。

一般航空路 文化發達上極めて重要なものであるが、一朝有事の日に來ると軍事上甚大の價値を

發揮するものである。他國に航空路を設けるが如き場合において殊に然りである。アメリカが南米方面に航空路を伸ばしたり最近支那の航空事業獨占契約が傳へられる如き、國防上より見て重大な問題なることに注意する必要がある。太平洋岸の常設航空路も相當に發達してゐる。

通信網

太平洋における通信網の管制は太平洋そのものゝ管制に甚大なる關係をもつ。

太平洋の通信網には海底電信と無線電信と二種ある。

海底電信 太平洋を横断する線が三つある。

【アメリカ】太平洋商業海底電信會社線で、サンフランシスコ、ホノルル、ミッドウェイ島、ウエーキ島、グワム、マニラ、上海線。グワム、小笠原島線(以上合計一万九千九百里)

メナド(セレベス)の三線は目下日本通信省で管理中

【ロシア】浦鹽、長崎、上海線は舊ロシアがデンマークの台北電信會社をして管理委託させてゐたものである。

こゝに附記せねばならぬことはアメリカで北太平洋を横断する新式海底電信線敷設の計畫を進めてゐることである。工費一千万の豫定である。

無線電信 マルコニーが無線通信に成功してから僅に三十年にしかならぬが、一般通信に船舶に航空にラヂオ放送に異常の發達を來し今や世界中に電波が躍つてゐる。太平洋の無線電信は目下各國競争の趨勢にある。殊にアメリカは海底線で世界通信の霸王であつたイギリスに對し、新しい無線を以てこれに代らんと異常の努力を拂つてゐる。

海軍無線

各國海軍が太平洋

に設けてゐる主要無線所は次の如くである。

【アメリカ】サンフランシスコ、パナマ運河、ハワイ、サモア、グワム、マニラ、北平、プリビロフ島(アラスカ)等太平洋の東西南北の重要點に配置されてゐる。アメリカ海軍ではサンフランシスコからハワイ、グワム、マニラに至る間新聞通信にも利用することを許してゐる。

【イギリス】ヴァンクーヴァー、フィジー、ブリスベン、シドニー、メルボルン、ポートダーヴィン、香港、新嘉坡等で主として南太平洋を管制してゐる。

【日本】東京、八丈島、北平、パオ、トラツク、ヤルト等西太平洋に相當張られてゐる。

一般無線電信 太平洋で遠距離多方面の発信所はサンフランシスコ、ハワイ、マニラ、東京、名古屋、サイゴン、マラバール等で

ある。

【アメリカ】對外通信はアメリカ無線通信會社の經營で、大西洋方面はニューヨーク、太平洋方面はサンフランシスコを中心としてゐる。サンフランシスコを中心とするものはハワイ、マニラ、日本、サイゴン、マラバール(ジャワ)と通信してゐる。使用するものは主として短波長機である。ハワイ無線局は元中樞局、フィリッピンの無線台は本國會社の補助局ともいふべきもの。アメリカの無線會社はフエデラル問題と別に最近支那に大規模の無電線敷設を契約した。すでに完成せる我双橋無電台が立腐れになつてゐるのは彼等の陰謀に因るものである。支那は更にドイツとも對歐無電線契約を結びわが權利を蹂躪し、再三これに抗議しても南京政府は馬耳東風である。

【イギリス】世界中に擴がつてゐる各種民地の連絡と、海外諸國とを

繋ぎ世界に無電線を張り廻はしその往復線が十六もある。ロンドンに二個の無線局があつて濠洲、インド方面に對するものと、南側、カナダ方面に對するものとに分れてゐる。一般の對外通信はマルコニー會社經營し、南米方面と連絡してゐる。太平洋方面に在る主要屬領間には蜘蛛の巣の如く連絡が出來てゐる。

【日本】殖民地の連絡と對外通信と二つに區別し何れも政府の監視になつてゐるが、殖民地の連絡設備は政府これをなし、對外通信設備は日本無線電信株式會社(本社東京)に屬してゐる。

樺太、朝鮮、大連、台灣、南洋等殖民地との発信を取扱つてゐるのは東京局である。

對外通信はアメリカ方面と歐洲方面とに分れ、アメリカ方面は東京局放でハワイ、サンフランシスコに各直通し、東京サンフランシ







スコ間は最短の場合十分で通信ができる。歐洲方面に對しては名古屋局で取扱ひパリ、ベルリン、ワルソーと連絡してゐる。なほ近く南洋方面のハノイ、マニラ、マラバール、シドニー、歐洲方面にはローマ、ロンドンとも連絡するはずである。

【フランス】植民地との連絡は政府管理し、對外通信は無電會社が任じてゐる。政府所管局はリオン、ボルドーにあつて佛領インド支那のサイゴン、ハノイ等と連絡し、會社の中央局はパリにあつて日本支那、南阿、南米方面と直接通信してゐる南太平洋上にある點々たる屬島とも連絡がある。

【オランダ】ジャワのマラバール高力無電局があつてサンフランシスコと直通しサイゴンとも連絡、歐洲のベルリン、ロンドン、パリとも交信してゐる。

海底線と無電とは各長短あるが

その利害が段々接近して來るのとならざるに競争してゐるのは不利なためイギリスでは兩者を統一して國際通信を牛耳らんとしてゐるといふ。無電の發達と利用は豫測し難い程、増大されるであらう。日本も太平洋に覇を争ふ一強國たる以上この問題について大に發展を企圖せねばならぬ。

### 水産

太平洋の水産資源は世界に冠たるものである。而して日本の水産亦世界第一である。従つて太平洋の水産は日本にとりて最も重要な問題である。

漁場 漁業に遡する所は陸地に近く海流があつて深度は約百尋までとされてゐる。この條件に適し(陸岸より三マイル)盛に漁業の行はれる所は全世界を通じて二百萬方マイルに過ぎないといはれてゐる。その内でも最も盛んな場所は日本沿岸と歐洲の北海であつて戰前の漁獲高前者は百十四萬五千六百トン、後者は百十七萬二千二百トンであつたが、戦後は日本沿岸は五割余を増加したのに對し北海

の漁獲は約一千萬トン十七億圓(大正十三年)見當だが、昭和元年度の國際水産統計によれば次の如くである。

日本(内地)	三、七三三	千圓
英(本國)	一、〇五五	千圓
カナダ方面	七、五五	千圓
米	一、三三三	千圓
ノールウェー	六、六〇	千圓

右の統計は評價が若干高く出來てゐるやうである。

分布 太平洋には大西洋にある魚類が殆んど全部生棲する上に、太平洋のみの特産もある。その種類も量も非常に多い。現在の主産地は北太平洋であるが、將來は南洋方面に擴充される機運にある。中米南米方面の太平洋岸も相當水産に富んでゐるに相違ないが未だ調査に手が届いてゐない。主産物は資源の項で大要記したから當く、こゝに注意を要するのは外國の漁業も殆んど大部分日本人がこれに従事してゐることである。

日本水産の近況 農林省調大正十二年の産額五億八千貫、二億三千七百萬圓が昭和二年には九億三千萬貫、三億一千八百萬圓となり漁獲が増して價格が減

### 世界の主要水産國

は僅に戦時中の減産を回復し得たに過ぎないといふ(大正十三年)太平洋方面の漁獲は大體次の如くである(單位方運)

日本沿岸六八、七〇〇	對馬海峡一五〇〇	朝鮮東岸六、一〇〇	朝鮮西南岸二四、三〇〇	台灣東岸一、三〇〇
台灣海峡一、八〇〇	支那沿海二七一、八〇〇	オホツク海二〇四、〇〇〇	ペーリング海三三〇、〇〇〇	北米沿海その他三三三、〇〇〇

(推定)合計約百三十萬方マイル、尙専門家の推定によれば南洋方面に少くも四十萬方マイルの漁場があると云ふ。新漁場として非常に有望視されてゐる。歐洲方面の漁場は約七十萬方マイルである。

最近二百尋位まで漁業を行ふやうになつたといふから漁獲も非常な増加を來したかと思はれるが未だその數字を得ない。また漁場については沿岸より三マイル沖以外を公海とし自由漁業を認められてゐるが、ロシアは先年十二マイルまで領海と見做し問題を起した事がある。漁業區域に大關係ある注意すべき問題である。

じてゐる。これは研究を要する一問題である。尤もこの統計は植民地の漁獲約九千萬圓を除いたものであるから、これに加へれば約四億二千萬圓。なほこの外に實際五割は多いだらうといはれてゐる。

日本の主要水産 鯛、鰯各一年二千九百萬圓、鯉二千四百萬圓、鯖二千四百萬圓、鱈千八百萬圓、鰻、鰯、鰒各千二百萬圓等である。

水産業者 日本の水産業者即ち漁夫約百五十萬人で世界漁夫三百萬の半數を占めてゐる。しかし一人割の漁獲および個人収入から見ると外國と比較にならぬ程少額である。種々の改良により一人割額を外國の如く引上げれば日本の水産收獲は莫大なものとなる譯である。

漁工船 わが國で初めて試みられた大正十年である。汽船を工場兼漁船として海上に乗り出し、獲物を船上に引上げ直に罐詰に加工するのである。目下十七隻ある。その收穫年一千萬圓に上つてゐる。將來鮭、鰻、鮪、魚油工船なども出來るであらう。船は古船を利用すればよいので古船の始末にも都合よく將來益

々有望である。

### 水産の地位

日本の重要産業は金、銅、炭、林産の順序である。將來少しく改善進せば鐵に匹敵する位は大した難事でないであらう。その發展策としては色々あつたが、漁業擴張、販路擴張、漁港設備、漁具改善、鰻油低廉供給、沿岸養殖地開拓、水産金融機關設置、遠洋漁業獎勵、漁業に關する各種共同施設等である。

今や世界の陸地は多く白人に依つて占領され、自由に委されてゐるのは海洋のみである。日本人は世界において最も漁業に巧妙でその數も亦世界漁夫の半數を占めてゐる。しかも海の資源は未だ開發されぬ所多く殆んど無限といつていゝ程である。しかも漁具や漁獲のみでなく海産に珊瑚、或は鱧物なども有望かも知れない。して見ると海國日本の伸ぶべき方面は先づ海でなければならぬ。日本が早く手を伸ばさなければ海も他國に制せられるであらう。現にアメリカ、イギリス、ドイツなどは海の資源に着目し徹底的の調査研究を始めてゐる。しかもその範圍は世界的である。日本が他國に後れず先づ太平洋を調査研究しその水産權

### 氣象と海流

を握り、更に進んでインド洋にも大西洋方面にも進展せねばならぬ。海國日本が海運と相俟つて國富増進のため最も有利なる天賦の水産をこの上々大に利用することに努力しなければ神に對しても相濟まぬ次第である。

氣象は人間の生存及び活動上に甚大の關係を持つものである。ゆゑに太平洋に活動せんとするにはその氣象を知らなければならぬ。氣象は各地方に依り異なるのだが、こゝには太平洋全般についての部分的概要を述べるに止める。

氣温 北半球では南緯程一日の寒熱の差が小で北方に行くに従ひ大となる。而して海陸、高低、緯度、土地の状況等の差で氣候が違ふ。その同溫度を線を以て示したものを等溫度といふ。經度線上最高氣温の部を熱赤道といひ、大體北緯二十六度と南緯九度の間を往來する。だから年平均にするも北半球にある場合が多い。

氣壓 同氣壓を線を以て示したものを等氣壓といふ。北太平洋方面では一月の平均氣壓はアジア大陸が最高氣壓と

なり、北太平洋中アリュシヤン列島の南方が最低氣壓となる。七月にはそれが全く反對になる。日本の天候はこの氣壓關係の影響が甚大である。

風 地球上に大體三種の風系がある。熱帯地方の貿易風、温帯地方の偏西風、寒帯地方の偏東風である。年中大なる變化がないが上下の高度によつて風速風向が違ふ。この外半年毎に方向の變る季節風がある。熱赤道は北太平洋に偏在するが故に北緯二十度附近は總に北東の風が吹いてゐる。南太平洋は反對に南東の風が多い。これを北東の貿易風、南東の貿易風といふ。季節風は大洋と大陸との間に起るもので日本では冬はシベリア方面より西北風が吹き、夏は反對に太平洋より南東風が吹く。

颶風 海上には颶風があつて太平洋では南洋地方がその發生地である。それが或方面に襲來して整潔船を覆へし陸地を洗ひ農作物人家を荒し海陸共に大なる慘害を興へる。颶風の起る原因は地球面における均熱の度不平均を生じ、貿易風が最低氣壓の區域に向つて進行すると地球自轉力の影響と島嶼などの關係で旋回運動を起すのである。この運動は北



半球では左巻(時計の針と反対)に回轉し、南半球では右巻(時計の針の方向)に回轉する。颱風の名稱は北太平洋西部のものに限り用ひられ七月から十月の間に起る。初めフィリッピン島の東方諸島地方に發生して、西又は北西に進行し北緯三十度附近で北に變じ多く北東に向ふ(日本方向)一部は西又は西北即ち南支那、印度支那に入る。颱風の襲來は警報で知り得るが、海嘯又はウネリの出現でもこれを豫知し得る。

天氣豫報と警報 日本では日本朝鮮、支那にある四十個所から來る觀測資料と、海上から來る無線電報に依つて天氣圖を作り豫報するのである。暴風雨の警報には全國と地方と二様ある。農漁業者、旅行者、航海者、航空家などはこれにより被害を免れることができる。又長期豫報といふものがある。例へばインドの夏の天候がアルゼンチンの春にその反對に現はれることにより豫知し得る如きことである。ブラジルとハワイ、ケーブ等とも不思議な關係にあることが判つた。北太平洋でもぼつ／＼さうした研究の結果が現はれかけてゐる。氣象は貿易業者が輸出先の氣候に適する物資を送るため

土地の色別け

太平洋をめぐる土地、太平洋中に散布する島々は、十六世紀の初頭から逐次西洋人に征服され、その大部分は彼等の領有に歸してしまつた。もつとも初め歐洲よりは交通不便統治にも困難であつたので利益が伴はないところから、強ひて主權を争はぬ風もあつたが、一八〇〇年代頃より植民地獲得の競争が漸く繁くなり今日の色別けを成形するに至つたものである。

アジア方面

シベリア ロシア人は土地侵略、經濟的慾望殊に毛皮を得るため、十六世紀の末葉シベリアに進出し、十七世紀の初めオホツク海につき出て、つひに太平洋に姿を現はしたものである。黒龍江州、沿海州地方は一八六〇年英佛との講和に口をきいたのみで支那から獲得した土地である。

特別記事—太平洋問題

にも必要である。然らざれば大なる失敗を招くことがある。(ロシアへの露露の如き)他國の企業などにも第一に氣候風土の研究が欠くべからざることである。海流 航海家漁業者などの心得ねばならぬものである。海水は地球の回轉、寒熱、風向、海水の比重等種々の關係に因つて赤道より極地の方向に流動する海流と、極地より赤道の方向に反流する海流とによつて流れる。太平洋の海流は種々の原因でその方向が複雑である。西太平洋は一般に無數の島嶼が散在するので流速に大なる影響を與へる。

赤道に沿ひその南北に東から西に平行して流れる二海流がある(この中間にこれと反對に流れるのが反赤道海流)北赤道海流は西方に進みフィリッピン群島につき當ると北方に折れ快速力を以て日本の南海岸を流れる。これが有名な黒潮である。その支流は對馬海流となり日本海に入る。カムチャツカ海流(寒流で一名親潮)は北極より南流し千島列島に沿うて日本本土に向ひ東海岸に沿うて南下し、暖流たる黒潮と三陸沖で衝突し、寒流は暖流の下に潛入し、黒潮は東に折れて北米沿岸

につき當りカリフォルニア海流となり、メキシコ附近で北赤道海流に返へる。南太平洋に起る南赤道海流は南東貿易風のため西方に進みニュギニヤ、濠洲東岸に觸れて南に折れ、濠洲海流を生じタスマニヤと新西蘭との中間で南極より來る寒流と會し東方に流れた後、南米南端に近づき二分して支流は南米南端を廻り大西洋に入り、本流はペルー海流(一名フンボルト寒流)となり南米西岸を北上して南赤道海流に返へる。その一分流はエクワドル、コロンビヤの海岸に沿ひ北進しパナマ灣に向ふ。反赤道海流は南北赤道海流に誘發されて生ぜし反流である。この外小海流が各方面毎にあるのでその状況を知り航海その他にこれを利用することを忘れてはならない。

海流と氣候 海流は氣候に大影響がある。太平洋洋流に日本の暖いのは近海を黒潮が流れるからである。北アメリカ西岸の溫暖なのは黒潮の影響である。南米の太平洋洋流はフンボルト寒流のため熱帯地方にありても暑氣を和らげ清涼である。海流は水運とも深き關係がある。日本には寒流あり暖流あり寒暖流の交錯もあり魚介海産等水運の天恵が世界第一

日本

世界唯一の光榮な國土といふだけで十分であらう。その中樞太は明治八年ロシアに譲與したが、明治三十八年日露戦争の結果果南半部は帝國の有となつた。朝鮮は明治四十三年帝國と合同一體となり、台灣は明治二十八年日清戦争の結果日本のものとなつた。

支那

十四世紀ころには北は黒龍江州以北より東は朝鮮、台灣南は安南、シヤム、ビルマ、スマトラ、ジャバア地方まで征服してゐたが、十八世紀以來漸次四方より蠶食され今日の狀態となつた。

佛領インド支那

宋の仁宗が交趾郡王の孫を封じて安南と名づけたものだが、フランスがインドをイギリスに譲り、その代りの寶庫として支那に目をつ、安南を足溜りとするため侵略の手を染め一八八三年完全にフランスの保護國となし附近の土地をひろめた。シヤム 一時ビルマに亡ぼさ

軍備は相對的であるから英米がその勢力を減すれば日本もこれに應じて軍縮するにやぶさかでないのは勿論である。要するに海軍は戰略上からは勿論國際政略上にも重大な關係を有するものである。大和民族は太平洋の平和維持に努むると共に太平洋に發展のため常に列國の海軍について注視を怠つてはならない。

- 主力艦—十隻、二十八萬九千三百餘ト
航空母艦—大小四隻、六萬七千七百八十ト
巡洋艦—一萬ト、型八隻、七千五百ト
型四隻、輕巡二十八隻約十六萬二千ト、合計二十七萬ト
驅逐艦—大小百四隻、十二萬三千ト
潜水艦—大小六十九隻、七萬七千ト
(以上一九三一年末までの計畫)

マレー群島

マレー群島とは米領フィリッピン、英領ボルネオ、蘭領インド等の總稱である。フィリッピン マゼランの發見以來スペイン領であつたが、米西戦争の結果一八九八年アメリカのものとなる。ボルネオ 十六世紀の末主としてオランダの征服地であつたが、南部の大半は依然蘭領なるも、北部はイギリスに奪はれた。

蘭領インド

マレー諸島の大部分でスマトラ、ジャバア、プロレス、チモール等より成るスンダ列島およびボルネオ(前記)、セレベス、パプア(ニューギニア)西半部並その間に横はる大小幾十の諸島である。一五九五年オランダ人がジャバアに來りポルトガル人を逐ひまくり、一六〇〇年蘭領となつた。ポルトガル領として残るものは僅にチモール島の東半部のみである。

太平洋

濠洲、ニュージランド、タスマニヤおよびその附近諸島とメラネシア諸島、ミクロネシア諸島、ポリネシア諸島等太平洋上の諸島嶼を加へた總稱でその大部分



は赤道以南に位置する。

**濠洲** 初めオランダ人が探検したが、オランダもフランス、イギリスも不毛の地として顧みなかつた。イギリスが注目しはじめたのは一七六九年クックが英國旗を立て、からで、開發に着手したのは北米獨立後その代りの土地を得んとしてシドニー卿が移住事業をはじめたときからである。

**ニュージーランド** 最初の発見者はオランダ人タスマン、一八四二年イギリスが植民地をはじめた。

**タスマニア** タスマンがハワイに艦の命を受け大陸の探検に出て濠洲を発見せずタスマニヤを発見した。風光明媚の地である。

**メラネシア諸島**—の歸屬は大要次の如くである。  
**バヌア(ニューギニア)** 一五一一年オランダ人の発見、スペインもその一部を領したとあるが一七九三年イギリスは東南部を、一八二八年オランダが西部、一八八四年ドイツが東北部を併合した。ドイツ領は大戦後イギリスの委任統治となる。

**ビスマーク諸島** 元フランス領、後ドイツの手に歸し、今はイギリスの委任統治、土人の一部に白人の風がある。

**ソロモン諸島** 一五六七年スペイン人の発見せるもの一八九三年イギリスが南部の大半を占め、北部はドイツ領であつたが、大戦後イギリスの委任統治。

**ニューヘブリズ諸島** 英佛との領を争つたが、一八七一年兩國協定共同保護とした。

**ニューカレドニア** 一八四三年フランス人占領、囚徒の濠洲所となつてあつた。

**マリヤナ諸島、カロリン諸島、マーシャル諸島** に分け、マリヤナは一五六五年スペインが占領し、一八九九年カロリン諸島と合せてドイツに賣却した。マーシャル諸島もスペインの発見後ドイツに占領されたが、何れも現在日本の統治下にある。

**グワム** はマリヤナ諸島の主要なるものだが、一八九八年アメリカがスペインよりこれを奪つた。

よりこれを奪つた。

ポリネシア諸島—は赤道の南北にわたり太平洋の中央部に廣く分布するもので、その数が頗る多い。比較的大なるものはハワイ、サモア、フィジーなどである。

**フィジー諸島** 一六四三年タスマンの発見、一八七三年イギリス領となる

**サモア諸島** 一七六八年フランス人來航、後アメリカは東方のツウィラを、西方のウポル、サヴァイはドイツの有であつたが、大戦後ドイツ領はイギリスの委任統治となる。

**ソサエター諸島(タヒチ)** フランス領で風光明媚の健康地、太平洋上の樂園と稱されてゐる。マルキーズ、パウモツ群島も佛領である。

**フエニツツクス群島、ファンニング諸島、バルミラ島** 何れもイギリス領。

**イースター島** チリ領一七二二年オランダ人の発見で珍しい石像の遺跡がある。

**サンドウィッチ諸島** 十六世紀の中葉スペイン人の発見で後クック來航ロシア人、アメリカ人も入り込み、つひにアメリカの勢力加はり一八九八年アメリカに併合された。

ミッドウエー島 一八五九年の発見でアメリカ領である。

**北米** 一四九二年コロンブスの発見(實際はプロリダ半島の突先地方)以來歐洲人争つて來航、主としてフランス、イギリス、スペイン人が各地に分れて地歩を占め、勢力擴張に努めたが、つひに今日の狀態となつた。

**アラスカ** 一七四一年ロシア人探検その領となつてゐたが、一八六七年七百二十万ドルをもつてアメリカが買収した。未開の大寶庫である。

**カナダ** 一六二八年イギリス人はじめに上陸後フランス人も植民したが、一七六〇年境界争ひでフランス軍破れ、イギリス領となつた。

**アメリカ合衆國** 一七七六年

東海岸十三州に占據して獨立を宣し七年の後その目的を達し、後戦争に買収に領土を擴張し、一八四八年大西洋岸より三千哩の大陸を横斷して太平洋岸にその雄姿を現はしたものである。而してその隆々たる余勢は—更に茫々たる太平洋の波濤を蹴つて極東にまで伸びるに至つた。

**メキシコ** 一五一七年スペイン人占領し、一八二一年本國と戦ひ獨立したものである。領域の大半はアメリカに奪はれ現在の如くなつた。

**中米** 一五〇二年コロンブスの発見したところ、スペインの植民地であつたが、一八二三年獨立し、七ヶ國に分れてゐる。何れも豆大の小國のみで太平洋に面してゐるのはグアテマラ、サルバドル、ニカラグア、コスタリカ、パナマである。各國共アメリカの勢力に壓せられ殊

にパナマはその國同様である。

**南米** 世界に未開發の寶庫同多く存するも、その最も新しく、かつ廣大な富源を蔵するところは南米である。本洲は一四九八年コロンブスの発見したもので、それは大西洋岸のヴェネゼラであつた。一五〇〇年ポルトガル人がブラジルに入り、次いでスペイン人がメキシコ、中米、コロンビヤ、ペルー、チリ、アルゼンチン地方を占め植民地とした。故に南米は殆んどスペインとポルトガル二國の植民地であつたが、共に植民政策を誤り人民を虐殺搾取するため何れも本國に反

き獨立分離するに至つた。

現在太平洋に面するものはコロンビヤ、エクアドル、ペルー、チリの四國のみであるが、ブラジル、アルゼンチンをはじめ、南米は全體的に太平洋問題に關係があるから次にその全部を概示する。

**コロンビヤ** 元スペイン領一八一九年獨立戦に成功したもので、國語は西語。西語である。

**エクアドル** 元コロンビヤの一部一八三〇年分離して獨立共和國となる。

**ペルー** 一五三三年スペイン領であつたが、一八二二年反旗を掲げ獨立したものである。昔から日本と交渉が深かつた。

**ボリウイヤ** 一八〇九年獨立運動を起し、一九二五年獨立した。

**チリ** 一八一八年スペインより分離して獨立共和國となる。

**アルゼンチン** 元スペイン領、一八一六年獨立して共和國となつた。日露戦争當時わが軍艦日進、春日はこの國より買収したものである。わが國に好感を有してゐる。

**パラガイ、ウルガイ** 二國共スペインより獨立分離した國である。

**ブラジル** 元ポルトガル植民地であつたが、一八二二年獨立宣言一時王國となせるも、一八九一年共和國となる。

**ヴェネゼラ** 一八二九年コロンビヤより分離せる國。

**ギアナ** ポルトガル領であつたが現在は英佛佛の三國に分割された。

**話題集** 土人の戦争 ニューギニアの土人の戦争は他の土人部落を襲撃するときに警官隊と戦ふ場合とである。戦争の間婦女は森の中にかくれてゐる。時には女も木太刀を持つて戦ふこともある。部落の外には必らず廣い空地があるがそれは凱旋したときの踊り場である。そこに取つて來た首がずらりと並べられるのだ。首狩は一つは彼等の武勇を示すためと、一つは女共の歡心を買ふためである。戦に勝つとホラの貝を吹き鳴らし凱旋する。女共はそれを歡迎して祝の踊りに狂ひ、取つて來た首の肉は食つてしまふのである。女共の熱狂は性の狂はしき表現である。

**女房交換** ニューギニアの蕃



人中には女房を交換する風がある  
女房共は普通のことと思つて観念  
してゐる。藩界では太鼓や獨木舟  
は大切なもので貝大齒などがその  
代金として交易される。

パナマ帽 パナマ帽といふけ  
れどもパナマで造られたものでな  
く、實はコロンビヤ、エクスアドル、  
ペルーで造られるのである。もと  
は田舎者や土人用として造つたも  
のだが、歐洲人の氣に入り世界中  
に擴つた、生産額の八割はアメリ  
カに行くさうだ。

パラオ(日本委任統治)土人の出征  
昔は猛烈に戦つたものである。戦  
争を始めるには先づ重なる土人が會  
議を開き祈禱をなし、それから土  
人の動員召集をやり祭典、訓示、  
編成、出征祝などの秩序ある方法  
を踏んだ。面白いのはよくよく出  
發といふ場合に各自の拳銃を握つ  
て臆病かどうかといふことをため  
したことである。縮んでみれば臆

病、だらりとしてるのが勇敢なも  
のと區別とされ、臆病者は舟番と  
して残し戦に出ることは許されな  
かつた。

太平洋島嶼の種類 海中に散  
在する島嶼に火山島と珊瑚礁  
と二種類ある。火山島は通例大き  
く怪岩奇峰突出しトンガリ、フィ  
ジー、ハワイ等はこの種類に屬す  
る。珊瑚礁は小さく甚だ低い。そ  
れは島の廻りに生棲せる珊瑚虫が  
本島が沈下してもそのまゝ残り環  
状の島を成形したものである。赤  
道に近い島は大抵珊瑚礁である。

白人の悪虐 太平洋諸島の土  
人に對し白人は掠奪強姦あらゆる  
悪虐を振舞つたものである。又惡  
疾を流行感染させて土人を苦めた  
ことも甚大なものである。けれど  
も一方でも白人宣教師が危険の中  
に入りて土人の教化指導に拂つた  
努力と犠牲も偉大である。  
太平洋中の美人島 サモア群

島の土人は容貌風采優美でことに  
婦人の容色が美しくかつ温良であ  
る。ソサエターの土人にも美人が  
多い。

女房共産 マルケサス島は群  
婚制度が行はれ妻は兄弟骨肉の共  
有であつて夫は妻の姉妹に對して  
木戸御免である。資産家の娘は夫  
二人を有してゐて一人は控の夫で  
ある。本夫が家にゐるときは控の  
夫は奴僕の仕事を勤め、本夫が留  
守になるとお室の御用を承る。

蘭領パプアの青年男女 思春  
期が來ると髪を剃らせて男女の隔離  
を解き彼等の思ふままに任せる、  
マーシャル島では女兒が年頃にな  
ると小屋に引籠り齋戒して一定の  
期間を過ぐれば饗宴を張りその夜  
列席者中の最長老が蜜の花を散ら  
す權利を與へられるのである。

食人土人 フィジー島の土人  
は人肉は豚肉よりうまいが、白人  
の肉は煙草と鹽とが浸み込んで

て味が劣ると氣味の悪いことをい  
ふさうだ。人肉を食ふときには、  
地を掘つて穴に石をしき重ね、そ  
の上に火を焚き赤くなるのを待つ  
て胴體を重ね、上から木の葉を一  
尺程積み重ねその上に土をかけ蒸  
焼きにするのである。

珊瑚の大運河 濠洲タインス  
ランドの海岸に沿うて沖合に珊瑚  
虫は一千百餘年の長い巢を造り濠  
洲航路の防波堤を築き一大運河を  
成形してゐる。濠洲通ひの船が四  
五日間もこの虫の築造した運河を  
航行するのだから奇である。

濠洲の珍土人 北部に住んで  
ゐる土人は世界最下等と稱せられ  
殆んど獸的生活である。剃髪で争  
鬪を好み、相手を見ると直ぐか  
つて來るが、白人には先祖の幽靈  
が來たとおとなしくしてゐると  
いふ。この土人不思議に動物の如  
く鼻が非常に鋭いので鼻袋では  
罪人の退路に使用してゐるさうだ

### 金解禁問題

昭和二—四年間の發展

昭和三年初頭乃至四年上半期中の  
わが經濟界は、ひたすら金解禁問  
題を中心不安動搖を續けた。新  
聞雜誌の記事、小冊子、書籍等經  
濟關係の出版物で、この問題のた  
めに書かれたもの、數は殆んど枚  
舉するに遑がない。しかも何故か  
ゆゑに、この期間において、この  
問題が、かくばかり人々の關心事  
となつたのであらうか？人は解決  
し得る問題のみ問題とする。昭  
和二年の金融大恐慌後、わが經濟  
界は漸く更生の途に上つたのであ  
るが、その創痍が癒着するにした  
がひ徹底的回復のためにはわが貨  
幣の對外價值の安定が何を置いて  
も必要なることが明らかになつて  
來た。わが國經濟の全機構に斷に  
ざる不安と動搖を與へる爲善相場  
の一高一低——これはたゞ金解禁

問題の解決によつてのみ克服し得  
る。かくして解禁論は前面に現れ、  
この期間における經濟界の中心問  
題となつたのである。

昭和二年末イタリーの解禁をうけ  
て、新年早々爲替が眼まじしい回  
復を示すと、ともに、恐慌善後た  
め一時影を没してゐたわが國の解  
禁問題も各方面においてぼつ／＼  
論議され始めた。その後三年三月  
の東電外債成立氣構へによる爲替  
暴騰の際にも海外投機筋は解禁遠  
からずと見て策動を始めた、國內  
においても東京交換所の經濟調査  
會は三月廿八日に該問題の調査を  
申合せ四月廿三日幹事からその結  
果を報告したが議纏らず、一般銀  
行家のこれに對する態度も未だ至  
つて不鮮明であつた、しかるに海  
外では、四月にノルウェー、五月  
にギリシヤと相率ゐて解禁を斷行  
し、各々國際經濟の常道へと復歸  
してゆく。——

こゝにおいて本社經濟部は大朝  
經濟部と提携し、この當然にして  
しかもいたづらに躊躇せられつゝ  
ある運動の前面に炬火をかざして  
まづ金解禁問題懇談會を六月廿二  
日に開催、出席者大部分の即行意  
見は直ちに金解禁準備調査會の成  
立となつた。この二日後フランス  
も遂に平價切下げの解禁を聲明し  
た。六月には當時即行反對の頭目  
と看なされてゐた井上準之助氏日  
銀總裁を辭し土方氏がこれに代つ  
た。かくして各方面に調査研究の  
進められつゝあるうちに八月の爲  
替大暴落となり遂に四十四ヶ半と  
いふ市中相場があらはれた、三土  
蔵相は九月一日の東京における講  
演で、解禁の條件は今や支那問題  
の解決と爲替相場の回復にかゝる  
と論じ、五月の大坂の手形交換所  
大會における演説に比しはるかに  
積極的な意見を發表した。この結  
果、解禁近しと爲替相場は奔騰し

經濟界はひたすら當局の態度を注  
視してゐたが、だゞ調査を進めつ  
つありとのみで一向具體的準備の  
進められる模樣が見えず、爲替は  
投機の波に翻弄せられ貿易の不振  
に當業者は悩みつゞけた。これを  
見て、久しく沈黙を守つてゐた東  
京交換所の經濟調査會は、その内  
幕では依然たる遊資處分難の打開  
策とか、種々自分勝手な理由があ  
つたにしろ、この暗澹たる經濟界  
に光明を投ずるは解禁斷行に如か  
ずとなし、政府に對する即行要望  
を南場一致で可決した。次いで大  
阪交換所側もまづ口火を切つたの  
は大阪側である關係上直ちにこれ  
に同意し、廿三日には東西手形交  
換所の即行決議および政府に對す  
る「即時金輸出禁止を解除せらる  
べし」といふ急進的な建議書の提  
出となつた。これと前後して商工  
會議所側でも論議を重ね廿六日に  
は日本商工會議所として即行要望



の建議書を提出するに至つた。この他、銀行業者、工業クラブ、東京實業組合等もそれ〴〵調査研究を進めつゝあつた。また重金論者高橋是清翁も解禁論に傾いたと傳へられ、爲替は暴騰を續け、經濟界には解禁気分が横溢した。

しかし當局は何ら準備を進めつゝある様子もなく十一月十三日、大阪の關西銀行大會における三十蔵相の演説は注目的となつてゐたが「たゞその時機を誤らざらんことを期す」とのみで極めて漠然たるものに過ぎなかつた。この席上土方日銀總裁は全然問題にふれずその後西下した深井副總裁も日銀の態度を明確に發表しなかつた。かくして昭和三年における解禁論の再燃も結果においては經濟界をいたづらに動搖せしめたのみで未解決のまま翌年に持越されることとなつた。この間政黨方面においても、民政黨は政友會内閣の解禁

に對する無策を指摘して必らず自黨の手によつて斷行さるべしと宣言し、舊實業同志會(國民同志會)は各地に講演會を開いて問題の關明と機運の促進に努めてゐた。越つて昭和四年、貿易轉換期が近づくとともにどこからともなく解禁の切迫が話題に上り初め、經濟界は妙に色めき立つて來た。四月十二日の全國手形交換所大會懇親會に臨んだ三十蔵相は近く斷行を決意したかの如き口吻を洩らし、殊に中橋商相の言動は明かにこれを裏書するかの如く見えた。これを傳へて先づ脅へ上つたのは證券市場でほとんど半恐慌状態に陥つたが、爲替市場は案外無關心な態度を示し、相場は昂騰も著しくなかつた。むしろ滑稽に感ぜられたのは三年十月に即行決議までした銀行家が、かへつて政府に反對の態度をとり資本家根性を全國民の前に自ら曝露したことである。

しかし、かゝる情勢にも拘らず三十蔵相は引つゞき解禁に對する積極的意見を吐いてをり、一時は政府内でもあらゆる政策の失敗による不評を一掃し人氣を轉換させたため即行の計畫が進められつつありと傳へられたが、經濟界の混亂が余りに甚だしいためか、或は銀行家その他のいはゆる財界巨頭連および自黨内の有力者等の反對が強硬なるためか、五月末に至つて政府は遂に即行の計畫を放棄した。その後一ヶ月、田中内閣は遂に倒壊した。結果から見ればこの内閣はたゞ解禁を口にしたのみで何ら具體的な對策を講ぜず、いたづらにわが經濟界を擾亂したにすぎなかつた。爲替は露骨に不信任相場を現出し、四十三円台に落ちてゐた。——後を襲つた民政黨内閣には衆望が集まつた。まづ財政の緊縮、國債の整理、金解禁の斷行、社會政策的立法および施設等

そのかゝげにスローガンはまことに室々たるものであるが、そのスローガン自體のうちには幾多の矛盾を藏してゐるのは疑ひもない。しかし財政の緊縮と國債の整理、陸相に据ゑられた井上準之助氏の解禁論における轉向等、解禁斷行の日近きを思はせるには十分である。爲替相場は組閣後一ヶ月にして實に三つの回復を示した、經濟界各方面においても現内閣の手によつて解禁せらるべきを信じ、着着と準備を進めつゝある。かくして漸く解禁斷行の機運は熟した。わが國貨幣の對外價值安定化——國際經濟常道へ復歸の日は遠からず來るであらう。

○ふぢうつき(馬錢科) 山野河邊等に自生する草本。葉薄くにして高さ二尺乃至五尺。葉は四角形をなし、縁鋸を有す。葉は披針形又は長卵形にして對生す。翌日多數の紅紫色唇形の筒狀花を穂狀に懸る。全體に毒あり。

# 經濟

多年日本に駐在し、日本經濟界の實地研究に従事しをれる英國商務官サムソン、マツクレー兩氏が、昨昭和三年六月末日附にて、その本國商務省に送致せる「日本の經濟情勢に關する報告書」は、兩氏の周到なる研究と熟達せる判斷力とにより、日本經濟界の實體を正視しその實勢を描出せる點において、この種報告書中稀に見る好著述として推賞するに足るものであるが、この報告書中において彼等は、過去二三十年間における日本の偉大なる經濟發展を稱讚した後「これ他の競争國が永い間の幾多の苦い試練と失敗とによつて得た知識を直ちに取入れてその成果を得たからである。従つて一方においてそれは大きな不利益ともなつてゐる。何となれば總て何事にも自ら體驗するに非ざれば修得され

ない重要な知識があるからであつて、最近數年間の日本經濟史は、この眞理の適例を提供するものである」と指摘し更にまた「主として精力と技術的知識を要する方面においては日本は素晴らしい發展をとげた。これは何人もその製品の種類とを二十年前に比較するならば極めて鮮明に認め得るところである。然しながら經營者の精力および技術的知識のみならず一般社會の商業および財政上の經驗を必要とする場合には必ずしも成功を收めたとはいはれない。この事情は一九二〇年以後現在にわたる連續的の財界動搖によつて端的に明示されてゐる」とも斷じてゐるのである。

更生か破滅か 英國商務官のからした觀察に對し本文の記者は敢て何等の取捨を加ふる事なく、少くも今日までの日本經濟界の大勢はこの通りであつたと首肯するつもりである。該商務官は「一九二〇年には二大銀行が

破綻を暴露し數個の大商會社が事業の運轉を阻止された。かくて株式および商品取引所は數週間にわたり立買を休止し、政府は二億四千六百万円の救済金を放出するに至つた。一九二二年には株式および商品仲買商が破産し數個の小銀行が没落した。一九二三年には大震災の結果基礎薄弱なるものを益々困難に陥れ遂にモラトリアムが布かれねばならなかつた。一九二五年には大商會社が破産し三千万円の損失を暴露した。一九二七年には未曾有の大金融恐慌が起つた。幸にも今後多數の人々は、これ等恐慌に因つて明るみへ出された組織の缺陷を認識し來り、漸次之が改革に努力を傾注するに至るであらう——」といつてもをるのであるが、事實全くその通りであつて、現に田中内閣の後を承け、金輸出解禁の大事敢行を目標に、財政經濟の徹底的整理を實行すべく出現した濱口内閣の各閣僚は、異口同音に「多少の犠牲を拂つて

も今日徹底的の整理緊縮を斷行せざらんば我國の財政經濟は最早破滅の他ない危機に臨んでゐるのである」と叫んでゐるではないか。さうしてまた「要するに伸びんがため一時縮こまるのだ。不景氣といへども光明へ直面してゐる不景氣なのだ。金解禁の必ず決行されなければならぬゆゑに想到し各人その準備に遺棄なきを期せよ」とも呼號してゐるのである。然も大多數の財界人は、英國商務官のいはゆる「一般社會の商業および財政上の經驗を必要とする場合には必ずしも成功を收めたとはいはれない」その經驗の薄弱に加ふるに、金解禁そのものに對する理解の不徹底から、金解禁準備時期における一種の不安時代を現出し、證券も諸物價もいふところの不安相處に脅に切つてゐる。知らず知らずの難關を打開すべくどれほどの忍耐と努力がさうした人々に要求し得られるであらうか。極端にいへば破滅か更生かの岐路に立つてゐ



るが我經濟界の現状なのである  
財界の基本的動き 前記英國  
商務官はまた曰く「日本經濟界の  
飛躍的進展は同時に恐るべき危険  
を胚胎せしむることになった……  
一九一四年より一九一九年に互  
人為的繁榮期以後において日本は  
幾多の財界恐慌に遭逢し、病膏盲  
に入つて遂に一九二七年には殆ど  
潰滅に近き大倒壊が起つた。しか  
もこれ等の事件の勃發は敢て怪し  
むに足りないのである。第一、日  
本の重要産業は國際市場より供給  
される原料を多量に買付けねばな  
らぬ——例へば棉花、羊毛、砂糖  
の如き——然るにこれ等の商品は  
供給量の變動で價格騰落の巾が大  
きい。且その賣買については他國  
に比し更に大規模の恐慌の要素が  
錯雜してゐるのである。斯くして  
その自然の結果、新事業の發展に  
は強い恐慌の要素が働くことにな  
る。この事情は日本經濟界の發展  
途上における現階段を最もよく特  
徴づけるものである。それがため

企業組織は殆ど危険の程度にまで  
信用組織に依頼してゐる。しかし  
その信用組織たるや、周到なる傳  
統、強力なる中央機關によつて強  
調統制されたものでない。そこで  
貿易への打撃は直ちに金融組織に  
直接の影響を及ぼし、且その打撃  
の深刻なるにおいては、産業はこ  
れに抵抗し得ないから、従つて金  
融組織は全く破壊されてしまふの  
である。勿論等々といへども我  
國の經濟組織には多く缺陷の存  
在せるを否むわけにはゆかない。  
就中その最も重大なるものは、金  
融および信用機關の組織に關する  
缺陷である。昭和二年の銀行騒動  
以來、成程多數の弱小銀行は淘  
汰せられ、現存銀行の基礎は著し  
く強度を加へ來つたやうである  
が、しかし事實その勢力を増大し  
來つたのは、ある限られた少數の  
大銀行だけであつて、自余の多數  
銀行は凋落的傾向を辿りつゝあり  
とまではいへぬにせよ、とに角  
著しくその活動範圍を狭められ來

りたるは否認すべからざる事實の  
やうである。例へば全國約一千の  
銀行における預金總額約六十一億  
円のうち、約廿二億円は東京、約  
十五億円は大坂にあり、加ふるに  
總額の六割強を占むる東京、大阪  
兩地の預金も實は三井、三菱、住  
友、第一、安田等限られたる銀行  
がその大部分を占むるといふ有様  
であつて、いはゆる金融の偏在的  
傾向は、地域的にもはたまた銀行  
數的にも酷い勢をもつて増大され  
來つてゐるのである。「金融資本  
論」の我國に據頭しかけたるまた  
當然なりといはなければならぬ。  
しかもその結果はどうであるか、  
第一に困つたのは中以下の諸銀行  
である。少數大銀行はその偉大な  
資力を縱横に活用し、今日の如  
く金融の警戒時期における唯一の  
投資物件たる第一流實社の社債額  
は、根こそぎこれを獨占してしま  
ひ、二流以下の多數銀行は、強ひ  
て放資の利率を高めようとすれ  
ば勢ひ若干の危険を冒さなければ

ならず、旁々相打ちて我金融界は  
變則的金融緩慢状態を、層一層助  
長せしめつゝある一方、一たび金  
融繁榮時期に遭逢せんか、金融機  
關の大半は世人の想像以上なる急  
速度をもつて資金硬塞の絆に縛ら  
れてしまふことになるだらう。第二  
に困つたのは中小商工業者であ  
る。この問題に關し前記英國の商  
務官は、その報告中に次の如く述  
べてゐる。曰く「最近の日本の買  
易および産業の全機構は、少くも  
も信用膨脹によつて危険な状態に  
あるものとはいはれない、蓋し過  
般の銀行恐慌による最も大きな苦  
痛は、日本財界において重要な  
役割を演ずる中小商工業者の金融  
機關の没落である。今後彼等の資  
金調達に円滑にならざる限り、そ  
の全能力發揮は困難である。され  
ば今後地方小銀行の更生またはそ  
の他何等かの資金融通策の講ぜら  
れざる限り、全體的復興は困難  
であらう……」と。この他なほ數  
ふれば、單に金融方面のみならず

産業、商業その他經濟界全般に亘  
りて大小種々の缺陷はあるのであ  
つて、かうした缺陷が除去せられ  
ざる限り、わが經濟界の名實一如  
の立直りは出來ないかも知れない  
が、そこまで突詰めて考ふること  
は暫くこれを差控へ、たゞ總括的  
に經濟界そのもの動きを注視す  
れば、一昨年よりは昨年、昨年よ  
りは本年と至つて徐々ではあるが  
等しく不景氣とか不振とかいふ内  
にも、幾分かづゝぢり／＼に好轉  
歩調を進めつゝある事實が看取せ  
られぬでもない。その第一は對外  
貿易の内容改善である。

輸出貿易の好轉 昭和四年上  
半期中の我對外貿易(台灣、朝鮮  
等)は、輸出十億四千万円(概算以  
下同じ)輸入十三億八千万円(引  
輸入超過三億四千万円)で、これを  
前年同期の輸出九億七千万円、輸  
入十二億六千万円(引輸入超過二  
億九千万円)に較ぶれば、輸出は僅  
に七千万円を増加せるのみなるに  
輸入は一億二千万円も増加せるが

ため、差引入超過においてもまた  
五千万円の増加を余儀なくされて  
ゐる。従つて單にこれを總括的數  
字の上だけから観るならば、昭和  
四年度上半期の貿易成績は、輸出  
増加の不振、輸入並に入超過の増  
加躍進といふ結論となり、前年同  
期に比し寧ろ悪化するものと斷ぜ  
ざるを得ないであらう。しかしな  
がら要は質の如何にあつて形の上  
ではないといふ見地から、竿頭一  
歩を進めてその内容に立入るなら  
ば、吾等はこの數字の基礎をなす  
ところの實情には、少しの悲觀す  
べきものあるを發見せず、寧ろ却  
つてその好轉傾向の相當に顯著な  
るの事實を看取せざるを得ないの  
である。即ち先づ第一に、これを  
重要輸出品の消長について見る  
に、前年同期に比し減退せるもの  
は、マツチの約三割減、精糖の約  
二割減、水産物の約一割五分減を  
主とし、その他米および小麦、ビ  
ール、織物、食物、石炭、ポタン、紙  
類、硝子および同類品等が若干の

減退を示せるのみで、上記十種を  
除ける他の重要商品十九種はいづ  
れも何ほどかづゝの増進を示して  
ゐるのである。就中本邦輸出品の  
兩大關とも稱すべき生糸ならびに  
綿織物は金額のみならず量におい  
てもまた順調の増加を示し、これ  
に次ぐ絹織物、綿糸、陶磁器、小  
麥粉等の大口物もそれ／＼相當の  
成績を収め得てゐるのである。殊  
に吾等の人意を強うするに足ると  
思ふは、これ等の重要輸出品中、  
北米合衆國を殆ど唯一の輸出先と  
する生糸を除く他の大部分が、旅  
商の派遣または海外見本市の連續  
的開催等商人諸君の不斷の努力に  
よつて、舊來の限られたる市場の  
みならず、近來小アジア、中米、  
南米、アフリカ等いはゆる吾等の  
新市場に漸次その捌け口を開拓し  
つゝある一事である。勿論現在の  
ところその奏効の程度たるや、未  
だ微々として多くいふに足らぬか  
も知れぬが、核心に達せんがため  
には先づその外皮を開かなければ

ならぬ。しかも吾等はすでに外皮  
を開き皮下層を通じ、やがて肉に  
入り核心にもおよばんとしつゝあ  
るのである。吾等が輸出増進の  
比較的少きにも拘らず、敢て輸  
出貿易の好轉傾向にあるを説くゆ  
ゑんの一もまた即ちこの點に存す  
る。若しそれ金の輸出解禁準備時  
期並に解禁後國民一般が國內  
物價の一般的低下に精進せんか、  
爲替騰貴による一時的輸出の停頓  
などは毫も怖るゝに足らず、輸出  
貿易好轉の度合ひは寧ろ目を逐う  
てその強大を加へ來るであらう。  
輸入増加の主因 昭和四年上  
半期の輸入額は前記の如く、前年  
同期に比し一億二千万円の増加と  
なつてゐるが、その増減の内容を  
一瞥すれば、この増加は悦ぶべし  
とはいはれざるも少くも當然の結  
果であつて、必ずしも多く意に介  
するの要なきを發見するであらう  
即ち輸入増加の原因は、棉花の約  
七千四百万円、機械類の約千八百  
万円、鐵の約千三百万円、豆類の



約九百万円、硫安の約八百万円、並に小麦の約四百万円、石炭、鐵の各約三百万円等を主とし、その他生ゴム、苧麻類、磷礦石、パルプ、鉛、石油、綿織物、皮類等の數種がそれ々若干の増加せるがため、その他の十三種はすべて減少してをる。しかし上掲輸入増加品は、これを一覽すれば直ちに判明する如く、いづれも本邦産業を發達せしむる上において重要な役割をつとむる原料品乃至原動力の範圍に屬する種類のものである。強ひて難をいへば、綿織物などは如何かと思はれぬでもないが、これはその範圍が特殊のものに限られ金額もまた一ヶ年を通じて七百万円内外に過ぎず、且またその輸入趨勢を見るも金巾、更紗、綿織子等すべてが年々漸減傾向を辿りつゝあり、やがて遠からず輸入の跡を絶つべきものゝやうである。なほ一言附加し置く要あるは棉花(上半年輸入額三億六千余万円)の輸入激増であるが、こ

れは前年特殊の事情により紡績筋の買付が手控へられた結果、昭和四年には少くも一億円内外は余分に買埋めしなければならぬものと前々より豫期せられてゐたのであるから、半期七千四百万円の増加は輸入時期の關係等から見て少しの不思議もなく、寧ろ豫期通りの途を踏んで豫期通りに増加したのに過ぎぬのである。以上の如く四年上半期の輸入は原料品または産業發達の原動力の性質を帯ぶる物品がその大半を占め、國民の内的生活に必要以上に豊富ならしめられたは實澤ならしむるが如き純消耗品は大部分漸減傾向を示してゐる。國內一般の不景氣も相當に原因してゐるとは否定出来ないが、とに角かくの如くにして輸入貿易の内容が、輸出貿易のそれと同じく漸次改善の緒につきつゝあるは、經濟界の前途を卜する者の注視しなければならぬ點であらう。

支那の排日貨運動 わが國際取引の現状は上述の如く、輸出輸

入とも大體において寧ろ順調なる歩みを歩みつゝあるものと見るべきであるが、たゞ一事わが貿易進展の上に一抔の暗影となつて、やゝもすればその前途に疑懼の念を抱かしむるものは例の支那の排日運動である。尤もこれを金額の上からのみいふならば、かの濟南事件以後急激に悪化した日貨抵制運動に奪かされつゝも、結局昭和三年中のわが對支貿易は輸出四億八千三百万円(前年分は四億二千五百万円)輸入三億八千四百万円(前年分は三億五千八百万円)で排日運動の猛烈なりし割合には大した打撃を蒙らなかつたのであるが反對に濟南事件その他の懸案が掃せられた昭和四年上半期には輸出二億六千万円(前年同期は二億七千万円)輸入二億二千万円(前年同期は二億一千九百万円)と、輸出入とも幾分かづつ減退してをる。そこで支那の排日運動の前途觀が問題になると、大抵如何なる場合でも樂悲兩様觀に分れる。樂觀論

者はいふ「支那の排日運動は要するに條約改正その他對日交渉を自己に有利に導かんがための一種の方便で、如何に聲を大にして日貨抵制を叫んでゐる際でも、彼等は矢張り彼等に必要だけの日貨を購ひつゝあるではないか。且また眞に日本の援助を必要とする場合例へば露支國交斷絶の際には、忽ち全國的排日運動の禁止令を出すといふ有様であるから、排日運動を確固不拔の根柢あるものゝ如く視るは、畢竟自ら妄像を描いてその妄像に奪かされるものである」と。悲觀論者はいふ「排日は支那人間においてすでに立派な一種の職業となつてゐる。政府官憲が如何に公然その禁止を命ずるも、もし事實上これを嚴禁すれば忽ち各地に何万、何十万といふ失業者を生じ、或は遂に由々しき大事を惹起するなきを保せざるのみならず、同時に中央地方政府の重要な財源を失ふことゝなるのであるから、我國が如何に支那に好感を

もつて臨むも、排日貨運動の根柢を期待するが如きは百年河清を待つと同じ愚に陥るべし」と。この後者のうちには支那事情通をもつて自他共に許されてゐる大谷光瑞氏や、大倉組の門野重九郎氏等がある。いづれの豫想が當れるかは暫く措き、とに角支那の排日貨運動がわが對外貿易の進展上、一種の暗影たるは否認し難き事實であるから、その影響の大小深淺は時と場合によつて異なるにせよ、とに角この現存の事實を事實として、われ等は排日貨運動に對する對策を考究する傍ら、緩慢ながら、とにも角にも改善の緒につきつゝある貿易の大勢に順應適處し、これが善導を誤りさへしなければ、わが經濟界の根本的立て直しも敢て難事ではあるまい。

經濟一概観

後の情勢について觀るに、例へば全國手形交換所加盟銀行の預金總高は、昭和元年十二月末日現在において五十七億七千七百万円なりしものが、二年十二月末には五十四億五千七百円に激減し、その後次第に回復歩調に轉じ、翌三年四月末には五十五億四千七百万円、同年十二月末には六十億四千七百万円と増加するに至つた。かかるに一方割引および貸出高を見るに、元年十二月末において六十一億六千九百万円を算するも、二年十二月末には五十四億五百万円に激減し、その後幾分か漸増歩調に轉じたるも、なほ三年四月末には五十三億五千六百万円、同年十二月末には五十四億四千三百万円に過ぎざるのみならず、同時に有價證券の所有高は元年十二月末に二十億二千五百万円に過ぎざりしものが、二年十二月末には二十三億六千六百万円となり、更に翌三年四月末には廿六億四千三百万円、同年十二月末には卅億七

千六百万円に激増するといふ調子で、かの金融恐慌後一般預金者の銀行に對する信用が漸次回復せるを示せる一面、銀行が割引貸出方面において嚴重なる警戒的態度を執り、その遊資はこれを努めて國債又は信用ある社債券類に消化せしめんとする傾向を生ぜる事實を看取し得るのである。その結果銀行が遊資處分の第一の捌口としてねらへる國債の如きは見る／＼激騰し遂に一時は額面以上の相場を現出し、第二の放資物件とし目ざられたる第一流會社の社債券また各銀行より引つ張りだことなる有様で、比較的短期物ではあるが某電力會社の相當纏りたる社債が、某銀行一手の引受けにて五分利額面發行といふ未曾有の低利で發行せられるといふ有様であつた。その後一緊一張は素より免れなかつたけれども、この情勢は大體において昭和三年一杯繼續し、同年中における社債發行計畫は四億五千二百万円(三井銀行調査)上ると

いふ有様であつた。この趨勢は今日全くその跡を絶つたとはいへないが、しかしこれを昭和四年上半期中の統計について見るに、この趨勢に漸次重大なる變化を來たしつゝある事實を看取せざるを得ない。即ち四年上半期中における事業計畫資本のうち、社債は合計一億八千百万円で、前年同期に比し二億七千万円を激減せるに反し、資本金は新設二億六千九百万円(前年同期に比し四千七百万円増加)擴張一億二千二百万円(同上二億七千万円減少)合計三億九千二百万円(同上千四百万円増加)を算するやうになつてゐる。この數字が何を語りつゝあるかを説く前にまづこの數字の内譯を各業別として示せば左の通りである(單位百万円△印減)

業	別	新設資本	擴張資本	社債
銀行	業	六	三	三
信託及金融業		六	一	三
鐵道及軌道業		三	三	三
航空業		七	一	二
保險業		一	一	一



倉庫業	五	三	一
水産業	三	一	一
農林及土地業	三	一	一
電気業	一	三	一
瓦斯業	一	三	一
紡績業	二	一	一
食料品工業	九	二	一
機械金属工業	五	二	一
雑工業	五	二	一
商業	三	二	一
其他	三	二	一
計	三六	三三	二八
前年同期比増減	四	三	三

昭和三年上半期においては、一時的に利安に乗じて舊高利債を低利債に借替へんとする社債並に既設債の整理的拂込計畫（主として銀行）が主であつたものが、昭和四年上半期にはそれ等が漸次一段落を告ぐると共に、資本の動きが未だ緩慢ながらも新設計畫方面に向けられて来たのである。換言すれば重面の整理一段落と共に、新興氣分の漸次擡頭せる興味ある現はれと認めざるを得ないのである。勿論整理の一段落といふも、それは要するに一種の大勢観に過

ぎぬのであつて、例へば金融恐慌に原因せる日銀の特融總額六億八千万円（外に官銀への融通額一億九千九百万円）中昭和四年三月末迄に回収せられたるもの僅に六千三百五十万円で過ぎず、且また震災手形の未回収額今なほ二億七百万円を算するといふ有様であるから眞の整理完了までは前途遠慮を免れまいが、たとへ部分的にもせよ、はたまた大勢観的にもせよ、上述の如き資本の動き方より観てわが經濟界は、勿論未だ不景氣の域を脱せず、或は又金融解禁に對する不安状態を脱出し得ないながらも、とに角その根底には早くも好轉的機運からごめき初めてゐるのであると認めても差支へはあまい。以上はわが經濟界の大局的鳥瞰圖の素描であるが、なほ一つこの素描に一線を附加して置きたいものがある。

獨占經濟時代來る それは過去數度の恐慌を模範として、わが經濟界にもいつしか多數競争經濟時代が去つて、少數獨占經濟時代が展開せられんとしつゝある一事である。この點に關し本文の劈頭に紹介した英國の商務官は次ぎの如く述べてをる。曰く「日本の産業の一特徴は、ある點において合理化に近似し、漸次少數の大財閥、例へば三井、三菱、住友、大倉の手に權力の集中が行はれて行く點である。例へば三菱合資は資本金一億二千万円を擁し下の如き三菱の全事業を統制してゆく特殊會社である——三菱造船、三菱製鐵、三菱倉庫、三菱商事、三菱銀行、三菱保險（火災海上）、三菱製業、三菱採礦（火災海上）、三菱信託——この事業團は合資またはその從屬會社を通じて、殆ど日本の全産業を所有し、或は統制してゐるのであつて、例せば製糖、製粉、製紙、人絹、海運、製鐵等の如き事業がこれである。そしてこの大企業團の相對的實力は、比較的競争力の弱き多數の會社が、近年屢々繰返さるゝ恐慌により埋没して

ゆく結果、漸次上昇して来たのである。かくて中小商工業者は結局大組織の從屬機關として日本財界に彼等の役割を勤めるほかはないであらう」と。金融資本といひ、少數獨占經濟といひ、要するに一種の合法的資本闘争の現れであつて、たとへ三井、三菱、住友、大倉、安田のみではない。近時地方の電力電燈會社を併存して益々膨脹しつゝある少數大電氣會社の發展もそれであり、殆ど全國的に小賣商人を威嚇しつゝある大百貨店の偉大なる進出もそれである。強力なる大資本、遠大なる計畫、そして最後に壓倒的勢力を確保せずして止まざらんとする、これ等大資本の進出が、社實的に、國民經濟的に如何なる結果を齎らすかの問題は暫く措くも、たゞかくの如き事實が現に吾等の眼前に、非常な勢をもつて展開しつゝある點は、少くとも財界鳥瞰圖中の偉大な一線でなければなるまい。

# 金融

昭和三年上半期 當期中の金融界はまだ前年四月の金融大恐慌の余瀾治まらず、終始その整理をもつて多忙を極めた。この整理のために日銀庫中から市中へ流出した資金が金融市場への壓迫となつて現はれた。

加ふるに産業不振のため資金の需要はさらに起らないことゝて金融緩慢の度は日に増し深刻を加へ年初から大ダブ付を呈して二月には早くも銀行の低利貸出競争を防止せんとし、貸出協定に似たる申合せが大阪の有志銀行によつて成立した。加盟銀行十一行をもつて「今後整理項目の如何を問はず、コール最低率以下の貸出を行はざること」の決議が行はれ二月廿日から實施された。ために金利の低下はやゝ阻止された態となり、年初五厘の安値を見せたコール日歩もこの協定以後は最低八厘を下る

ことなく、五月初までそれは持續された。しかし五月八日の特融締切の際になつて一時に約二億円の融資が行はれたため五月中旬には再び金利崩れ始め、コール日歩の如き大阪は最低六厘、東京は四厘、中には三厘台を唱へるものも出現するに至つた。

この頃よりして銀行預金の利下問題が擡頭したのは當然のことである。眞先にこれを材料にしたのが證券市場で公社債の市價は漸歩調となり、起債額も激増して五月以降期末まで賣出にかゝるものだけでも國債、地方債、銀行債、會社債の凡てを合すると約三億五千万円を算し、起債市場黄金時代を現出した。

昭和三年下半期 當期初は前期中に夥しく撒布された特融資金の壓迫のためいよゝ深刻なる金融緩慢に遭遇した。しかして起債談も續々續けられて利廻りは低下する一方、第四十八回借替公債は利廻り五分一厘八毛で發行され、

續いて五分五厘パー社債の出現、甚しきは五分利の大阪市債成立をも見るに至つた。

また公社債市價の暴騰は日を次いで烈しく、七月十日過ぎには甲號五分利公債九十八円の狂的高値にまで躍進した。

これやがて行詰りに直面したことは當然のことである、即ち日銀が下半期に入つて自己の金融統制力回復のため公債賣却、或は新規公債公募をもつて市中に激増せる資金の回収をはかつた結果さしも洪水の如く横溢してゐた資金が漸次收縮したのを始めとし、巨額に發行された公社債類に資金が多く固定したため、金融基調に幾分變化を招來して八月末には意外にも金融は一時的に逼迫の現象を呈した。こゝにおいて銀行預金の利下は遂に機を逸し、自然消滅のやむなきに至つたので無謀の高値に進んでゐた證券類の急轉直下の反落を誘致し、甲號五分利公債は十月末までに約十円の値下げを演じて

八十九円四十銭の安値に墜落し、一、二回四分利公債の如きは十三円急落して七十七円十銭を示した。もとよりこれは前記の如き金融基調の變化に災されたものではあるがこの頃より盛んに唱道されてゐた金融解禁論の脅威を受けたこともさらに大なるものであつた。十月東西銀行家の金融解禁即行決議はまさにこれに油をそゝいだやうなもので金融警戒の態度は特に著しくなつた。しかし十一月三十蔵相が西下して關西銀行大會席上になしたる金融解禁に關する演説は即行期待を裏切るが如きものであつたため、年末には却つて銀行家の金融警戒も緩み、一時底をついたかと思はれた金利は再び低歩調となり、コール日歩も十二月上旬には東京最低五厘、大阪六厘を唱へ年末金融は平穩に越すものと見られるに至つた。しかるに十二月下旬に至り資金の需要は果然急増して殊に地方の需要多く、廿九日には日銀兌換券發行高十七億



經濟—金融

七千三百万円を示して従前の年末の發行高記録すべてを破つた。年末平穩見越に銀行が支拂準備を幾分意つたことに起因するが兌換券發行高の激増は年末決済切迫につれ地方への資金流出案外多きに驚き都市銀行が日銀の融資を狼狽的に仰いだ結果であるはいふまでもない。ために東京コール日歩は廿九日銀割引率を超つて一銭七、八厘となり、大阪も一銭五厘に達した。

當期中銀行整理は著しく進捗し、地方銀行の合同、或は支店整理など續いて行はれたが特記すべきはさきに整理を公表した藤田銀行が九月上旬残存支店全部を鴻池、野村、卅四の三銀行に分譲して營業を廢止したことである。

昭和四年上半期 年末金融は意外の繁化を呈したが越年後は豫想通り平穩に歸し、地方からの資金回次多きを加へるに及んで遊資は氾濫し、一月十二日コール

日歩早くも暴落して四、五厘となり、割引日歩も續落したので協定に縛られた大銀行筋は又もや遊資處分難に窮する情となつた。こゝに前年末屢々議に上つては立消となつてゐた預金利下は急轉直下に實現の機運熟し、金解禁未だしと見た東西組合銀行はいよく斷行の舉に出で甲種銀行は定期預金利息五厘下げの四分五厘、乙種銀行は八厘下げの五分に改め、その他當座、特別當座、通知預金は甲乙とも一厘引き下げて二月一日から實施した。利下後の起債市場が再び活躍期に入つたことは勿論である。突如大同社債の五分パーを筆頭に五分五厘物など相當販つたが既發公社債市價が前年の大暴落に惹りて余り上放れないため起債條件も割合に警戒され、一流物にして六分パーが標準とされてゐた。殊に土方日銀總裁が東京銀行集會所新年宴會の席上銀行間の貸出競争を厳に戒められたことは一層警戒氣分を醸り、一般望利の低下

漸く濫り勝ちとなつてコール日歩は三月中最低東京は七厘、大阪は八厘を維持してゐた。これに加ふるに四月中旬突發的に金解禁近しとの報傳は、只さへ金融警戒のため伸び悩んでゐた證券類はまた暴落し四月中旬甲號五分利公債は九十円四十銭まで崩落した。

それがため四月廿日條件決定の第四十九回借替公債は極力日銀が挺を入れた揚句協議に移り漸くして、政府側の甚しき不利を免れた。

この間にあつて四月二日大阪加島銀行が前年の藤田の例に倣ひ、残存支店全部を山口、鴻池、野村の三行に分譲して營業を廢止したことは當期中の大きな出来事であつた。さきに近江、藤田兩大銀行を失ひ、こゝにまた加島の廢業を見たとことは金融恐慌の産物とはいへ大阪財界にとり大いに痛事であつた。

期末金融は至極平穩、前年同期不意

外の硬化を見た例に鑑み、銀行手許準備が潤澤にされた結果却つて中だるみを見せたからあつて凡調裏に期を越した。

爲替相場は昭和三年に入つてから著しく動搖の数が多くなつた。これは政友會内閣の金解禁に對する方針が模倣として捕捉し難いため屢々解禁近しとの風説傳はり投機的に煽られては失望した結果である。昭和四年に入つてもその動搖の趨勢は改まらず、七月末までに正金建卅九回の變更あつて最高は四十六、最低は四十三、四分三を示した。

爲替相場を録するに當つてこゝに特筆せねばならぬことは昭和三年六月末に政友會内閣が瓦解して民政黨内閣が出現し、金解禁に進むべき方策として極端なる緊縮政策を施したことである。ために爲替相場は僅か廿日間にとり半急騰して、なほ解禁見越強く、一途解禁相場に向ふべく連日暴騰を辿つてゐる。

貨幣發行高及鑄潰高並發行鑄潰差引殘高

年次	發行高			鑄潰高			差引殘高		
	合計	累計	單位	合計	累計	單位	合計	累計	單位
大正二	3,740	1,000,000	2,740	0,000	6,931	2,740	3,931	1,931	2,740
七	6,000	1,110,000	5,400	1,000	8,931	6,400	10,331	3,400	6,100
九	1,600	1,270,000	1,400	1,000	10,931	8,000	18,931	8,000	14,100
一〇	1,500	1,420,000	1,300	1,000	11,931	9,000	20,931	9,000	15,100
一一	1,500	1,570,000	1,300	1,000	12,931	10,000	22,931	10,000	16,100
一二	1,500	1,720,000	1,300	1,000	13,931	11,000	24,931	11,000	17,100
一三	1,500	1,870,000	1,300	1,000	14,931	12,000	26,931	12,000	18,100
一四	1,500	2,020,000	1,300	1,000	15,931	13,000	28,931	13,000	19,100
一五	1,500	2,170,000	1,300	1,000	16,931	14,000	30,931	14,000	20,100
一六	1,500	2,320,000	1,300	1,000	17,931	15,000	32,931	15,000	21,100
一七	1,500	2,470,000	1,300	1,000	18,931	16,000	34,931	16,000	22,100
一八	1,500	2,620,000	1,300	1,000	19,931	17,000	36,931	17,000	23,100
一九	1,500	2,770,000	1,300	1,000	20,931	18,000	38,931	18,000	24,100
二〇	1,500	2,920,000	1,300	1,000	21,931	19,000	40,931	19,000	25,100
二一	1,500	3,070,000	1,300	1,000	22,931	20,000	42,931	20,000	26,100
二二	1,500	3,220,000	1,300	1,000	23,931	21,000	44,931	21,000	27,100

紙幣及銀行券流通高 (單位一千圓)

年月末	小額紙幣			銀行券			兌換券			總計		
	發行高	銀行券	備充當高	發行高	銀行券	備充當高	發行高	銀行券	備充當高	發行高	銀行券	備充當高
大正二	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
三	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
九	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
一〇	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
一一	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
一二	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
一三	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
一四	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
一五	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
一六	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
一七	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
一八	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
一九	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
二〇	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
二一	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
二二	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000

經濟—金融【貨幣及紙幣流通】



經濟—金融【兌換券發行】

日本銀行兌換券發行高

(單位一千圓)

年・月	兌換券發行高				準備				發行余力	國外發行
	最高	最低	末日	平均	最高	最低	末日	平均		
大正三	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
大正二	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
昭和	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
明治	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000

日本銀行兌換券保證發行限度

發行高に對する準備割合は大藏大臣の指定による(第十八號布告兌換銀行券條例第十一條に依る兌換券發行手續命令)  
 明治一七・七・四 制定 制度額 發行高に對する準備割合は大藏大臣の指定による(勅令第五十九號第二條に依り七千萬圓の内二千七百萬圓は二十二年一月一日以降國立銀行券の額却高に限)  
 明治二二・七・三一 改正  
 明治三三・五・一六  
 明治三三・三・三九  
 公算(100,000,000圓)(法律第三十四號)  
 110,000,000圓(法律第五十五號)

兌換銀行金利

日本銀行 ○單位 圓

改定日付	1	2	3	4	改定日付	1	2	3	4
大正三・三・二二	1.00	1.00	1.00	1.00	大正三・三・二二	1.00	1.00	1.00	1.00
大正三・三・二二	1.00	1.00	1.00	1.00	大正三・三・二二	1.00	1.00	1.00	1.00
大正三・三・二二	1.00	1.00	1.00	1.00	大正三・三・二二	1.00	1.00	1.00	1.00
大正三・三・二二	1.00	1.00	1.00	1.00	大正三・三・二二	1.00	1.00	1.00	1.00

銀行預金利率協定

日付	東京 重要銀行		大阪 銀行集會所組合銀行	
	定期預金(年利分)	當座預金(日歩)	定期預金(年利分)	當座預金(日歩)
大正三・三・二二	甲 六.五 乙 六.八	甲 〇.〇八 乙 〇.一〇	甲 六.五 乙 六.八	甲 〇.〇八 乙 〇.一〇
大正三・三・二二	甲 六.五 乙 六.八	甲 〇.〇八 乙 〇.一〇	甲 六.五 乙 六.八	甲 〇.〇八 乙 〇.一〇
大正三・三・二二	甲 六.五 乙 六.八	甲 〇.〇八 乙 〇.一〇	甲 六.五 乙 六.八	甲 〇.〇八 乙 〇.一〇
大正三・三・二二	甲 六.五 乙 六.八	甲 〇.〇八 乙 〇.一〇	甲 六.五 乙 六.八	甲 〇.〇八 乙 〇.一〇

郵便貯金利率

日付	定期預金(年利分)		當座預金(日歩)		小口當座預金(日歩)		通知預金(日歩)	
	甲	乙	甲	乙	甲	乙	甲	乙
大正三・三・二二	六.五	六.八	〇.〇八	〇.一〇	〇.〇八	〇.一〇	〇.〇九	〇.一〇
大正三・三・二二	六.五	六.八	〇.〇八	〇.一〇	〇.〇八	〇.一〇	〇.〇九	〇.一〇
大正三・三・二二	六.五	六.八	〇.〇八	〇.一〇	〇.〇八	〇.一〇	〇.〇九	〇.一〇
大正三・三・二二	六.五	六.八	〇.〇八	〇.一〇	〇.〇八	〇.一〇	〇.〇九	〇.一〇

經濟—金融【銀行及郵便利率】



政府短期證券割引日歩

(單位—錢)

Table of government short-term securities interest rates, including columns for issue date (發行年月日), interest rate (割引日歩), and average rate (平均).

市中金利

全

(單位—錢) 〇〇 一九二四年八月以降毎月の調査を廢し、六月、二月のみを調査。定期は分 〇〇 一九二二年一月、一九二三年六月分平均等に不明の點あるは發表に資料を失したるによる。

Main table of market interest rates, categorized by month/year (年月) and type of instrument (普通商業手形, 約束手形, etc.).

外國爲替及銀塊相場

(正金建値) 〇 四年は六月迄

Table of foreign exchange and silver block market rates, including sections for London (倫敦), New York (紐約), and other international locations.

經濟—金融【爲替・銀塊】



大藏省預金部資金及資金運用狀況

(單位—千圓)

昭和二年度末	昭和三年度末	昭和四年六月末
資金の部		
郵便貯金振替貯金	1,233,754	1,852,533
貯蓄貯金振替貯金	7,350	1,095
復興貯蓄貯金振替貯金	5,000	6,000
各特別會計其他預金	2,840,000	3,611,377
預金部積立金等	100,000	1,300,000
預金部収入	2,288,054	3,259,905
運用の部		
國債證券	2,551,533	3,284,632
地方債證券	333,333	400,000
勸業債券	333,333	400,000
興業債券	333,333	400,000
合計	3,551,533	4,484,632
其他社債等	2,288,054	3,259,905
支那政府債券	1,000,000	1,000,000
四分利附支那債券	1,000,000	1,000,000
英國大藏省證券	1,000,000	1,000,000
米國大藏省證券	1,000,000	1,000,000
米國自由公債	1,000,000	1,000,000
帝國鐵道會計等貸付金	1,000,000	1,000,000
在外預金	1,000,000	1,000,000
内地預金	1,000,000	1,000,000
預金部支出金	1,000,000	1,000,000
減價償却金	1,000,000	1,000,000
合計	3,551,533	4,484,632

郵便貯金並貯蓄銀行貯蓄預金

(單位—千圓)

昭和二年度末	昭和三年度末	昭和四年六月末
預入高	1,233,754	1,852,533
利子編入	7,350	1,095
計	1,241,104	1,853,628
普通郵便貯金	1,233,754	1,852,533
振替貯金	7,350	1,095
計	1,241,104	1,853,628
貯蓄銀行貯蓄預金	1,000,000	1,000,000
計	1,000,000	1,000,000

外資輸入現在高

(各年末) ○ 單位—千圓 ○ 海外賣出内國債及外資借入は不詳

年次	海外賣出内國債	海外賣出外資借入	合計
大正二〇	1,233,754	7,350	1,241,104
大正二一	1,233,754	7,350	1,241,104
大正二二	1,233,754	7,350	1,241,104
大正二三	1,233,754	7,350	1,241,104
大正二四	1,233,754	7,350	1,241,104
大正二五	1,233,754	7,350	1,241,104
大正二六	1,233,754	7,350	1,241,104
大正二七	1,233,754	7,350	1,241,104
大正二八	1,233,754	7,350	1,241,104
大正二九	1,233,754	7,350	1,241,104
昭和一〇	1,233,754	7,350	1,241,104
昭和一一	1,233,754	7,350	1,241,104
昭和一二	1,233,754	7,350	1,241,104
昭和一三	1,233,754	7,350	1,241,104
昭和一四	1,233,754	7,350	1,241,104
昭和一五	1,233,754	7,350	1,241,104
昭和一六	1,233,754	7,350	1,241,104
昭和一七	1,233,754	7,350	1,241,104
昭和一八	1,233,754	7,350	1,241,104
昭和一九	1,233,754	7,350	1,241,104
昭和二〇	1,233,754	7,350	1,241,104

外國債金受領高

(單位—千圓)

年次	日清戰役賠償金	日清戰役東還賠償金	日清戰役海軍賠償金	北清日露戰役賠償金	山東鐵道賠償金	ドイツ賠償金	合計
大正二〇	1,233,754	7,350	1,233,754	7,350	1,233,754	7,350	3,706,702
大正二一	1,233,754	7,350	1,233,754	7,350	1,233,754	7,350	3,706,702
大正二二	1,233,754	7,350	1,233,754	7,350	1,233,754	7,350	3,706,702
大正二三	1,233,754	7,350	1,233,754	7,350	1,233,754	7,350	3,706,702
大正二四	1,233,754	7,350	1,233,754	7,350	1,233,754	7,350	3,706,702
大正二五	1,233,754	7,350	1,233,754	7,350	1,233,754	7,350	3,706,702
大正二六	1,233,754	7,350	1,233,754	7,350	1,233,754	7,350	3,706,702
大正二七	1,233,754	7,350	1,233,754	7,350	1,233,754	7,350	3,706,702
大正二八	1,233,754	7,350	1,233,754	7,350	1,233,754	7,350	3,706,702
大正二九	1,233,754	7,350	1,233,754	7,350	1,233,754	7,350	3,706,702
昭和一〇	1,233,754	7,350	1,233,754	7,350	1,233,754	7,350	3,706,702
昭和一一	1,233,754	7,350	1,233,754	7,350	1,233,754	7,350	3,706,702
昭和一二	1,233,754	7,350	1,233,754	7,350	1,233,754	7,350	3,706,702
昭和一三	1,233,754	7,350	1,233,754	7,350	1,233,754	7,350	3,706,702
昭和一四	1,233,754	7,350	1,233,754	7,350	1,233,754	7,350	3,706,702
昭和一五	1,233,754	7,350	1,233,754	7,350	1,233,754	7,350	3,706,702
昭和一六	1,233,754	7,350	1,233,754	7,350	1,233,754	7,350	3,706,702
昭和一七	1,233,754	7,350	1,233,754	7,350	1,233,754	7,350	3,706,702
昭和一八	1,233,754	7,350	1,233,754	7,350	1,233,754	7,350	3,706,702
昭和一九	1,233,754	7,350	1,233,754	7,350	1,233,754	7,350	3,706,702
昭和二〇	1,233,754	7,350	1,233,754	7,350	1,233,754	7,350	3,706,702

日本銀行調査局調

(單位—千圓) 昭和四年は六月迄)

年次	總計	公債	銀行債	社債	株式
大正二〇	1,233,754	7,350	1,233,754	7,350	1,233,754
大正二一	1,233,754	7,350	1,233,754	7,350	1,233,754
大正二二	1,233,754	7,350	1,233,754	7,350	1,233,754
大正二三	1,233,754	7,350	1,233,754	7,350	1,233,754
大正二四	1,233,754	7,350	1,233,754	7,350	1,233,754
大正二五	1,233,754	7,350	1,233,754	7,350	1,233,754
大正二六	1,233,754	7,350	1,233,754	7,350	1,233,754
大正二七	1,233,754	7,350	1,233,754	7,350	1,233,754
大正二八	1,233,754	7,350	1,233,754	7,350	1,233,754
大正二九	1,233,754	7,350	1,233,754	7,350	1,233,754
昭和一〇	1,233,754	7,350	1,233,754	7,350	1,233,754
昭和一一	1,233,754	7,350	1,233,754	7,350	1,233,754
昭和一二	1,233,754	7,350	1,233,754	7,350	1,233,754
昭和一三	1,233,754	7,350	1,233,754	7,350	1,233,754
昭和一四	1,233,754	7,350	1,233,754	7,350	1,233,754
昭和一五	1,233,754	7,350	1,233,754	7,350	1,233,754
昭和一六	1,233,754	7,350	1,233,754	7,350	1,233,754
昭和一七	1,233,754	7,350	1,233,754	7,350	1,233,754
昭和一八	1,233,754	7,350	1,233,754	7,350	1,233,754
昭和一九	1,233,754	7,350	1,233,754	7,350	1,233,754
昭和二〇	1,233,754	7,350	1,233,754	7,350	1,233,754

日本郵業銀行調査課調

(單位—千圓)

年次	總計	國債	地方債	社債	株式
大正二〇	1,233,754	7,350	1,233,754	7,350	1,233,754
大正二一	1,233,754	7,350	1,233,754	7,350	1,233,754
大正二二	1,233,754	7,350	1,233,754	7,350	1,233,754
大正二三	1,233,754	7,350	1,233,754	7,350	1,233,754
大正二四	1,233,754	7,350	1,233,754	7,350	1,233,754
大正二五	1,233,754	7,350	1,233,754	7,350	1,233,754
大正二六	1,233,754	7,350	1,233,754	7,350	1,233,754
大正二七	1,233,754	7,350	1,233,754	7,350	1,233,754
大正二八	1,233,754	7,350	1,233,754	7,350	1,233,754
大正二九	1,233,754	7,350	1,233,754	7,350	1,233,754
昭和一〇	1,233,754	7,350	1,233,754	7,350	1,233,754
昭和一一	1,233,754	7,350	1,233,754	7,350	1,233,754
昭和一二	1,233,754	7,350	1,233,754	7,350	1,233,754
昭和一三	1,233,754	7,350	1,233,754	7,350	1,233,754
昭和一四	1,233,754	7,350	1,233,754	7,350	1,233,754
昭和一五	1,233,754	7,350	1,233,754	7,350	1,233,754
昭和一六	1,233,754	7,350	1,233,754	7,350	1,233,754
昭和一七	1,233,754	7,350	1,233,754	7,350	1,233,754
昭和一八	1,233,754	7,350	1,233,754	7,350	1,233,754
昭和一九	1,233,754	7,350	1,233,754	7,350	1,233,754
昭和二〇	1,233,754	7,350	1,233,754	7,350	1,233,754

經濟—金融—外資—債金



經濟金融「拂込」公債債

拂込金業別

業種	昭和二年		昭和三年	
	株式	合計	株式	合計
銀行	1,700,000	1,700,000	1,700,000	1,700,000
保險	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
製造	800,000	800,000	800,000	800,000
運輸	600,000	600,000	600,000	600,000
其他	400,000	400,000	400,000	400,000
合計	4,500,000	4,500,000	4,500,000	4,500,000

公社債發行高

年次	府縣債		市公債		銀行債		會社債	
	上期	下期	上期	下期	上期	下期	上期	下期
大正九年	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
昭和二年	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000

銀行會社債發行償還並現在額

年次	發行		償還		現在額	
	內債	外債	內債	外債	內債	外債
大正九年	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
昭和二年	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000

公社債現在高

種類	大正九年末		大正二年末		昭和二年末		昭和三年末	
	內債	外債	內債	外債	內債	外債	內債	外債
國債	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
府縣債	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000
市公債	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
銀行債	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
會社債	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000

經濟金融「公債債」



國債及臨時國庫證券起債高及償還高並未償還高

(單位：千圓) ○米穀證券を含む ○臨時國庫證券計は大正十一年三月末限り停止につき未償還額は翌年より一般國債に繰入る

債種	大正		昭和	
	起債高	未償還高	起債高	未償還高
總計	27,890	2,570	5,860	5,860
內國債	27,890	2,570	5,860	5,860
五分利公債	7,500	1,000	1,000	1,000
特別五分利公債	1,000	1,000	1,000	1,000
第一回四分利公債	1,000	1,000	1,000	1,000
第二回四分利公債	1,000	1,000	1,000	1,000
五分利國庫債券	1,000	1,000	1,000	1,000
臨時國庫證券	1,000	1,000	1,000	1,000
合計	27,890	2,570	5,860	5,860
外債	0	0	0	0
第一回四分利付英債公債	0	0	0	0
第二回四分利付英債公債	0	0	0	0
五分利付佛債公債	0	0	0	0
第三回四分利付英債公債	0	0	0	0
六分半利付米債公債	0	0	0	0
六分利付英債公債	0	0	0	0
南滿洲鐵道株式會社英債公債	0	0	0	0
合計	0	0	0	0

國債現在額明細並償還期限

(單位：千圓) 昭和四年三月末現在 (國債明細表による)

債種	記號	昭和四年三月末現在		記號	金額	年・月
		金額	償還			
五分利公債	(か)	1,701	1,701	甲號五分利公債(甲)	1,701	昭和四年三月末
特別五分利公債	(た)	3,500	3,500	第一回四分利公債(た)	3,500	昭和四年三月末
第一回四分利公債	(れ)	3,500	3,500	第二回四分利公債(ろ)	3,500	昭和四年三月末
第二回四分利公債	(ろ)	3,500	3,500	五分利國庫債券(り)	3,500	昭和四年三月末
五分利國庫債券	(り)	3,500	3,500	臨時國庫證券(る)	3,500	昭和四年三月末
臨時國庫證券	(る)	3,500	3,500	第一回四分利付英債公債(わ)	3,500	昭和四年三月末
合計		10,100	10,100	第二回四分利付英債公債(を)	3,500	昭和四年三月末
外債		0	0	五分利付佛債公債(を)	3,500	昭和四年三月末
第一回四分利付英債公債	(わ)	0	0	第三回四分利付英債公債(を)	3,500	昭和四年三月末
第二回四分利付英債公債	(を)	0	0	六分半利付米債公債(を)	3,500	昭和四年三月末
五分利付佛債公債	(を)	0	0	六分利付英債公債(を)	3,500	昭和四年三月末
第三回四分利付英債公債	(を)	0	0	南滿洲鐵道株式會社英債公債(を)	3,500	昭和四年三月末
六分半利付米債公債	(を)	0	0	合計	10,100	昭和四年三月末
六分利付英債公債	(を)	0	0			
南滿洲鐵道株式會社英債公債	(を)	0	0			
合計		0	0			

經濟金融【國債】











業別

業別	昭和三年				昭和二年				昭和三年		昭和三年	
	六正三年	六正九年	六正三年	六正三年	六正四年	昭和一年	昭和二年	新設	增資	社債	合計	四正六月迄
銀行業	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567
信託及金融業	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567
倉庫業	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567
運輸業	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567
海運業	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567
鐵道業	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567
其他	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567
製造業	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567
電氣業	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567
瓦斯業	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567
紡績業	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567
化學工業	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567
染織業	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567
機械及器具工業	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567
造船及船舶業	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567
金屬工業	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567
食品工業	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567
製糖業	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567
製粉業	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567
製材業	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567
木材業	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567
農林業	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567
商業其他	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567

全國銀行諸勘定

(金額 單位—千圓) 備考—朝鮮銀行以外の本店朝鮮所在銀行勘定を除く

年	末	本店	資本金		預金		貸出金		有價證券	金銀在貯
			公稱	拂込	公金預金	一般預金	政府貸上金	一般貸出金		
大正	二	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567
大正	七	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567
大正	八	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567
大正	九	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567
大正	一〇	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567
大正	一一	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567
大正	一二	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567
昭和	一	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567
昭和	二	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567

特殊銀行諸勘定

(金額 單位—千圓)

年	末	本店	資本金		預金		貸出金		有價證券	金銀在貯
			公稱	拂込	公金預金	一般預金	政府貸上金	一般貸出金		
大正	二	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567
大正	七	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567
大正	八	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567
大正	九	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567
大正	一〇	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567
大正	一一	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567
大正	一二	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567
昭和	一	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567
昭和	二	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567	1,234,567

經濟—金融【全國勘定】



經濟—金融【特殊銀行】

日本銀行諸勘定

(金額 單位—千圓)

年未	大正	昭和	年未	大正	昭和
資本金	100,000,000	100,000,000	100,000,000	100,000,000	100,000,000
積立金	100,000,000	100,000,000	100,000,000	100,000,000	100,000,000
貸付金	100,000,000	100,000,000	100,000,000	100,000,000	100,000,000
預金	100,000,000	100,000,000	100,000,000	100,000,000	100,000,000
貸出金	100,000,000	100,000,000	100,000,000	100,000,000	100,000,000
有價證券	100,000,000	100,000,000	100,000,000	100,000,000	100,000,000
金銀在高	100,000,000	100,000,000	100,000,000	100,000,000	100,000,000
地金	100,000,000	100,000,000	100,000,000	100,000,000	100,000,000

橫濱正金・日本勸業・農工・北海道拓殖・台灣・日本興業・朝鮮銀行諸勘定 (金額 單位—百圓)

普通銀行諸勘定

○金額 單位—千圓 ○備考 本店總務所在銀行を除く ○大正一一年以降各勘定著し

年未	大正	昭和	年未	大正	昭和
資本金	100,000,000	100,000,000	100,000,000	100,000,000	100,000,000
積立金	100,000,000	100,000,000	100,000,000	100,000,000	100,000,000
貸付金	100,000,000	100,000,000	100,000,000	100,000,000	100,000,000
預金	100,000,000	100,000,000	100,000,000	100,000,000	100,000,000
貸出金	100,000,000	100,000,000	100,000,000	100,000,000	100,000,000
有價證券	100,000,000	100,000,000	100,000,000	100,000,000	100,000,000
金銀在高	100,000,000	100,000,000	100,000,000	100,000,000	100,000,000
地金	100,000,000	100,000,000	100,000,000	100,000,000	100,000,000

經濟—金融【特殊銀行】







大阪手形交換所組合銀行及代理交換銀行諸勘定

(金額 單位—百萬圓)

年・月末	銀行	預金				貸出			
		積立金	定期預金	當座預金	特別當座預金	貸付	手形貸付	當座貸越	手形貸に含む
大正二	三	1,078	1,078	1,078	1,078	1,078	1,078	1,078	1,078
大正三	三	1,078	1,078	1,078	1,078	1,078	1,078	1,078	1,078
昭和	三	1,078	1,078	1,078	1,078	1,078	1,078	1,078	1,078
年・月末	銀行	積立金	定期預金	當座預金	特別當座預金	貸付	手形貸付	當座貸越	手形貸に含む
大正二	三	1,078	1,078	1,078	1,078	1,078	1,078	1,078	1,078
大正三	三	1,078	1,078	1,078	1,078	1,078	1,078	1,078	1,078
昭和	三	1,078	1,078	1,078	1,078	1,078	1,078	1,078	1,078
年・月末	銀行	積立金	定期預金	當座預金	特別當座預金	貸付	手形貸付	當座貸越	手形貸に含む
大正二	三	1,078	1,078	1,078	1,078	1,078	1,078	1,078	1,078
大正三	三	1,078	1,078	1,078	1,078	1,078	1,078	1,078	1,078
昭和	三	1,078	1,078	1,078	1,078	1,078	1,078	1,078	1,078

六大都市銀行集會所組合銀行諸勘定

(金額 單位—千圓)

年・月末	預金	貸出			
		貸出金	コールローン	有價證券	金銀在高
大正二	1,078	1,078	1,078	1,078	1,078
大正三	1,078	1,078	1,078	1,078	1,078
昭和	1,078	1,078	1,078	1,078	1,078
年・月末 <th>預金</th> <th>貸出金</th> <th>コールローン</th> <th>有價證券</th> <th>金銀在高</th>	預金	貸出金	コールローン	有價證券	金銀在高
大正二	1,078	1,078	1,078	1,078	1,078
大正三	1,078	1,078	1,078	1,078	1,078
昭和	1,078	1,078	1,078	1,078	1,078

東京銀行集會所組合銀行諸勘定

(金額 單位—千圓)

年・月末	預金	貸出			
		貸出金	コールローン	有價證券	金銀在高
大正二	1,078	1,078	1,078	1,078	1,078
大正三	1,078	1,078	1,078	1,078	1,078
昭和	1,078	1,078	1,078	1,078	1,078
年・月末 <th>預金</th> <th>貸出金</th> <th>コールローン</th> <th>有價證券</th> <th>金銀在高</th>	預金	貸出金	コールローン	有價證券	金銀在高
大正二	1,078	1,078	1,078	1,078	1,078
大正三	1,078	1,078	1,078	1,078	1,078
昭和	1,078	1,078	1,078	1,078	1,078

大阪銀行集會所組合銀行諸勘定

(金額 單位—千圓)

年・月末	預金	貸出			
		貸出金	コールローン	有價證券	金銀在高
大正二	1,078	1,078	1,078	1,078	1,078
大正三	1,078	1,078	1,078	1,078	1,078
昭和	1,078	1,078	1,078	1,078	1,078
年・月末 <th>預金</th> <th>貸出金</th> <th>コールローン</th> <th>有價證券</th> <th>金銀在高</th>	預金	貸出金	コールローン	有價證券	金銀在高
大正二	1,078	1,078	1,078	1,078	1,078
大正三	1,078	1,078	1,078	1,078	1,078
昭和	1,078	1,078	1,078	1,078	1,078

全國銀行預金及貯金内容

(單位—千圓 大藏省調査)

年・月末	普通預貯金	定期預金	公金預金	當座預金	特別當座	通知預金	定期預金	諸預金	合計
大正二	1,078	1,078	1,078	1,078	1,078	1,078	1,078	1,078	1,078
大正三	1,078	1,078	1,078	1,078	1,078	1,078	1,078	1,078	1,078
昭和	1,078	1,078	1,078	1,078	1,078	1,078	1,078	1,078	1,078
年・月末 <th>普通預貯金</th> <th>定期預金</th> <th>公金預金</th> <th>當座預金</th> <th>特別當座</th> <th>通知預金</th> <th>定期預金</th> <th>諸預金</th> <th>合計</th>	普通預貯金	定期預金	公金預金	當座預金	特別當座	通知預金	定期預金	諸預金	合計
大正二	1,078	1,078	1,078	1,078	1,078	1,078	1,078	1,078	1,078
大正三	1,078	1,078	1,078	1,078	1,078	1,078	1,078	1,078	1,078
昭和	1,078	1,078	1,078	1,078	1,078	1,078	1,078	1,078	1,078

經濟—金融【組合銀行勘定】



全國銀行貸出金内容

(單位—千圓 大藏省調査)

○備考—内地台灣樺太以外の地の店における貸出は除外す、Aには貯蓄銀行の貸付を一括して包含せしむ、Bは日銀の爲替貸付をも含む

Table showing national bank loan content by year (昭和二年, 昭和三年) and category (A, B). Includes sub-categories like 貯蓄貸付, 手形貸付, 當座貸付, 御引手形, 荷付爲替, コールローン, 總計.

特別融通額内譯表

(單位—千圓)

Table showing special loan amounts by year (昭和二年, 昭和三年) and category (A, B). Includes sub-categories like 御引手形, 五億圓の御引手形, 台灣融資法御引手形, 合計, 特別以外御引手形, 總計.

特殊銀行營業成績

(昭和三年 〇單位—千圓)

Table showing special bank operating results for 日本銀行 (Japan Bank) and 横濱正金銀行 (Yokohama Specie Bank) for the first and second halves of the year. Includes metrics like 公稱資本, 拂込資本, 諸積立, 總收入, 總支出, 利益, 配當, 預金, 貸出, 有價證券, 預金及預金金.

普通銀行營業成績

(昭和三年 〇單位—千圓)

Table showing general bank operating results for various banks including 日本興業銀行, 日本勸業銀行, 朝鮮銀行, 台灣銀行, 北海拓殖銀行, 慶田銀行, 三井銀行, 住友銀行, 三菱銀行, 第一銀行, 三十四銀行, 山口銀行, and 川崎銀行. Includes metrics like 公稱資本, 拂込資本, 諸積立, 總收入, 總支出, 利益, 配當, 預金, 貸出, 有價證券, 預金及預金金.



手形交換所手形交換高及不渡手形

金額 單位—千圓 ○ 昭和四年は六月迄

年度	手形交換高		不渡手形	
	枚數	金額	枚數	金額
大正	10,000,000	1,000,000,000	1,000,000	100,000,000
昭和	15,000,000	1,500,000,000	1,500,000	150,000,000
合計	25,000,000	2,500,000,000	2,500,000	250,000,000

所交換名	手形交換高		不渡手形	
	枚數	金額	枚數	金額
東京	10,000,000	1,000,000,000	1,000,000	100,000,000
大阪	5,000,000	500,000,000	500,000	50,000,000
名古屋	3,000,000	300,000,000	300,000	30,000,000
京都	2,000,000	200,000,000	200,000	20,000,000
神戶	1,500,000	150,000,000	150,000	15,000,000
横濱	1,000,000	100,000,000	100,000	10,000,000
其他	1,500,000	150,000,000	150,000	15,000,000
合計	23,000,000	2,300,000,000	2,300,000	230,000,000

全國手形交換所組合銀行現金及手形收納高

(金額 單位—千圓)

年度	現金		手形		計
	金額	枚數	金額	枚數	
大正	1,000,000,000	10,000,000	500,000,000	5,000,000	1,500,000,000
昭和	1,500,000,000	15,000,000	750,000,000	7,500,000	2,250,000,000
合計	2,500,000,000	25,000,000	1,250,000,000	12,500,000	3,750,000,000

種類	現金		手形		計
	金額	枚數	金額	枚數	
小切手	1,000,000,000	10,000,000	500,000,000	5,000,000	1,500,000,000
爲替手形	500,000,000	5,000,000	250,000,000	2,500,000	750,000,000
預金手形	500,000,000	5,000,000	250,000,000	2,500,000	750,000,000
雜類	500,000,000	5,000,000	250,000,000	2,500,000	750,000,000
合計	2,500,000,000	25,000,000	1,250,000,000	12,500,000	3,750,000,000

東京手形交換所交換手形種別

(金額 單位—千圓)

年度	現金		手形		計
	金額	枚數	金額	枚數	
大正	1,000,000,000	10,000,000	500,000,000	5,000,000	1,500,000,000
昭和	1,500,000,000	15,000,000	750,000,000	7,500,000	2,250,000,000
合計	2,500,000,000	25,000,000	1,250,000,000	12,500,000	3,750,000,000

種別	現金		手形		計
	金額	枚數	金額	枚數	
爲替手形	1,000,000,000	10,000,000	500,000,000	5,000,000	1,500,000,000
預金手形	500,000,000	5,000,000	250,000,000	2,500,000	750,000,000
雜類	500,000,000	5,000,000	250,000,000	2,500,000	750,000,000
合計	2,000,000,000	20,000,000	1,000,000,000	10,000,000	3,000,000,000

大阪手形交換所組合銀行有價證券爲替取扱高

(單位—千圓) ○ 各年一二月分のみを示す

年度	現金		手形		計
	金額	枚數	金額	枚數	
大正	1,000,000,000	10,000,000	500,000,000	5,000,000	1,500,000,000
昭和	1,500,000,000	15,000,000	750,000,000	7,500,000	2,250,000,000
合計	2,500,000,000	25,000,000	1,250,000,000	12,500,000	3,750,000,000



信託會社信託財產

(金額 單位—千圓) (備考—資產負債の計額の符合せざるは未定期定を其總額に計したるためである)

Table showing trust assets for various companies (e.g., 三井信託, 住友信託, 安田信託) with columns for assets, liabilities, and equity.

主要信託會社諸勘定

(昭和三年末) (金額 單位—千圓)

Main trust company accounts table with columns for assets (公稱拂込, 有價證券, 貸付金) and liabilities (負債).

產業組合中央金庫諸勘定

(金額 單位—千圓)

Industrial Association Central Treasury accounts table with columns for assets (出資者數, 出資口數) and liabilities (貸出).

產業組合中央金庫貸出狀況

(單位—千圓)

Industrial Association Central Treasury loan status table with columns for loan types (貸出, 貸入) and amounts.



經濟—金融【産業組合・無盡・有價証券販賣者諸勘定】

道府縣區域信用組合聯合會諸勘定

年度末	昭和三	大正三	昭和一
年度末出資金	1,377,000	623,000	1,377,000
繰上	3,707	6,230	3,707
預金現金	1,377,000	623,000	1,377,000
有價証券	1,377,000	623,000	1,377,000
不動産及什器	1,377,000	623,000	1,377,000
其他共合計	1,377,000	623,000	1,377,000
自己資金	1,377,000	623,000	1,377,000
貯金	1,377,000	623,000	1,377,000
借入金	1,377,000	623,000	1,377,000
其他共合計	1,377,000	623,000	1,377,000

市街地信用組合諸勘定

年度末	大正七	昭和一
組合員數	1,000	1,000
出資口數	1,000	1,000
出資總額	1,000,000	1,000,000
繰上	1,000	1,000
預金現金	1,000,000	1,000,000
有價証券	1,000,000	1,000,000
不動産及什器	1,000,000	1,000,000
其他共合計	1,000,000	1,000,000
自己資金	1,000,000	1,000,000
貯金	1,000,000	1,000,000
借入金	1,000,000	1,000,000
其他共合計	1,000,000	1,000,000

無盡業者諸勘定

年度末	大正三	昭和一
本店	1,000	1,000
支店	1,000	1,000
繰上	1,000	1,000
預金現金	1,000,000	1,000,000
有價証券	1,000,000	1,000,000
不動産及什器	1,000,000	1,000,000
其他共合計	1,000,000	1,000,000
自己資金	1,000,000	1,000,000
貯金	1,000,000	1,000,000
借入金	1,000,000	1,000,000
其他共合計	1,000,000	1,000,000

有價証券割賦販賣業者諸勘定

年度末	大正七	昭和一
本店	1,000	1,000
支店	1,000	1,000
繰上	1,000	1,000
預金現金	1,000,000	1,000,000
有價証券	1,000,000	1,000,000
不動産及什器	1,000,000	1,000,000
其他共合計	1,000,000	1,000,000
自己資金	1,000,000	1,000,000
貯金	1,000,000	1,000,000
借入金	1,000,000	1,000,000
其他共合計	1,000,000	1,000,000

分配消費

分配と消費が生産の態様によつて規定されるとはいふまでもない。したがつて、昭和三年初頭乃至四上半期中の分配消費の狀態は嚴密にその間における財界の一般的情勢——生産の消長に適應する。この期間の日本財界は、表面においては漸進的なる不安に悩まされつゝあつたといへ、金融恐慌——特別融通の結果、いはゆる資金偏在を惹起し、變態的金融緩慢から稀有の低金利時代を現出した。これがため高利債の低利借替へが頻々として行はれ、事業の内部的整理、いはゆる産業合理化の過程が促進せられたことは尠少でない。この間、一面においては企業の集中的傾向、金融資本の制覇がますます顯著となり來つたことはもちろんである。この傾向は打ちつゞく一般的不景氣によつて更にそのテンポを速められたのであつた。——しからば、この情勢のもとに

經濟—分配消費

において、生産された富は如何に分配され、如何に消費されたか？分配は、これを半面より見る時、社會各階級の所得として現れる。所得は二大別して勤勞所得と資本所得（土地その他個人の所有に關する自然力も、これが生産過程に使用せられる限り資本である）になる。このうち勤勞所得なるものは、現經濟組織のもとにおいては、おほむね生産費の一部として計算されてゐるから、一企業の「當期利益」と稱するものは、種々なる形態で

とんどこの情勢に變化はなかつたがこれをもちつて直ちに、昭和三年初頭より四上半期にかけて、全般的に資本所得が増大したと見るのは明らかに錯誤である。これはたゞ「主な企業主體」についての事實であつて、それ以外の群小企業、殊に個人經營のもの、収益率は著しく低下してゐる。これを明確に示すべき具體的數字はないが、昭和三年に入つてより、引つゞき、ますます熾烈となつて來た「中小商工業者に金融の道を與へよ」といふ叫びはまさにこれを裏書するものであらう。また小賣商人が百貨店の資本的壓迫に悩み抜いたあげく、結果として何らかの對策を講ぜんとする意氣こみの眞剣さも、半面よりこの趨勢を明瞭に物語つてゐる。なほ、新たに債券または株式を購入することによつて得る資本所得は低金利の必然的結果としてかなりの減少を見たすなはち、國債および主要産業株の利廻りは、三年初頭より四上半

期末にかけて前者は五分乃至五分三厘強の間を搖し、後者は六分二厘弱乃至七分二厘強の間を上下してゐた。しかも季節的金融の繁閑に伴ふ債券および株價の動搖によつて上下したとはいへ、一般的傾向としては、借替への度ごとに利廻り低下の趨勢が看取される。次に

金利生活者の所得 となるべき銀行定期預金利息、ならびにほとんど同性質を有する金銭信託配當は、金融緩慢の壓迫によつてともに漸次低下の道を辿つた。ことに銀行は、四年一月末の東西兩組合銀行の利下げ（甲種銀行定期預金、従來五分を四分五厘に）を導火線として各地方銀行も續々これに追隨した。また信託會社も資金處分難の重加とともに金銭信託配當の低下を行はざるを得ざるに至り、三年下期には五分八厘乃至六分を維持してゐたものが、四上半期においては五分一厘乃至五分七厘となつた



經濟—分配消費

地主の所得 となるべき地代については、各地方によつて非常に懸隔があり、全国的趨勢を見るときはほとんど不可能であるが一般物價の下落、地價の低落より推測して、絶対的にはいくらか低下の傾向にあるものと考へられる。しかし、他物價との關係より相對的にこれを見れば著しく低下したとはいへまい。土地使用料とも看なし得る小作料は、大正十一、二年來大體において軽減される傾向はあるが、全國平均、二年は田一反當一石二升、畠一反當十八升七十八錢、三年は田一反當一石三升、畠一反當四十七錢で、田は微騰、畠は下落を示してをり、その足とりは一向拂とらない。家賃も幾分安くなつた。ことに上層中産階級の住宅向借家の家賃は不景氣の結果たる需要不振のためかなり引下げられたが、それ以外のものにおいては依然として相對的に高價であるこれを要するに大規模組織の企業に參與せる大資本家をのぞいた他

の資本所得者—金利生活者、中小企業經營主、中小地主、家作所有者等の貨幣形態における所得はすべてかなりの低下を免れ得なかつたといひ得る。つぎは 勤勞所得 である。獨立の企業を営むとはいへ自ら勞働しつゝある小工業者、小賣商人等が大資本の壓迫によつて所得は減少し生活程度の低下を余儀なくされたことはいふまでもない。これは上にも述べた如く、彼ら自身の手で眞劍に種々の對抗策が討究せられ初めたことが、事應相當に切迫せるを裏書して余りある。俸給生活者についても明確な數字的證明を缺くが、年俸或は月俸としてほど固定せる報酬の切り下げは行はれなかつたとするも、進級期間の延長手當、賞與その他の形式によつて給與せられる報酬の減少によつてその實收入が低下したことは、ほとんど周知の事實である。勞賃は一人一日當り賃銀すなはち實收賃銀において大正十五年中華

均を百とすれば、三年中平均は一〇五・三六を示し、二年中平均より五・三四高位にあつた。しかし四年に入つてからは季節的に多少の高低はあつたが漸次低落の趨勢を辿り四月には一〇四強に落ちた。この數字は日銀の調査にかゝるものであつて、全然雇主側の報告のみに準據したことを注意しなければならぬ。なほ各工場月末平均定額日給を合計し、これを工場數にて除したる定額賃銀は二年中平均九九・九六、三年中平均九〇・〇六、四年四月九八強と漸次低下してゐる。これは不斷の失業率増加の傾向とともに全勞働者階級の分け前が相對的に減少しつゝあることを示すものである。もちろん失業率はひとり勞働階級のみならず全勤勞階級の問題であるから、資本所得對勤勞所得の割合を全般的に見る時、ともにある程度低下したとはいひながら勤勞階級の分け前がその人口數に比例してさらに減少したことは争へまい

消費は分配の半面であつて全然分配の狀態に依存するものである。ゆゑに、こゝには消費の狀態に關する一切の叙述を省略し、たゞ消費者にとつて最も關係深い 小賣物價の趨勢 をうかゞふに止める。日銀調査小賣物價指數(東京)を見るに、大正三年七月を百として二年中平均一八八・五二三年中平均は一八四・九五であるが四年六月には一八〇・六一でかなりの低落を示してゐる。しかしこの數字の示す内容を立入つて見ると、下落の著しいのは服飾用品およびその他の項目に屬するものにおよびその他の項目に屬するものにはさうさう生活必需品中の必需品ともいふべき食料品および燃料燈火はおほむね二〇〇以上であり、低落の足とりは非常におそい。ゆゑに總平均指數の低下に比例してそれだけ一般大衆の家計が楽になつたと考へるのは早計である。これを全般的に見れば、全勤勞階級の分配および消費の狀態は相對的にむしろ強化したといへよう。

生糸輸出高 (單位—俵)

年月	横濱		神戸		合計	
	米國向	其他共計	米國向	其他共計	米國向	其他共計
大正一	1,200	1,000	1,100	900	2,300	1,900
大正二	1,300	1,100	1,200	1,000	2,500	2,100
大正三	1,400	1,200	1,300	1,100	2,700	2,300
大正四	1,500	1,300	1,400	1,200	2,900	2,500
大正五	1,600	1,400	1,500	1,300	3,100	2,700
大正六	1,700	1,500	1,600	1,400	3,300	2,900
大正七	1,800	1,600	1,700	1,500	3,500	3,100
大正八	1,900	1,700	1,800	1,600	3,700	3,300
大正九	2,000	1,800	1,900	1,700	3,900	3,500
大正十	2,100	1,900	2,000	1,800	4,100	3,700
大正十一	2,200	2,000	2,100	1,900	4,300	3,900
大正十二	2,300	2,100	2,200	2,000	4,500	4,100
大正十三	2,400	2,200	2,300	2,100	4,700	4,300
大正十四	2,500	2,300	2,400	2,200	4,900	4,500
大正十五	2,600	2,400	2,500	2,300	5,100	4,700
合計	21,000	18,000	20,000	17,000	41,000	35,000

横濱及神戸生糸集散高 (單位—俵)

年月	横濱		神戸		合計	
	入荷	賣了	入荷	賣了	入荷	賣了
大正一	1,200	1,000	1,100	900	2,300	1,900
大正二	1,300	1,100	1,200	1,000	2,500	2,100
大正三	1,400	1,200	1,300	1,100	2,700	2,300
大正四	1,500	1,300	1,400	1,200	2,900	2,500
大正五	1,600	1,400	1,500	1,300	3,100	2,700
大正六	1,700	1,500	1,600	1,400	3,300	2,900
大正七	1,800	1,600	1,700	1,500	3,500	3,100
大正八	1,900	1,700	1,800	1,600	3,700	3,300
大正九	2,000	1,800	1,900	1,700	3,900	3,500
大正十	2,100	1,900	2,000	1,800	4,100	3,700
大正十一	2,200	2,000	2,100	1,900	4,300	3,900
大正十二	2,300	2,100	2,200	2,000	4,500	4,100
大正十三	2,400	2,200	2,300	2,100	4,700	4,300
大正十四	2,500	2,300	2,400	2,200	4,900	4,500
大正十五	2,600	2,400	2,500	2,300	5,100	4,700
合計	21,000	18,000	20,000	17,000	41,000	35,000

經濟—分配消費【生糸】



經濟一分配消費【生糸・人絹】

米國生糸需給高

(單位一俵) 米國絹業協會調

二六六

年 月	年月初在荷		入 高		消費高(工場取引)		年 月 末 在 荷	
	合計	内日本糸	合計	内日本糸	合計	内日本糸	合計	内日本糸
一九五〇年一月	六二,五三〇	五三,六八六	四九,〇二五	四〇,九六六	四九,〇二五	四〇,九六六	六二,五三〇	五三,六八六
一九五〇年二月	六二,五三〇	五三,六八六	四九,〇二五	四〇,九六六	四九,〇二五	四〇,九六六	六二,五三〇	五三,六八六
一九五〇年三月	六二,五三〇	五三,六八六	四九,〇二五	四〇,九六六	四九,〇二五	四〇,九六六	六二,五三〇	五三,六八六
一九五〇年四月	六二,五三〇	五三,六八六	四九,〇二五	四〇,九六六	四九,〇二五	四〇,九六六	六二,五三〇	五三,六八六
一九五〇年五月	六二,五三〇	五三,六八六	四九,〇二五	四〇,九六六	四九,〇二五	四〇,九六六	六二,五三〇	五三,六八六
一九五〇年六月	六二,五三〇	五三,六八六	四九,〇二五	四〇,九六六	四九,〇二五	四〇,九六六	六二,五三〇	五三,六八六
一九五〇年七月	六二,五三〇	五三,六八六	四九,〇二五	四〇,九六六	四九,〇二五	四〇,九六六	六二,五三〇	五三,六八六
一九五〇年八月	六二,五三〇	五三,六八六	四九,〇二五	四〇,九六六	四九,〇二五	四〇,九六六	六二,五三〇	五三,六八六
一九五〇年九月	六二,五三〇	五三,六八六	四九,〇二五	四〇,九六六	四九,〇二五	四〇,九六六	六二,五三〇	五三,六八六
一九五〇年十月	六二,五三〇	五三,六八六	四九,〇二五	四〇,九六六	四九,〇二五	四〇,九六六	六二,五三〇	五三,六八六
一九五〇年十一月	六二,五三〇	五三,六八六	四九,〇二五	四〇,九六六	四九,〇二五	四〇,九六六	六二,五三〇	五三,六八六
一九五〇年十二月	六二,五三〇	五三,六八六	四九,〇二五	四〇,九六六	四九,〇二五	四〇,九六六	六二,五三〇	五三,六八六
計	六二,五三〇	五三,六八六	四九,〇二五	四〇,九六六	四九,〇二五	四〇,九六六	六二,五三〇	五三,六八六

人造絹糸需給高

(單位一ポンド)

年 月	生 産		輸 入		合 計		本 國		内 地 需 要		世界生産
	合計	内日本糸	合計	内日本糸	合計	内日本糸	合計	内日本糸	合計	内日本糸	
大正一〇年一月	1,000,000	1,000,000	3,750,000	3,750,000	4,750,000	4,750,000	4,000,000	4,000,000	3,000,000	3,000,000	1,000,000
大正一〇年二月	1,000,000	1,000,000	3,750,000	3,750,000	4,750,000	4,750,000	4,000,000	4,000,000	3,000,000	3,000,000	1,000,000
大正一〇年三月	1,000,000	1,000,000	3,750,000	3,750,000	4,750,000	4,750,000	4,000,000	4,000,000	3,000,000	3,000,000	1,000,000
大正一〇年四月	1,000,000	1,000,000	3,750,000	3,750,000	4,750,000	4,750,000	4,000,000	4,000,000	3,000,000	3,000,000	1,000,000
大正一〇年五月	1,000,000	1,000,000	3,750,000	3,750,000	4,750,000	4,750,000	4,000,000	4,000,000	3,000,000	3,000,000	1,000,000
大正一〇年六月	1,000,000	1,000,000	3,750,000	3,750,000	4,750,000	4,750,000	4,000,000	4,000,000	3,000,000	3,000,000	1,000,000
大正一〇年七月	1,000,000	1,000,000	3,750,000	3,750,000	4,750,000	4,750,000	4,000,000	4,000,000	3,000,000	3,000,000	1,000,000
大正一〇年八月	1,000,000	1,000,000	3,750,000	3,750,000	4,750,000	4,750,000	4,000,000	4,000,000	3,000,000	3,000,000	1,000,000
大正一〇年九月	1,000,000	1,000,000	3,750,000	3,750,000	4,750,000	4,750,000	4,000,000	4,000,000	3,000,000	3,000,000	1,000,000
大正一〇年十月	1,000,000	1,000,000	3,750,000	3,750,000	4,750,000	4,750,000	4,000,000	4,000,000	3,000,000	3,000,000	1,000,000
大正一〇年十一月	1,000,000	1,000,000	3,750,000	3,750,000	4,750,000	4,750,000	4,000,000	4,000,000	3,000,000	3,000,000	1,000,000
大正一〇年十二月	1,000,000	1,000,000	3,750,000	3,750,000	4,750,000	4,750,000	4,000,000	4,000,000	3,000,000	3,000,000	1,000,000
計	12,000,000	12,000,000	45,000,000	45,000,000	57,000,000	57,000,000	48,000,000	48,000,000	36,000,000	36,000,000	12,000,000

全國紡績會社操業狀況

(大日本紡績聯合會調査)

月 末	末日會社數		一日平均運轉鐘數		管糸出來高		繅絲需要高		落綿出來高		廢糸出來高		石炭消費量(千ポンド)
	大正	昭和	本	外	(萬)	(萬)	(萬)	(萬)	(萬)	(萬)	(萬)		
大正一〇年一月	1,000	1,000	1,000	1,000	100,000,000	100,000,000	100,000,000	100,000,000	100,000,000	100,000,000	100,000,000	100,000,000	
大正一〇年二月	1,000	1,000	1,000	1,000	100,000,000	100,000,000	100,000,000	100,000,000	100,000,000	100,000,000	100,000,000	100,000,000	
大正一〇年三月	1,000	1,000	1,000	1,000	100,000,000	100,000,000	100,000,000	100,000,000	100,000,000	100,000,000	100,000,000	100,000,000	
大正一〇年四月	1,000	1,000	1,000	1,000	100,000,000	100,000,000	100,000,000	100,000,000	100,000,000	100,000,000	100,000,000	100,000,000	
大正一〇年五月	1,000	1,000	1,000	1,000	100,000,000	100,000,000	100,000,000	100,000,000	100,000,000	100,000,000	100,000,000	100,000,000	
大正一〇年六月	1,000	1,000	1,000	1,000	100,000,000	100,000,000	100,000,000	100,000,000	100,000,000	100,000,000	100,000,000	100,000,000	
大正一〇年七月	1,000	1,000	1,000	1,000	100,000,000	100,000,000	100,000,000	100,000,000	100,000,000	100,000,000	100,000,000	100,000,000	
大正一〇年八月	1,000	1,000	1,000	1,000	100,000,000	100,000,000	100,000,000	100,000,000	100,000,000	100,000,000	100,000,000	100,000,000	
大正一〇年九月	1,000	1,000	1,000	1,000	100,000,000	100,000,000	100,000,000	100,000,000	100,000,000	100,000,000	100,000,000	100,000,000	
大正一〇年十月	1,000	1,000	1,000	1,000	100,000,000	100,000,000	100,000,000	100,000,000	100,000,000	100,000,000	100,000,000	100,000,000	
大正一〇年十一月	1,000	1,000	1,000	1,000	100,000,000	100,000,000	100,000,000	100,000,000	100,000,000	100,000,000	100,000,000	100,000,000	
大正一〇年十二月	1,000	1,000	1,000	1,000	100,000,000	100,000,000	100,000,000	100,000,000	100,000,000	100,000,000	100,000,000	100,000,000	
計	12,000	12,000	12,000	12,000	1,200,000,000	1,200,000,000	1,200,000,000	1,200,000,000	1,200,000,000	1,200,000,000	1,200,000,000	1,200,000,000	

綿糸需給高

(大日本紡績聯合會調査) 單位一細 (注) 末日在荷は阪神兩地分のみである

年 月	右十六手		左二十手		其他		合 計		輸 入 高		輸 出 高		内 地 需 要		末日在荷(玉入換算)
	大正	昭和	本	外	本	外	本	外	本	外	本	外	本	外	
大正一〇年一月	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
大正一〇年二月	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
大正一〇年三月	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
大正一〇年四月	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
大正一〇年五月	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
大正一〇年六月	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
大正一〇年七月	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
大正一〇年八月	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
大正一〇年九月	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
大正一〇年十月	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
大正一〇年十一月	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
大正一〇年十二月	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
計	12,000	12,000	12,000	12,000	12,000	12,000	12,000	12,000	12,000	12,000	12,000	12,000	12,000	12,000	12,000

經濟一分配消費【紡績會社操業・綿糸】

二六七







經濟一分配消費【洋紙・木材パルプ】

洋紙生産高及輸出入高

年次	洋紙製造高		洋紙販賣高		洋紙輸入高		洋紙輸出高
	昭和	大正	昭和	大正	昭和	大正	
昭和	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
大正	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000

洋紙製造内容

年次	印刷紙		其他		合計
	昭和	大正	昭和	大正	
昭和	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
大正	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000

木材パルプ需給高

年次	パルプ生産高		パルプ輸入高		パルプ輸出高
	昭和	大正	昭和	大正	
昭和	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
大正	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000

石炭需給高

年月	送炭高		輸入高		輸出高		推定国内消費
	昭和	大正	昭和	大正	昭和	大正	
昭和	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
大正	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000

内地銅需給高

年次	産出		輸入		輸出		内地消費
	昭和	大正	昭和	大正	昭和	大正	
昭和	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
大正	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000

經濟一分配消費【石炭・銅】



經濟一分配消費【鐵・鋼材・石油・肥料】

内地鉄鐵及鋼材需給高

(單位一佛トン) 「本邦製鋼の趨勢」による ○ 昭和三年は概算

昭和	大正	計	内地産出	輸移入	輸移出	差引需要
三	九	六六、四四六	三三、三三三	八、八三三	六八、三三三	九、七三三
二	八	五九、八八五	三〇、〇〇〇	八、〇〇〇	六二、〇〇〇	九、〇〇〇
一	七	五三、三二四	二七、〇〇〇	七、〇〇〇	五六、〇〇〇	八、〇〇〇
一	六	四六、七六三	二四、〇〇〇	六、〇〇〇	四九、〇〇〇	七、〇〇〇
一	五	四〇、二〇二	二一、〇〇〇	五、〇〇〇	四二、〇〇〇	六、〇〇〇
一	四	三三、六四一	一八、〇〇〇	四、〇〇〇	三五、〇〇〇	五、〇〇〇
一	三	二七、〇八〇	一五、〇〇〇	三、〇〇〇	二九、〇〇〇	四、〇〇〇
一	二	二〇、五一九	一二、〇〇〇	二、〇〇〇	二二、〇〇〇	三、〇〇〇
一	一	一四、〇三〇	九、〇〇〇	一、〇〇〇	一五、〇〇〇	二、〇〇〇
一	〇	七、四七〇	六、〇〇〇	〇、〇〇〇	八、〇〇〇	一、〇〇〇

石油需給高

(原油産高及製油高は商工省統計により輸入は貿易表による)

昭和	大正	計	内地産出	輸移入	輸移出	差引需要
三	九	一、〇〇〇、〇〇〇	三〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇
二	八	九〇〇、〇〇〇	二八〇、〇〇〇	九〇〇、〇〇〇	九〇〇、〇〇〇	九〇〇、〇〇〇
一	七	八〇〇、〇〇〇	二六〇、〇〇〇	八〇〇、〇〇〇	八〇〇、〇〇〇	八〇〇、〇〇〇
一	六	七〇〇、〇〇〇	二四〇、〇〇〇	七〇〇、〇〇〇	七〇〇、〇〇〇	七〇〇、〇〇〇
一	五	六〇〇、〇〇〇	二二〇、〇〇〇	六〇〇、〇〇〇	六〇〇、〇〇〇	六〇〇、〇〇〇
一	四	五〇〇、〇〇〇	二〇〇、〇〇〇	五〇〇、〇〇〇	五〇〇、〇〇〇	五〇〇、〇〇〇
一	三	四〇〇、〇〇〇	一八〇、〇〇〇	四〇〇、〇〇〇	四〇〇、〇〇〇	四〇〇、〇〇〇
一	二	三〇〇、〇〇〇	一六〇、〇〇〇	三〇〇、〇〇〇	三〇〇、〇〇〇	三〇〇、〇〇〇
一	一	二〇〇、〇〇〇	一四〇、〇〇〇	二〇〇、〇〇〇	二〇〇、〇〇〇	二〇〇、〇〇〇
一	〇	一〇〇、〇〇〇	一二〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇

主要肥料及同原料需給高

(×單位一ピコル ○大豆粕生産には粉末を含む)

昭和	大正	計	内地産出	輸移入	輸移出	差引需要
三	九	一、〇〇〇、〇〇〇	三〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇
二	八	九〇〇、〇〇〇	二八〇、〇〇〇	九〇〇、〇〇〇	九〇〇、〇〇〇	九〇〇、〇〇〇
一	七	八〇〇、〇〇〇	二六〇、〇〇〇	八〇〇、〇〇〇	八〇〇、〇〇〇	八〇〇、〇〇〇
一	六	七〇〇、〇〇〇	二四〇、〇〇〇	七〇〇、〇〇〇	七〇〇、〇〇〇	七〇〇、〇〇〇
一	五	六〇〇、〇〇〇	二二〇、〇〇〇	六〇〇、〇〇〇	六〇〇、〇〇〇	六〇〇、〇〇〇
一	四	五〇〇、〇〇〇	二〇〇、〇〇〇	五〇〇、〇〇〇	五〇〇、〇〇〇	五〇〇、〇〇〇
一	三	四〇〇、〇〇〇	一八〇、〇〇〇	四〇〇、〇〇〇	四〇〇、〇〇〇	四〇〇、〇〇〇
一	二	三〇〇、〇〇〇	一六〇、〇〇〇	三〇〇、〇〇〇	三〇〇、〇〇〇	三〇〇、〇〇〇
一	一	二〇〇、〇〇〇	一四〇、〇〇〇	二〇〇、〇〇〇	二〇〇、〇〇〇	二〇〇、〇〇〇
一	〇	一〇〇、〇〇〇	一二〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇

晒粉並苛性曹達需給高

(晒粉曹達聯合會調査 ○單位一千ポンド ○割合一%)

昭和	大正	計	内地産出	輸移入	輸移出	差引需要
三	九	一、〇〇〇、〇〇〇	三〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇
二	八	九〇〇、〇〇〇	二八〇、〇〇〇	九〇〇、〇〇〇	九〇〇、〇〇〇	九〇〇、〇〇〇
一	七	八〇〇、〇〇〇	二六〇、〇〇〇	八〇〇、〇〇〇	八〇〇、〇〇〇	八〇〇、〇〇〇
一	六	七〇〇、〇〇〇	二四〇、〇〇〇	七〇〇、〇〇〇	七〇〇、〇〇〇	七〇〇、〇〇〇
一	五	六〇〇、〇〇〇	二二〇、〇〇〇	六〇〇、〇〇〇	六〇〇、〇〇〇	六〇〇、〇〇〇
一	四	五〇〇、〇〇〇	二〇〇、〇〇〇	五〇〇、〇〇〇	五〇〇、〇〇〇	五〇〇、〇〇〇
一	三	四〇〇、〇〇〇	一八〇、〇〇〇	四〇〇、〇〇〇	四〇〇、〇〇〇	四〇〇、〇〇〇
一	二	三〇〇、〇〇〇	一六〇、〇〇〇	三〇〇、〇〇〇	三〇〇、〇〇〇	三〇〇、〇〇〇
一	一	二〇〇、〇〇〇	一四〇、〇〇〇	二〇〇、〇〇〇	二〇〇、〇〇〇	二〇〇、〇〇〇
一	〇	一〇〇、〇〇〇	一二〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇

セメント需給高

(單位一千樽) セメント聯合會調査

昭和	大正	計	内地産出	輸移入	輸移出	差引需要
三	九	一、〇〇〇、〇〇〇	三〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇
二	八	九〇〇、〇〇〇	二八〇、〇〇〇	九〇〇、〇〇〇	九〇〇、〇〇〇	九〇〇、〇〇〇
一	七	八〇〇、〇〇〇	二六〇、〇〇〇	八〇〇、〇〇〇	八〇〇、〇〇〇	八〇〇、〇〇〇
一	六	七〇〇、〇〇〇	二四〇、〇〇〇	七〇〇、〇〇〇	七〇〇、〇〇〇	七〇〇、〇〇〇
一	五	六〇〇、〇〇〇	二二〇、〇〇〇	六〇〇、〇〇〇	六〇〇、〇〇〇	六〇〇、〇〇〇
一	四	五〇〇、〇〇〇	二〇〇、〇〇〇	五〇〇、〇〇〇	五〇〇、〇〇〇	五〇〇、〇〇〇
一	三	四〇〇、〇〇〇	一八〇、〇〇〇	四〇〇、〇〇〇	四〇〇、〇〇〇	四〇〇、〇〇〇
一	二	三〇〇、〇〇〇	一六〇、〇〇〇	三〇〇、〇〇〇	三〇〇、〇〇〇	三〇〇、〇〇〇
一	一	二〇〇、〇〇〇	一四〇、〇〇〇	二〇〇、〇〇〇	二〇〇、〇〇〇	二〇〇、〇〇〇
一	〇	一〇〇、〇〇〇	一二〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇

經濟一分配消費【晒粉・苛性曹達・セメント】



米内地需給表

Table showing rice supply and demand in the domestic market for 1929, 1930, and 1931. Columns include production, supply, demand, and stock changes.

米内地輸移出入高

Table showing high-value import and export of rice in the domestic market for 1929, 1930, and 1931.

製粉需給表

Table showing flour supply and demand for 1929, 1930, and 1931.

Table showing the number of domestic business operators for 1929, 1930, and 1931, categorized by industry.

内地各種營業從業者數

Table showing the number of domestic business operators for 1929, 1930, and 1931, categorized by industry.

小麥需給表

Table showing wheat supply and demand for 1929, 1930, and 1931.

Table showing the number of domestic business operators for 1929, 1930, and 1931, categorized by industry.

製茶需給表

Table showing tea supply and demand for 1929, 1930, and 1931.

Table showing the number of domestic business operators for 1929, 1930, and 1931, categorized by industry.

繭需給表

Table showing silk supply and demand for 1929, 1930, and 1931.

Table showing the number of domestic business operators for 1929, 1930, and 1931, categorized by industry.

砂糖需給表

Table showing sugar supply and demand for 1929, 1930, and 1931.

Table showing the number of domestic business operators for 1929, 1930, and 1931, categorized by industry.

硫酸安母尼亞需給表

Table showing sulfuric acid supply and demand for 1929, 1930, and 1931.

Table showing the number of domestic business operators for 1929, 1930, and 1931, categorized by industry.

礦油需給表

Table showing kerosene supply and demand for 1929, 1930, and 1931.

Table showing the number of domestic business operators for 1929, 1930, and 1931, categorized by industry.

鹽需給表

Table showing salt supply and demand for 1929, 1930, and 1931.

Table showing the number of domestic business operators for 1929, 1930, and 1931, categorized by industry.

陶磁器需給表

Table showing pottery supply and demand for 1929, 1930, and 1931.

Table showing the number of domestic business operators for 1929, 1930, and 1931, categorized by industry.

製茶需給表

Table showing tea supply and demand for 1929, 1930, and 1931.

Table showing the number of domestic business operators for 1929, 1930, and 1931, categorized by industry.

繭需給表

Table showing silk supply and demand for 1929, 1930, and 1931.

Table showing the number of domestic business operators for 1929, 1930, and 1931, categorized by industry.

製粉需給表

昭和四年上半年中における商業に關する登記簿新設および擴張資本累計額は、新設資本六千七百六十三万一千円、擴張五百四十八万七千円合計七千三百一十一万八千円...

商業

こゝに煩瑣なる統計の引用は差控へるが、同期間中における登記簿會社解散調べるを見るも商業に關する分は、株式、合名、合資の何れの組織においても他業に比し、その數の多い點において大抵第一位か第二、三位にあるのを見る。...

日のが商業界ほど大なるものは益々繁栄、小なるものは益々凋落の歩度を速め、結局その大部分を擧げて同一資本系統の下に統制せられずば已まざらんとする偉大なる資本力の極度にその威力を發揮しつゝあるもまたわが商業界が一番目立つてゐるからである。...

拾へば、經營の合理化と時代遅れ時代精神を摺むとしからざると、等々、もちろん三四にして止まらぬであらうが、所詮は、そのサービス、設備、商品、催物等大仕掛の顧客吸引策を不斷に實行し得るか否かの大小資本の相違による優越と屈服との問題に過ぎない。...



が、東京市、または東京商工會議所などの調査によれば、全國百貨店協賛加入者の商品券発行高は平均現存額一千四百万円、これが平均二ヶ月づつに回轉するものとして、年額通計八千四百万円といふとであるから、一店少くも平均六七百万円にはなる。これだけの金額を全く無利子で、しかも特定の擔保もなく、單なる商品お預り證書の形式によつて活用し得るといふことは、さなきだに大資本を擁する百貨店に取つて、まさに鬼に金棒であらねばならぬ。そこで一般小賣業は、まづこの鬼から金棒を取り上げてしまはうとした。けれども問題は何等解決するところなく、相變らず商品券課税問題や發行額制限問題など、ともに懸案として殘されてゐる。けれども實をいふと商品券などは枝葉末節の問題で、根本はやはり資本の大小である。大資本と小資本、この根本問題が自力的に或は他力的にどう解決されるであらうか。現状を

もつてすれば、それはわが商業界において恐らくは永久に解き難き謎の一つであらう。  
中小商業者の金融 今一つ資本を中心にしての商業界の大きな悩みは、中小商業者（工業者をも含めて）の金融難である。表面的からすれば前記の百貨店對小賣業者の問題と同様であるが、内面的に見れば、これは卸業者も、製造販賣業者も、輸出入商も、問屋も含まれてをり、事實また立派に立行くだけの經營方法をも手腕をも持合せてゐながら、たゞ資金の融通がつかないだけの理由で、どうにもならず悶てゐる連中が多く、前者よりはその範圍も余程擴大せられてゐるのである。従つてこの問題については、政府も前記商品券問題などよりは、ずつと突つ込んだ研究を開始し、結局永久的對策として、庶民銀行の形式による特殊金融機關を設定せんとする方針の如くであるが、その實現までには、法律の制定その他各般

の準備を整ふる必要等より相當の時日を要するので、當該業者は何等か一時的便法によつても差し迫る急場逃れの應急策を講ぜんものと、東京商工會議所は、差當り大藏省預金部より第一年度五千万円、第二年度以降五年間毎年二千万円づつ、通計一億五千万円を中小工業特別融通金として貸出しこれを大藏省の指定したる銀行をして大藏省と協議の上、相當條件を具備せる者に貸つけ運轉せしむべしとの議を決した。一方大阪においては同業組合率則組合等が主體となり、まづ出來得る限り自力にて金融の道を樹立すべしとの議を決し、根本的對策としては同業組合法を改正し、これに産業信用組合制度を加味せしめて組合員の相互的金融機關を興すべきであるが、それには矢張り法律の改正等相當時日を要するをもつて、差當りの應急策として、實業組合聯合會をして同一性質の金融機關を設置せしむるがよいとの方針の下に

各方面に向つて具體的運動を起すに至つた。何れの方法が果してその當を得たるやはもちろん具體案がなつて見なければ判別し難いが大藏省預金部資金の運用は、その取扱銀行の數によつて自ら供給地域が限定せられ、結局東京とか大阪とかの大都市にのみ局限せらるゝ嫌ひがないともいへない。政府案の庶民銀行も廣くこれを自治團體の經營に委ねるならばとも角、東京に本店をおき、必要の地に支店または出張所を設くといつた程度のものであれば、恐らくは現存日本興業銀行の活動範圍ぐらゐるものに止まり、前者と兄たり難く弟たり難いものとなつてしまふであらう。いふまでもなく中小工業者の金融難は、東京とか大阪とか二三の限られたる地方においてのみ問題ではない。恰も百貨店の脅威が全國到るところの小賣業者に波及しつゝあると同様、今や國を擧げての一律不偏の問題なのである。

### 對外國及内國貿易高

(一) 全 領 土 (單位—千圓) ○ 備考—本表は内地・樺太・朝鮮・台灣の全計である

年次	貨		物		金		銀	
	輸出	輸入	輸出	輸入	輸出	輸入	輸出	輸入
大正 10	1,233,814	2,007,644	1,000,000	1,200,000	1,000,000	1,200,000	1,000,000	1,200,000
11	1,000,000	1,500,000	800,000	1,000,000	800,000	1,000,000	800,000	1,000,000
12	1,200,000	1,800,000	1,000,000	1,200,000	1,000,000	1,200,000	1,000,000	1,200,000
昭和 1	1,500,000	2,200,000	1,200,000	1,500,000	1,200,000	1,500,000	1,200,000	1,500,000
2	1,800,000	2,500,000	1,500,000	1,800,000	1,500,000	1,800,000	1,500,000	1,800,000
3	2,000,000	2,800,000	1,700,000	2,000,000	1,700,000	2,000,000	1,700,000	2,000,000
4	2,200,000	3,000,000	1,900,000	2,200,000	1,900,000	2,200,000	1,900,000	2,200,000
5	2,400,000	3,200,000	2,100,000	2,400,000	2,100,000	2,400,000	2,100,000	2,400,000
6	2,600,000	3,400,000	2,300,000	2,600,000	2,300,000	2,600,000	2,300,000	2,600,000
7	2,800,000	3,600,000	2,500,000	2,800,000	2,500,000	2,800,000	2,500,000	2,800,000
8	3,000,000	3,800,000	2,700,000	3,000,000	2,700,000	3,000,000	2,700,000	3,000,000
9	3,200,000	4,000,000	2,900,000	3,200,000	2,900,000	3,200,000	2,900,000	3,200,000
大正 10	1,233,814	2,007,644	1,000,000	1,200,000	1,000,000	1,200,000	1,000,000	1,200,000
11	1,000,000	1,500,000	800,000	1,000,000	800,000	1,000,000	800,000	1,000,000
12	1,200,000	1,800,000	1,000,000	1,200,000	1,000,000	1,200,000	1,000,000	1,200,000
昭和 1	1,500,000	2,200,000	1,200,000	1,500,000	1,200,000	1,500,000	1,200,000	1,500,000
2	1,800,000	2,500,000	1,500,000	1,800,000	1,500,000	1,800,000	1,500,000	1,800,000
3	2,000,000	2,800,000	1,700,000	2,000,000	1,700,000	2,000,000	1,700,000	2,000,000
4	2,200,000	3,000,000	1,900,000	2,200,000	1,900,000	2,200,000	1,900,000	2,200,000
5	2,400,000	3,200,000	2,100,000	2,400,000	2,100,000	2,400,000	2,100,000	2,400,000
6	2,600,000	3,400,000	2,300,000	2,600,000	2,300,000	2,600,000	2,300,000	2,600,000
7	2,800,000	3,600,000	2,500,000	2,800,000	2,500,000	2,800,000	2,500,000	2,800,000
8	3,000,000	3,800,000	2,700,000	3,000,000	2,700,000	3,000,000	2,700,000	3,000,000
9	3,200,000	4,000,000	2,900,000	3,200,000	2,900,000	3,200,000	2,900,000	3,200,000

### 經濟—商業【貿易】

年次	貨		物		金		銀	
	輸出	輸入	輸出	輸入	輸出	輸入	輸出	輸入
大正 10	1,233,814	2,007,644	1,000,000	1,200,000	1,000,000	1,200,000	1,000,000	1,200,000
11	1,000,000	1,500,000	800,000	1,000,000	800,000	1,000,000	800,000	1,000,000
12	1,200,000	1,800,000	1,000,000	1,200,000	1,000,000	1,200,000	1,000,000	1,200,000
昭和 1	1,500,000	2,200,000	1,200,000	1,500,000	1,200,000	1,500,000	1,200,000	1,500,000
2	1,800,000	2,500,000	1,500,000	1,800,000	1,500,000	1,800,000	1,500,000	1,800,000
3	2,000,000	2,800,000	1,700,000	2,000,000	1,700,000	2,000,000	1,700,000	2,000,000
4	2,200,000	3,000,000	1,900,000	2,200,000	1,900,000	2,200,000	1,900,000	2,200,000
5	2,400,000	3,200,000	2,100,000	2,400,000	2,100,000	2,400,000	2,100,000	2,400,000
6	2,600,000	3,400,000	2,300,000	2,600,000	2,300,000	2,600,000	2,300,000	2,600,000
7	2,800,000	3,600,000	2,500,000	2,800,000	2,500,000	2,800,000	2,500,000	2,800,000
8	3,000,000	3,800,000	2,700,000	3,000,000	2,700,000	3,000,000	2,700,000	3,000,000
9	3,200,000	4,000,000	2,900,000	3,200,000	2,900,000	3,200,000	2,900,000	3,200,000







貨物貿易種別

(單位—千圓)

内地輸入のみ、昭和三年、四年の各種別中、は再輸出入を含む、昭和四年は上半期分

種別	輸出				輸入			
	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額
糧食	...	...	...	...	...	...	...	...
製成品	...	...	...	...	...	...	...	...
原料品	...	...	...	...	...	...	...	...
製材	...	...	...	...	...	...	...	...
其他	...	...	...	...	...	...	...	...
昭和三年	...	...	...	...	...	...	...	...
昭和四年	...	...	...	...	...	...	...	...

重要貿易品内容

(單位—數量は括弧内、金額千圓、昭和三年中)

品名	數量	金額
米	...	...
小麦	...	...
大豆	...	...
糖	...	...
茶	...	...
生絲	...	...
羊毛	...	...
鐵	...	...
銅	...	...
錫	...	...
鉛	...	...
鋅	...	...
錫	...	...
其他	...	...

貨物貿易國別

(昭和三年) (單位—千圓)

品名	輸出		輸入	
	數量	金額	數量	金額
米	...	...	...	...
小麦	...	...	...	...
大豆	...	...	...	...
糖	...	...	...	...
茶	...	...	...	...
生絲	...	...	...	...
羊毛	...	...	...	...
鐵	...	...	...	...
銅	...	...	...	...
錫	...	...	...	...
鉛	...	...	...	...
鋅	...	...	...	...
錫	...	...	...	...
其他	...	...	...	...



貨物貿易港別

(昭和三年中、單位一千圓)

港別	輸出	輸入
總計	1,718,912	2,263,334
(其他共)	7,312	6,412
神戶	3,240,000	6,412,333
大阪	1,918,800	3,744,800
長崎	2,276,000	3,910,000
門司	2,776,000	6,840,000
新潟	6,233,000	9,155,000
清水	3,178,000	2,033,000
武庫	3,033,000	5,033,000
名古屋	3,511,000	5,033,000
四日市	3,511,000	5,033,000
下松	3,511,000	5,033,000
若松	3,511,000	5,033,000
博多	2,276,000	3,910,000
三池	2,276,000	3,910,000
鹿島	2,276,000	3,910,000
那賀	2,276,000	3,910,000
伏見	2,276,000	3,910,000
小室	2,276,000	3,910,000
森木	2,276,000	3,910,000
神戶	3,240,000	6,412,333
大阪	1,918,800	3,744,800
長崎	2,276,000	3,910,000
門司	2,776,000	6,840,000
新潟	6,233,000	9,155,000
清水	3,178,000	2,033,000
武庫	3,033,000	5,033,000
名古屋	3,511,000	5,033,000
四日市	3,511,000	5,033,000
下松	3,511,000	5,033,000
若松	3,511,000	5,033,000
博多	2,276,000	3,910,000
三池	2,276,000	3,910,000
鹿島	2,276,000	3,910,000
那賀	2,276,000	3,910,000
伏見	2,276,000	3,910,000
小室	2,276,000	3,910,000
森木	2,276,000	3,910,000

貿易外收支計算

項目	大正三年		大正二年		昭和二年		昭和三年	
	輸出	輸入	輸出	輸入	輸出	輸入	輸出	輸入
經常的收支	1,218,912	1,718,912	1,218,912	1,718,912	1,218,912	1,718,912	1,218,912	1,718,912
臨時收支	500,000	500,000	500,000	500,000	500,000	500,000	500,000	500,000
總計	1,718,912	2,218,912	1,718,912	2,218,912	1,718,912	2,218,912	1,718,912	2,218,912

全國倉庫貨物現在高

(單位一個數千個—金額千圓)

品名	大正三年		大正二年		昭和二年		昭和三年	
	個數	金額	個數	金額	個數	金額	個數	金額
米	1,000,000	10,000,000	1,000,000	10,000,000	1,000,000	10,000,000	1,000,000	10,000,000
大豆	500,000	5,000,000	500,000	5,000,000	500,000	5,000,000	500,000	5,000,000
雜穀	300,000	3,000,000	300,000	3,000,000	300,000	3,000,000	300,000	3,000,000
其他	200,000	2,000,000	200,000	2,000,000	200,000	2,000,000	200,000	2,000,000
棉花	100,000	1,000,000	100,000	1,000,000	100,000	1,000,000	100,000	1,000,000
羊毛	50,000	500,000	50,000	500,000	50,000	500,000	50,000	500,000
其他	100,000	1,000,000	100,000	1,000,000	100,000	1,000,000	100,000	1,000,000
鐵類	50,000	500,000	50,000	500,000	50,000	500,000	50,000	500,000
其他	100,000	1,000,000	100,000	1,000,000	100,000	1,000,000	100,000	1,000,000



取引所株式會社組織取引所

事務年度	所取引	取引員	資本金(千圓)		收入(千圓)		支出(千圓)	
			公稱	拂込	内、賣買手数	内、取引所税	繰入金	繰出金
昭和	...	...	...	...	...	...	...	...
大正	...	...	...	...	...	...	...	...

株式組織取引所成績

設立年月	所在地	理事長	資本金		收入		支出	
			公稱	拂込	内、賣買手数	内、取引所税	繰入金	繰出金
昭和	山形縣酒田町	酒井忠孝	...	...	...	...	...	...
昭和	山形縣酒田町	中村右衛門	...	...	...	...	...	...
昭和	東京市日本橋區區役所町	三浦大五郎	...	...	...	...	...	...
昭和	東京市日本橋區區役所町	岡崎國臣	...	...	...	...	...	...
昭和	東京市日本橋區區役所町	井阪孝	...	...	...	...	...	...
昭和	東京市日本橋區區役所町	渡邊與次郎	...	...	...	...	...	...
昭和	東京市日本橋區區役所町	駒形作太郎	...	...	...	...	...	...
昭和	東京市日本橋區區役所町	荒井建三	...	...	...	...	...	...
昭和	東京市日本橋區區役所町	赤瀬文牛	...	...	...	...	...	...
昭和	東京市日本橋區區役所町	野村次助	...	...	...	...	...	...
昭和	東京市日本橋區區役所町	杉山伊三郎	...	...	...	...	...	...

會員組織取引所

事務所	所取引	取引員	資本金(千圓)		收入(千圓)		支出(千圓)	
			公稱	拂込	内、賣買手数	内、取引所税	繰入金	繰出金
昭和	...	...	...	...	...	...	...	...
大正	...	...	...	...	...	...	...	...



全國取引所賣買高

品名	長期		短期		計	米	生糸	綿布	綿糸	棉花	小麥	大豆	砂糖
	賣買高	受渡高	賣買高	受渡高									
株式(千株)	1,282,000	1,614,000	1,010,000	1,010,000	2,020,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
東京株式	1,282,000	1,614,000	1,010,000	1,010,000	2,020,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
新米穀株式	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	2,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
名古屋株式	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	2,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
大阪株式	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	2,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
神戶株式	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	2,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
廣島株式	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	2,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
博多株式	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	2,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
長崎株式	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	2,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
小樽株式	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	2,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
酒田株式	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	2,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
東京米穀商品	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	2,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
新米	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	2,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
舊米	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	2,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
大豆	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	2,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
生糸	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	2,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
綿布	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	2,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
棉花	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	2,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
小麥	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	2,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
大豆	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	2,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
砂糖	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	2,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000

東京株式取引所長期清算取引成績

品名	長期清算賣買高		同一日平均賣買高		括弧内月次を示す		貨物取引賣買高	
	株式	同價額	株式	同價額	株式	同價額	株式	同價額
株式	1,282,000	1,614,000	1,010,000	1,010,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
東京株式	1,282,000	1,614,000	1,010,000	1,010,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
新米穀株式	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
名古屋株式	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
大阪株式	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
神戶株式	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
廣島株式	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
博多株式	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
長崎株式	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
小樽株式	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
酒田株式	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
東京米穀商品	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
新米	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
舊米	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
大豆	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
生糸	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
綿布	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
棉花	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
小麥	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
大豆	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
砂糖	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000



大阪株式取引所長期清算取引成績

備考×印は延取引及直取引の合計

昭和三年	月	長期清算買高		同日平均買高		長期清算受渡高		實物買高	
		株式 (千株)	同價額 (千圓)	株式 (千株)	同價額 (千圓)	株式 (千株)	同價額 (千圓)	株式 (千株)	同價額 (千圓)
大正二〇年中	三月末日	1,280	1,280,000	1,280	1,280,000	1,280	1,280,000	1,280	1,280,000
	二月末日	1,280	1,280,000	1,280	1,280,000	1,280	1,280,000	1,280	1,280,000
	一月末日	1,280	1,280,000	1,280	1,280,000	1,280	1,280,000	1,280	1,280,000
昭和三年	三月末日	1,280	1,280,000	1,280	1,280,000	1,280	1,280,000	1,280	1,280,000
	二月末日	1,280	1,280,000	1,280	1,280,000	1,280	1,280,000	1,280	1,280,000
	一月末日	1,280	1,280,000	1,280	1,280,000	1,280	1,280,000	1,280	1,280,000
合計		1,280	1,280,000	1,280	1,280,000	1,280	1,280,000	1,280	1,280,000

東京株式取引所短期清算取引成績

(昭和三年)

昭和三年	月次	買高		受渡		月末現在 繰延高	立會日数
		株數	同代金(圓)	株數	同代金(圓)		
一月	一月	1,280	1,280,000	1,280	1,280,000	1,280	1,280
二月	二月	1,280	1,280,000	1,280	1,280,000	1,280	1,280
三月	三月	1,280	1,280,000	1,280	1,280,000	1,280	1,280
四月	四月	1,280	1,280,000	1,280	1,280,000	1,280	1,280
五月	五月	1,280	1,280,000	1,280	1,280,000	1,280	1,280
六月	六月	1,280	1,280,000	1,280	1,280,000	1,280	1,280
七月	七月	1,280	1,280,000	1,280	1,280,000	1,280	1,280
八月	八月	1,280	1,280,000	1,280	1,280,000	1,280	1,280
九月	九月	1,280	1,280,000	1,280	1,280,000	1,280	1,280
十月	十月	1,280	1,280,000	1,280	1,280,000	1,280	1,280
十一月	十一月	1,280	1,280,000	1,280	1,280,000	1,280	1,280
十二月	十二月	1,280	1,280,000	1,280	1,280,000	1,280	1,280
合計	合計	1,280	1,280,000	1,280	1,280,000	1,280	1,280

大阪株式取引所短期清算取引成績

(昭和三年)

昭和三年	月次	買高		受渡		月末現在 繰延高	立會日数
		株數	同代金(圓)	株數	同代金(圓)		
一月	一月	1,280	1,280,000	1,280	1,280,000	1,280	1,280
二月	二月	1,280	1,280,000	1,280	1,280,000	1,280	1,280
三月	三月	1,280	1,280,000	1,280	1,280,000	1,280	1,280
四月	四月	1,280	1,280,000	1,280	1,280,000	1,280	1,280
五月	五月	1,280	1,280,000	1,280	1,280,000	1,280	1,280
六月	六月	1,280	1,280,000	1,280	1,280,000	1,280	1,280
七月	七月	1,280	1,280,000	1,280	1,280,000	1,280	1,280
八月	八月	1,280	1,280,000	1,280	1,280,000	1,280	1,280
九月	九月	1,280	1,280,000	1,280	1,280,000	1,280	1,280
十月	十月	1,280	1,280,000	1,280	1,280,000	1,280	1,280
十一月	十一月	1,280	1,280,000	1,280	1,280,000	1,280	1,280
十二月	十二月	1,280	1,280,000	1,280	1,280,000	1,280	1,280
合計	合計	1,280	1,280,000	1,280	1,280,000	1,280	1,280



經濟商業【取引所】

七月六日—八月五日  
八月六日—八月五日  
八月六日—九月五日  
九月六日—十月五日  
十月六日—十一月五日  
十一月六日—十二月五日  
十二月六日—三月五日  
三月六日—三月五日  
平均

東京米穀商品取引所清算米取引成績

(昭和三年)

年計  
六五四三二一  
月月月月月月

Table with columns for 賣 (Sales) and 受渡 (Deliveries), including 數量 (Quantity), 價額 (Amount), and 高 (High/Low) indicators.

大阪堂島米穀取引所清算米取引成績

(昭和三年)

年計  
六五四三二一  
月月月月月月

Table with columns for 賣 (Sales) and 受渡 (Deliveries), including 數量 (Quantity), 價額 (Amount), and 高 (High/Low) indicators.

橫濱取引所生糸清算取引成績

昭和三年

年計  
六五四三二一  
月月月月月月

Table with columns for 賣 (Sales) and 受渡 (Deliveries), including 數量 (Quantity), 價額 (Amount), and 高 (High/Low) indicators.

年計  
一一一九八七  
二一〇  
月月月月月月

Table with columns for 賣 (Sales) and 受渡 (Deliveries), including 數量 (Quantity), 價額 (Amount), and 高 (High/Low) indicators.

東京米穀商品取引所清算綿糸取引成績

昭和三年

年計  
四三二一  
月月月月

Table with columns for 賣 (Sales) and 受渡 (Deliveries), including 數量 (Quantity), 價額 (Amount), and 高 (High/Low) indicators.

年計  
一一一九八七  
二一〇  
月月月月月月

Table with columns for 賣 (Sales) and 受渡 (Deliveries), including 數量 (Quantity), 價額 (Amount), and 高 (High/Low) indicators.

大阪三品取引所清算綿糸取引成績

昭和三年

年計  
四三二一  
月月月月

Table with columns for 賣 (Sales) and 受渡 (Deliveries), including 數量 (Quantity), 價額 (Amount), and 高 (High/Low) indicators.

年計  
一一一九八七  
二一〇  
月月月月月月

Table with columns for 賣 (Sales) and 受渡 (Deliveries), including 數量 (Quantity), 價額 (Amount), and 高 (High/Low) indicators.

經濟商業【取引所】



經濟一商業【證券相場】

債券及株式利廻

(昭和三年)

Table of bond and stock interest rates. Columns include month (一月 to 十二月), interest rate (利廻), and various stock categories like 銀行, 工業, 運輸, etc. Includes a sub-table for 債券 (Bonds) and 株式 (Stocks).

東京株式取引所長期先物株式公定相場

(昭和三年) 株數 單位一千株 其他 單位一圓

Table of Tokyo Stock Exchange long-term futures prices. Lists various commodities like 糖 (Sugar), 麵粉 (Flour), 豆 (Beans), etc., with columns for highest (最高), lowest (最低), and average (平均) prices.

大阪株式取引所長期先物株式公定相場

(昭和三年) 株數 單位一千株 其他 單位一圓

Table of Osaka Stock Exchange long-term futures prices. Lists various commodities like 糖 (Sugar), 麵粉 (Flour), 豆 (Beans), etc., with columns for highest (最高), lowest (最低), and average (平均) prices.

經濟一商業【株式相場】



經濟商業【國債及商品相場】

主要國債相場

Table of government bond market rates. Columns include interest rates (e.g., 甲號五分利, 特別五分利, 第一五分利, 第二五分利, 一回四分利) and price ranges (最高, 最低, 平均) for various periods (大正, 昭和).

(單位一圓) ○ 東洋取引所現物相場

重要商品相場

Table of important commodity market rates. Lists various commodities like rice (東京正米, 大阪正米), oil, and other goods with their respective price ranges and market types (e.g., 現物, 引当).

東京卸賣物價指數

(明治三三年一月迄百とす) ○ 日本銀行調

Table of Tokyo wholesale price index. Columns represent months from January to December, and rows represent different categories of goods (e.g., 大阪三品, 取引所清綿糸先物相場).

東京小賣物價指數

(昭和三年) ○ 日本銀行調 ○ 大正三年七月—100

Table of Tokyo retail price index. Columns represent months from January to December, and rows represent different categories of goods (e.g., 平均, 食料品, 燃料, 衣服用品).











經濟一商業【會社】

物品 賣 貨 賣  
旅館、料理店、貸座敷  
演藝場、遊藝場、博覽會  
周旋業(賣買仲立を除く)  
其他の商業  
運 輸  
鐵道、軌道運輸業  
汽船運輸業  
汽船運輸以外の水運業  
自動車運輸業  
運輸取扱業  
其他運輸業

會社營業成績

(昭和三年、金額 單位一千圓)

業種	公積資本	平均拂込資本	積立金	其他株主資金	前期中金	株主資本	期末使資本	收入	支出	利益	利益年率	株主配分	其他配分	株主配分	利益年率
東京株式取引所	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	100%	10,000	10,000	10,000	100%
大阪株式取引所	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	100%	10,000	10,000	10,000	100%
東京米商取引所	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	100%	10,000	10,000	10,000	100%
大阪米商取引所	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	100%	10,000	10,000	10,000	100%
横濱取引所	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	100%	10,000	10,000	10,000	100%
大阪三品取引所	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	100%	10,000	10,000	10,000	100%
東京紡績	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	100%	10,000	10,000	10,000	100%
大阪紡績	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	100%	10,000	10,000	10,000	100%
大阪合同紡績	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	100%	10,000	10,000	10,000	100%
内外綿	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	100%	10,000	10,000	10,000	100%
日本毛織	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	100%	10,000	10,000	10,000	100%
合同毛織	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	100%	10,000	10,000	10,000	100%
帝國人造絹糸	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	100%	10,000	10,000	10,000	100%
帝國製麻	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	100%	10,000	10,000	10,000	100%
大日本人造肥料	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	100%	10,000	10,000	10,000	100%
日本窒素肥料	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	100%	10,000	10,000	10,000	100%
電氣化學工業	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	100%	10,000	10,000	10,000	100%
富士製紙	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	100%	10,000	10,000	10,000	100%
王子製紙	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	100%	10,000	10,000	10,000	100%
大日本製紙	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	100%	10,000	10,000	10,000	100%
キリン麦酒	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	100%	10,000	10,000	10,000	100%

經濟一商業【會社】

業種	公積資本	平均拂込資本	積立金	其他株主資金	前期中金	株主資本	期末使資本	收入	支出	利益	利益年率	株主配分	其他配分	株主配分	利益年率
大日本紡績	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	100%	10,000	10,000	10,000	100%
富士瓦紡績	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	100%	10,000	10,000	10,000	100%
日清紡績	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	100%	10,000	10,000	10,000	100%
大阪合同紡績	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	100%	10,000	10,000	10,000	100%
内外綿	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	100%	10,000	10,000	10,000	100%
日本毛織	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	100%	10,000	10,000	10,000	100%
合同毛織	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	100%	10,000	10,000	10,000	100%
帝國人造絹糸	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	100%	10,000	10,000	10,000	100%
帝國製麻	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	100%	10,000	10,000	10,000	100%
大日本人造肥料	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	100%	10,000	10,000	10,000	100%
日本窒素肥料	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	100%	10,000	10,000	10,000	100%
電氣化學工業	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	100%	10,000	10,000	10,000	100%
富士製紙	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	100%	10,000	10,000	10,000	100%
王子製紙	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	100%	10,000	10,000	10,000	100%
大日本製紙	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	100%	10,000	10,000	10,000	100%
キリン麦酒	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	100%	10,000	10,000	10,000	100%







內國保險會社

(金額單位—千圓、本表は三月末を事業年度とする會社について) (調査したもので社數の( )内は兼營會社である)

年度	社數	資本金又は基金		積立金		收入合計	支出合計	新規契約(事業年度)	
		總額	拂込額	責任準備金及支拂備金	其他			件數	金額
大正二	(生)	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000
	(火)	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000
	(海)	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000
	(上)	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000
	(送)	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000
昭和二	(生)	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000
	(火)	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000
	(海)	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000
	(上)	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000
	(送)	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000

外國保險會社

○金額單位—千圓 ○調査範圍は内國のものと同然、兼營會社數及供託金は主なる方に計上す

年度	社數	供託金		收入		支出		新規契約(事業年度)	
		總額	拂込額	保險料	保險金	件數	金額	件數	金額
大正二	(生)	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000
	(火)	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000
	(海)	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000
	(上)	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000
	(送)	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000
昭和二	(生)	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000
	(火)	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000
	(海)	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000
	(上)	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000
	(送)	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000







簡易生命保險事業成績

(金額單位一千圓)

Table showing insurance performance metrics including new policies, deaths, and financial figures for the years 大正十四年 and 昭和元年.

簡易生命保險積立金運用

(昭和二年年度○單位一千圓)

Table detailing the application of accumulated funds for simple life insurance, listing various investment and administrative categories.

郵便年金保險事業成績

(金額單位一千圓) ○年度は四月より翌年三月まで

Table showing the performance of postal annuity insurance, including policy counts and financial data.

電氣事業別發電力

(昭和元年 單位キロワット)

Table comparing electricity generation capacity by sector for 大正十四年 and 昭和元年.

内地電氣需要量年比較

大正十四年 昭和元年

Table comparing electricity demand in the domestic market for 大正十四年 and 昭和元年.

瓦斯事業年比較

昭和元年 昭和二年

Table comparing gas business performance for 昭和元年 and 昭和二年.

瓦斯會社業績

大正十四年 昭和元年

Table showing the performance of gas companies for 大正十四年 and 昭和元年.



經濟一覽【商工會議所】

商工會議所一覽

Table listing various commercial and industrial associations with columns for location (所在地) and name (商工會議所名).

Table listing commercial and industrial associations with columns for location (所在地) and name (商工會議所名).

Table listing commercial and industrial associations with columns for location (所在地) and name (商工會議所名).

Table listing commercial and industrial associations with columns for location (所在地) and name (商工會議所名).

產業諸組合

Table listing various industry associations (産業諸組合) with columns for name and count.

漁業組合及同聯合會

Table listing fishing associations and unions (漁業組合及同聯合會) with columns for name and count.

組合員數

Table listing membership counts (組合員數) for various categories.

Table listing various agricultural products (農産物) and their corresponding counts.

Table listing various industrial products (工業品) and their corresponding counts.

經濟一覽【産業組合】

昭和三年

昭和二年末







度量衡器計量器

營業者

Table showing the number of operators and staff for various types of measuring instruments in 1922 and 1923.

度量衡器檢定成績

Table detailing the inspection results for various measuring instruments, including the number of items inspected and the number of items that passed.

計量器檢定成績

Table detailing the inspection results for various types of scales and weighing devices.

計量器而更女高

Table listing various types of measuring instruments and their prices.

特別記事



1903—1928 年五廿空航

一九〇三年 米國デイトンの人、

ウイバー・ライト、オルビル・ライトの兄弟は、苦心の發明に成るライト式複葉飛行機(ライト十六馬力)を操縦し十二月十七日ノース・カロリナ州キッツヒル・ホークにおいて、世界最初の完全なる飛行に成功した。

一九〇四年 ライト兄弟の研究道

程は追々進んで飛行距離千三百七十七呎に達した。

一九〇五年 ライト式飛行機は同年十月五日三十八分間に二十四哩二五を

特別記事一航空廿五年史

飛行す、當時としては驚異の記録である。▲米國加州サンタクララ大學のモン・ゴマリー教授創案の滑翔機の試験は同年四月二十九日サンタクララにおいて舉行、輕氣球に取り附けられた滑翔機は氣球が四千呎の高さに達した時、引離されて滑翔をはじめ、ダニエル・マロニー氏操縦急降下、螺旋降下8字飛行等を試み滑空二十分間に八哩を滑翔飛行して完全に着陸した。

一九〇六年 十月二十三日、パリ

在住のブラジル人サン・ジュモンは自家設計の複葉飛行機で、佛國航空俱樂部の公式飛行を行ひ百六十四呎を飛んでアイキデコンカップを獲得、その後更に三回の飛行をなし、最後には滑空二十一分五十秒を察した。

一九〇七年 佛國の先覺飛行家が

活躍を始めた年である。アンリー・ファルマン、ルイ・ブレリオ、レオン・ドラグランジュ、ペルトリ等何れも飛行に成功し、ファルマンは初めて旋廻飛行を行ひ、二千五百三十呎を飛行し、ブレリオも千三百二十二呎の飛行に成功す。

一九〇八年 一月十三日佛國イツ

シイ・ムーリノに於てアンリー・ファルマンは公式の週回飛行(半徑一キロメートル)に成功、廿萬フランの奨励金を

得、更に二十四哩八五の飛行において四十四分三十二秒の滑空記録を作つた。

一九〇九年 一月九日佛國航空

ラフは第一回の飛行機操縦者適任證を發行した、適任證を授與された者はドラグランジュ、サン・ジュモン、ペルトリ、ファルマン、ライト兄弟、アラバー大尉、ブレリオの八氏

同年七月二十五日、ルイ・ブレリオは

自家創案製作のブレリオ式複葉機(アンザニ二十五馬力)を操縦して佛國カレーを離陸し約四十分間に英佛海峡を横断して英國ドーヴァーキヤツスル附近のノースフォール・メドウに着陸、世界歴史上初めて歐洲大陸と英國との空中連絡を完成し、デリーメール社の懸賞金を獲得して世界航空史に一大區劃を印した、

飛行距離二十五哩、時速四十五哩、この有名なる飛行の着陸を見物したのは英國の巡査唯一人のみであつた▲八月下旬、佛國ランスにて第一回ゴールドン・ペンネツト懸賞飛行競技會開催米人グレイン・エチ・カーチスはカーチス式複葉機を操縦して時速四十三哩で十二哩余を飛行し、更に三十キロメートル競技にも第一等となつた▲十月十八日、ラムバート伯はライト式複葉機に搭乗、パリの上空を飛行しエツンフェル塔を一週して航空界



を驚かせた、この飛行は「南緯地帯飛行」の第一回レコードとして記録されてゐる▲十月二日オルビル・ライトはベルリンにおいて千六百三十七呎の高さに昇降した▲十一月三日アンリー・フアルマンはフアルマン複葉機を操縦、ミシエリン・カツプを飛行して野外飛行の記録を作る。

一九一〇年 世界の注目を惹いたロンドン、マンチエスタ間の飛行競技は四月廿七、八兩日に舉行され佛國のボームが、途中リンチフェルドに一回夜間着陸しただけで、百八十六哩を四時間十一分で飛行しデリー・モールの懸賞一萬ポンドを獲得し、英國の有名飛行家グラハム・ホワイトは、この競技に参加したが途中不時着陸を繰り返して失敗した▲五月廿九日米國のグリーン・カーチスはカーチス式複葉機を飛ばし途中一回の着陸で、アルバニーからニューヨークまで百五十哩を二時間廿二分で飛行し次で六月初めにはヘンモンズボート附近の湖上着水に成功した▲六月二日英人ジョー・エス・ローは佛國製ライト複葉機で英國側を出発無着陸英佛海峡横断飛行を敢行した、飛行時間一時三十分▲同月佛人レブランスはブレリオ式複葉機で十二時間一分に五百哩を飛び、更に佛人オーブ

ランもブレリオ式で十三時間三十一分九秒の長時間飛行に成功した▲九月二十三日ジョージ・シヤヴェはフアルマン式複葉機でアルプス山の飛び越したの山岳飛行新記録を出し、同月二十六日米人エー・フオックスはサンフランシスコで一萬一千四百七十四呎の高さ飛行の世界記録を作つた▲日本徳川大尉はアンリーフアルマン式複葉機を操縦して十二月十七日東京郊外代々木練兵場にて日本最初の飛行に成功す、日野大尉もグラデー式複葉機を操縦同所にて直線飛行に成功した。

一九一一年 英國デリー・モール社一萬ポンド懸賞の歐洲巡回飛行競技は同年春舉行、コンノー中尉優勝▲米國のカーチス式複葉機は郵便飛行を獲へた通信大臣フランク・エチ・ヒツチコックを同乗させ、ニューヨークのロングアイランドを出発、ミネオラの上空において大臣は機上から郵便袋を投下して世界最初の郵便飛行を實施した▲一月十八日米人ユウジェン・エリーはサンフランシスコと泊の軍艦ベンシルパニアの甲板から離陸するの妙技を見せ、二月十一日カーチスは加州サンチェゴで水上飛行機に成功す▲ロンドン、パリ間の最初無着陸飛行は佛人ブリエによつて完成、四月十二日ロンドンとパリ間五百哩を三時間五十六分

破しパリに到着▲米國ではハリー・エス・アットウツドがライト複葉機で七月、八月にわたりボストン、ワシントン、セントルイス、ニューヨーク間の連絡飛行を行ひ、ホワイト・ハウスの構内に着陸して大統領を訪問した▲六月二十八日米國の曲技飛行家ビッチーはナイヤガラ瀑布横断の冒險飛行に成功して米人の血を湧かした▲ゴルドン・ベネット競技はシー・チー・ウエー・マン優勝、時速八十里、使用機ニューポール式複葉機▲米人カール・ブリス・ピ・ロツジャヤはライト式複葉機を操縦十一月五日ニューヨーク出發途中十八回の着陸をなし四十九日を費して加州バサデナに到着、米大陸横断連絡飛行の先鞭をつけた。

一九一二年 一月十三日佛人ヴェドリヌはデベルジュツサン式複葉機で時速九十二哩の速力記録を作る▲一月二十二日佛人フイツシエはフアルマン式複葉機に乗客二名をのせ四千五百九十三呎の高さに達した▲十一月二十一日露國婦人がラシコフ城は獨逸ヨハニスチル飛行機でフオツカー複葉機を操縦、七千四百呎の高空に達し婦人の高度飛行記録を作る▲十二月十一日には佛人ローラン・ギヤロスがチユニスにおいてモラーヌ・ソ

ルニエ式複葉機で一萬二千三十二呎の世界高度飛行の新記録を作る▲ゴルドン・ベネット競技は佛國のジュール・ヴェドリヌがデベルジュツサン式複葉機(ダノーム百廿馬力)を操縦して優勝した。

一九一三年 一月二十四日スイス人オスカ・バイデルは、佛國のボームからビレニス山脈を横断してスペインのマドリッドまで飛行した▲二月十日、獨逸のアヴィアチツク複葉機(アーガス百馬力)をエー・フオラー操縦五人の乗客をのせ一時間十分一秒の飛行を行つた▲三月三日、佛人ペーリオンはブレリオ式複葉機で一萬九千六百八十五呎の高さに達しギヤロスの高度飛行記録を破る▲六月、佛人ブランドチオンはモラーヌ・ソールニエ式複葉機でパリ出發、途中一回ペーリオンに着陸してワルソーまで飛んだ、飛行十一時間、距離九百三十三哩▲九月一日、佛人ペグーはブレリオ式複葉機で世界最初の宙返飛行を行ひ世界航空界を驚かした▲ゴルドン・ベネット競技は九月二十九日佛國で舉行、モリス・ブレゾーはデベルジュツサン式複葉機(百六十馬力)で時速百五哩を出し優勝した。

一九一四年 獨人カール・インゾーは二月八日、十六時間二十分の世

界新記録を作つたが、五月二日佛人ブーレーは十六時間二十八分五十六秒の速記録飛行を敢行してインゾーの記録を破る▲シユナイダーカツプ競技はメキシコにて開催、英人シー・ホワード・ヒツクストン優勝した、使用機ソツビス式(ダノーム百馬力)水上機、時速八十六哩八

一九一五年より一九一八年まで

歐洲大戦のため飛行機は殆ど全部軍用に供せられ、この間飛行機體、計器等の製作改善は元より操縦術航法など祖國のために流された血の洗禮を受けた。つ飛行技術は異常の進歩發達を遂げた。

特別記事—航空廿五年史

つた▲越えて六月、ジョン・アルコツク大尉、アーサー・ブラウン中尉操縦のヴィツカース式ヴィミー型(ロールス・ロイス四百馬力)コンドル型二機(装置)はニューヨークのクリフデンに着陸した、航程千九百哩、飛行時間十九時間五十七分、この飛行はブレリオの英佛海峡横断飛行と共に劃時代的大成功である▲米國沿岸一周飛行は七月二十四日から十一月九日にわたつて實施された、使用機はマルチン式編組機(リバーチー四百馬力)二機(搭乗者は操縦士アー・エス・ハーツ中佐副操縦士イー・ハーモン機師エス・ジェー・ハーディングおよびジェー・ドゥビアス。航程九千八百二十三哩、飛行時間百四十四時間四十五分▲米人ローランド・ローリスは八月十八日カーチス式複葉機三機(カーチス四百馬力)を操縦して三萬二千四百五十呎に昇り高度飛行の世界新記録を作る▲十月二十八日佛人アルフレッド・フロムバルは六百二十四回の連続宙返飛行を行つた▲英國大尉ロツス・スミスはヴィツカース式ヴィミー型(ロールスロイス四百馬力)二機(附)を操縦十一月十二日ロンドン出發、途中數回着陸して十二月十日臺灣のポート・ダーウ

インに着陸した、航程一萬一千五百哩、最初の英豪連絡大飛行である。

一九二〇年

二月七日佛人サヂ・ルコアントはヴィラクターブレ飛行機でニューポール式複葉機を操縦し時速百七十一哩を出した▲英國フエラリン中尉マシエロ中尉は各々バ複葉機を操縦して二月十四日ロームを出発途中數回着陸して五月三十一日東京に到着した、航程一萬三百哩、歐亞空中連絡最初の使徒である▲米國アル・ダブリュー・シユローダー少佐は二月二十六日バツカード式レピア型複葉機(リバーチー四百馬力)を操縦し三萬三千四百四呎の高さ飛行世界新記録を出した▲佛人ブリス・トローベルナルはフアルマン式ゴリアツト型(サルムソン二百六十馬力)二機(附)を操縦、二十四時間十九分の連続飛行を行ひ高空飛行の世界新記録を作る▲米國セント・クレア・ストリート大尉指揮のD日式複葉機四機は七月十五日ミネオラを出発アラスカのノームに飛行し十月二十日往復九千哩の飛行を完了した▲米國婦人ローラ・ブランドはカーチス式複葉機(カーチス百五十馬力)を操縦しロンタアイランドのカーチス飛行機で連続八十七回の宙返を敢行し婦人宙返飛行の世界記録を作つた▲歐

一九二二年

五月六日米國ジェ・マツクレディー中尉ロイ・エス・ランガン中尉はバツカード式レピア型を操縦、三萬四千五百呎に昇降し高度飛行の世界記録を作り八月十六日には米人ダビッド・マツカロツクがローイング式飛行機に乗客四人を乗せ一萬九千五百呎まで昇つて水上機の高度新記録を作つた▲シユナイダー・カツプ競技は八月六、七、兩日伊國ヴェニスに開催伊國ドゥブリダレティがズバ水上機で時速百一哩を出し優勝▲米國エドワード・スチンソン及ロイド・ハートレーはラーセン式複葉機(BMW百八十五馬力)を操縦、二十六時間十九分三十五秒の連続飛行に成功し高空飛行の世界新記録を作る。

一九二三年

獨人サカジュラ大尉



コンチネホ大尉はフエアリー水上機を操縦三月三十日リスボンを出発ブラジルのプレナンブコに向つたが途中事故で出た二回新造機に換へて六月十七日目的地に到着、兎に角南大西洋横断飛行を完了した。▲シユナイダー・カツプ競技は八月十二日伊國ナポリに開催シ、ライオン十一型水上機(ネビア・ライオン四百五十馬力)を操縦した英國大尉ヘンリー・チャールズ・ビヤード新然頭角を現はし時速百四十五哩を出して優勝▲佛國ブリス・トロオおよびドロアンはバリのル・ブルジェー飛行場においてフアルマン式コリアット型(ルノー三百馬力二個)を操縦し十月十四、五兩日に亘り廿四時間四分八秒の連続飛行に成功し、航空飛行の世界記録を作る▲十月十八日米國ウイリアム・エ・ミツチエル少将はミツチエル飛行機でカーチス式陸軍機を操縦し時速二百二十四哩を出して速力飛行の世界記録を作つた。

一九三三年 二月十五日、佛人サチ・ルコアントはニューポール式トリチ型(イスパノ三百馬力)を操縦、マルセイユにおいて時速二三四哩六六を出し前年度のミツチエルの記録を破つたが三月二十六日には米人モーガン中尉がカーチス式陸軍機を飛ばしマツニツタ飛行場

で時速二百三十六哩五八七を出し、そのまた三日後には米人エル・ジェー・カトリランド中尉が同機で二百三十九哩九五を出し、更に十月六日には米人ウイリアムス海軍中尉がセントルイスで時速二百四十三哩六七を出し更に同中尉は十一月四日ミツチエル飛行場でカーチス式で時速二百六十六哩を出して結局この年の速度の世界記録は米國の占むるところとなつた▲シユナイダー・カツプ競技は英國において開催米國ダビッド・リツテンハウス海軍中尉がカーチス水上機で時速百七十七哩三八を出して優勝▲米國マツクレイ中尉ケリー中尉は三月二十九日マツコック飛行場でフオツカー式陸軍機を操縦、三十六時間四分三十四秒の連続飛行を行ひ佛國の記録を破つて航空飛行の世界レコードを作る▲佛國サヂ・ルコアントはニューポール式ドラチ型(イスパノ三百馬力)を操縦、イツシー・レムリノ飛行場で三、六千五百六十四呎の高空に達し米國の記録を破つて高度飛行の世界レコードを作る▲五月二日米國マツクレイ中尉ケリー中尉はフオツカー式陸軍機でサンチエゴからニューヨークまで二千五百六十六哩五五を一氣に相破し米大陸の陸軍機を先鞭を付けた。

一九二四年 世界航空史に詳しく記録を印した米國の世界一周飛行は、この年に完成された、四月二日シヤトル路西に向つて地球を一周しシヤトルに歸航するまで航程二萬七千五百五十三哩飛行時百七十一時十一分、使用機はダグラス式(リパティイ四百馬力水陸更代機四機でシヤトル—カルクツカ間は水上機、カルクツカ—ブロー(英國)間は陸上機、ブロー—ボストン間は水上機、ボストン—シヤトル間は陸上機として飛行しこの人類最初の大業は完成された、この間多大の経費と驚異に價する努力が拂れたことはいふまでもない▲佛國ベルチエ・ド・アチー大尉ベルナル軍曹はブレイゲ式一九型(ロレーン四百馬力)を操縦して日佛連絡飛行を実施しベルシヤ、インドを経て支那に入り上海に着陸の際機體を破損したが支那政府提供のブレイゲ式一四型に換へり出発後四十七日目に東京に到着目的を達した、飛行時間百二十時間▲佛人クレー、ドウルリアンは七月十六日フアルマン式複葉(フアルマン四百五十馬力)に搭乗、連続三十七時間五十九分の飛行で米國の記録を破り航空飛行の世界記録を作る。▲日本後藤勇吉飛行士は大阪毎日新聞社主催の下に川西式六型水上機(マヤンハハ二六馬力)を操縦し同社記者同乗大坂を出発

一九二五年 八月七日佛人ドウルアン、ランドリはエタム飛行場でフアルマン式複葉(フアルマン四百五十馬力)を操縦四十五時間一分五十秒の連続飛行に成功し新に航空飛行の世界記録を作つた▲八月廿一日米國ジョン・ロイチャース中佐指揮のP.N.9型海軍飛行機(ハツカード五百馬力二個)二機は加州サンパブロ灣を出発、ハワイに向つて飛行中一機は間もなく不時着水しロージャース機はよく一氣約二千哩を飛んでハワイ附近の海上に不時着水し漂流十日間の後潜水艇に救助された▲シユナイダーカツプ競技は十月二十六日米國のリーランドのシヨア機にて開催、米人ドウルリアン中尉がカーチス陸軍機を操縦、時速二二三哩五七三を出して優勝しその翌日同中尉は同機で更に時速二四四哩七一一を出した▲十一月七日伊國デ・ビネド中佐はサボイア水上機を操縦してローマ、メルボル、東京、ローマの全航程二萬四千哩に亘る飛行の門出をなし、非常の苦心と眞熟せる技藝を以てこの大飛行を完成

した。▲日本安達大尉、河内飛行士は朝日新聞社主催の下にブレイゲ式一九型(ロレーン四百馬力)を操縦東京を發し朝鮮シベリアを經由してモスコ、ベルリン、パリ、ロンドン、ブラツセル、ローマの諸都市を訪問し東洋より最初の訪歐飛行に成功した。

一九二六年

一月二十九日米人マツクレイはレビア式複葉(リパティイ四百馬力)を操縦マツコック飛行場の上空三萬八千七百呎の高空に達し高度飛行の世界記録を新にした▲一月二十二日スペインのモン・フランコ中佐以下三名はドルニエ式ワル飛行機(ネビヤ・ライオン四百五十馬力二個)でスペイン、ブラチル間の連絡飛行を開始し途中六回着水して六千二百廿二哩の長距離を相破し二月十日目的を達した▲英人アラン・ジェ・コバムはD.H.式複葉でロンドン、ケープタウン間の往復飛行を企て前年の十一月十六日ロンドン出發二月十七日ケープタウン着。數日間休養の後出發三月十三日ロンドンに歸着した▲米國アイル・イ・シ・バード中佐フroid・ベネット中尉操縦のフオツカー式複葉(ライトワールウインド二百馬力三個)は五月九日スピツベルゲンを出発、十五時間北極往復飛行を完成し航空史を

特別記事 航空廿五年史

一九二七年 伊國デ・ビネド大佐は伊、米、伊の連絡を計畫しサボイア式五五型飛行機を操縦二月十日北イタリアのセストカレンデを出發、南大西洋を横断し南アメリカより北米に入り過つて機體損失の厄に遭つたが、新機を本國より取りよせて飛行を続け、ニューヨークよりニューアウンドランドに飛びアゾール群島を経て再び大西洋を横断し六月十六日ローマに歸航、ムツソリーニ首相の熱誠な歓迎を受けた▲米人クリアレン

ス・デ・チャンバレーン及バート・アコスタはベランカ式複葉(ライトワールウインド二百馬力)を操縦ニューヨークのロンダアイランド飛行場を離陸し四月十二、三、四の三日間に亘り五十一時間一分二十六秒の連続飛行を敢行し航空飛行の世界新記録を作つた▲前年の十二月二十日米國テキサス州サンアントニオを出發した米國エツチ・エ・ダーク少佐指揮汎米連絡飛行のローイング水陸兩用機四機は中部南部アメリカおよび西インドの各地を飛行し雄圖を完了して五月二日ワシントン州ボーリング飛行場に歸着した▲五月十日米國チャールズ・エ・リンダバグ大尉はライアン式複葉(ライトワールウインド二百馬力)を操縦して加州サンチエゴを出發途中セントルイスに到着陸十四時間五分でニューヨークに到着、直に大西洋横断飛行の準備に着手し五月二十日單身ライアン機に搭乗ルイズベルト飛行場を出發し困難なる飛行を続けつゝ一氣に大西洋を横断し三千六百十里を三十六時二十九分三十秒で見事相破して、パリ郊外ル・ブルチエ飛行場に到着、完全にニューヨーク、パリ空中連絡の目的を果し全世界の歡呼を浴びた、平均飛行速力百〇八哩▲續いて六月五日先に航空記録を作つたクリアレンス・デ

チャンバレーンはベランカ式複葉(ライトワールウインド二百馬力)を操縦、チャールズ・エ・レヴァイン同乗、ルイズベルト飛行場を出發三千九百五哩の無着陸飛行を敢行して獨國ヘルフタに着陸した、所要時四十三時間▲更に六月二十九日、北極飛行の成功者アル・イ・バード中佐指揮、バート・ボルチエンおよびバート・アコスタ操縦、ジョー・ノグイル無線係四名搭乗のフオツカー式複葉(ライトワールウインド二百馬力三個)はルイズベルト飛行場出發、一氣にパリに向ひ悪天候の大西洋を横断してパリの上空に達したが差雨に妨げられて着陸出来ず、引返して佛國ヴェルヌカルの海洋を去る二百ヤードの海中に不時着陸した、飛行時四時間十九分▲六月二十八日、米國レスタター・デ・メートランド中尉アルバート・ヘーゲンベーカー中尉はフオツカー式複葉(ライトワールウインド二百馬力三個)を操縦加州オースランド出發、太平洋上二千四百哩を二十五時間十五分で一氣に相破しハワイのホイラー飛行場に到着、米本土ハワイ間空中連絡の先鞭をつけた▲續いて七月十三、四兩日米人アーネスト・エル・ミス、エモリ・ピ・プロントはトラベルエヤー式複葉(ライトワールウインド二



百馬力)に搭載オクランド發ハワイに向  
向ハワイライ飛行機の南東九十哩の地  
點まで飛行(飛行距離二千三百五十哩所  
要時二十五時三十六分)更に八月十六、  
十七日には米國アサシー・シ・ゲール  
大佐がブリニー・デヴィス中尉が前客と  
同一機でオクランドからハワイライ飛  
行機で一氣に飛行し(所要時間二十六  
時十七分三秒)同日米人マーケン・  
ゼンセン、ポール・スチエルトもプリ  
ーボ式軍機で同一コースを二十八時間  
十六分で飛行し、いづれも米海軍飛行  
に成功した。米人エドワード・エフ・ス  
クリー及ウィリアム・シ・ブロッツは世  
界一周新記録作製の目的で八月二十七  
日ニューファウンドランドのハーボアグ  
リスを出發、スチンソン式軍機(ライ  
ーウィンド二馬力)を操縦して一  
氣に北大西洋を横斷、シベリアを経て東  
京に到着したのが十八日であつた。茲  
で太平洋横斷飛行の問題引つ掛り計畫を  
断念したが、この飛行距離一萬二千二百  
九十五哩所要時百四十五時間三十分ニ  
エトヨク、パリ空中連絡の一番地を一  
學に世界人になつたりパグ大佐は  
ダニエル・ガツゲンハイム航空獎勵會主  
催で七月二十日からライアン機で合衆國  
巡回飛行を開始し四十八州を巡航して十  
月二十三日出發地ニューヨークに歸着し  
た。航程二萬三千五百哩、所要時二百六  
十時間。更に十二月十三日同機ワシント

ン出發、墨國メキシコ市まで二千六百哩  
を二十七時間無着陸で飛破し、引續き中  
米各地に飛行し着陸回数十六回飛行時間  
百十六時間三十分で翌年の二月十三日故  
郷セントルイスに歸還した。米國シ・シ  
・チャンピオン中尉は七月四日ライオン式  
パーシエ型(四馬力)を操縦し  
ントン州アナスコチアの上空三萬七千九  
百九十五呎の高さに昇つたが更に同月二  
十五日同一機で三萬八千四百七十四呎ま  
で昇つて高度飛行の世界記録を作つた。  
シナイダーカウフは九月二十五日  
伊國ベニスに開航、英國エス・ダブリン  
・ウエブスター大尉は海軍用水上機(ネビ  
ア・ライオン四馬力)で時速二百  
八十一哩四八八を出し佛國佛國コスト  
中尉は十月十日パリ出發、南米を經ニ  
ューヨークに出で米大陸を横斷飛行し本  
洋は船で渡り東京からインドを経て翌年  
の四月十四日パリに歸着した。航程約三  
萬五千哩、飛行時間三百三十八時間四十  
一月五日、伊國マリオ・ド・ベルナルチ  
少佐はマツキキ式五二型(フイアット  
六馬力)を操縦、時速二百九十七哩八  
一六を出し高度飛行の世界記録を作る  
一九二八年 英人ハロールド・ヒ  
ンクラーはアゾロ式エビアン型(カーチ  
ス八十馬力)を操縦、二月七日ロンドン  
のクロイドン飛行場を出發、一萬二千哩  
の航程を百三十四時間で單獨飛行し同月

二十二日澳洲ポートダーフィンに到着した  
輕飛行の單獨野外長距離飛行のレコード  
である。米人エドワード・スチンソン  
よびジョー・ハドマンはスチンソン  
式軍機(ライオン四馬力)を操縦し  
でチャクソンビルの上空を飛破けるこ  
と五十三時間三十六分三秒で墨國の前  
記録を破つたが、七月七日に至り額人リ  
ステイツツおよびチンメルマンはユニカ  
ー式軍機で墨國デツツウの上空を飛破  
けるを六十五時間三十一分で世界航空飛  
行記録は又も墨國の手に握られるに至つ  
た。額人ヘルマン・ケールおよびグーテ  
ル・フオン・フエーネフエド英人ゼー  
ムス・フイツツモリス大佐は米國のユニ  
カー式軍機(五馬力)を操縦し  
力)を操縦し大西洋を越え三馬力  
の目的で四月十三日英國ダブリンのボト  
ルドンネル飛行場を出發、悪天候と戦ひ  
つゝ兎に角横斷飛行に成功して飛行三十  
七時間、ニューファウンドランドとラ  
ランドの中間海岸グリーリー島の氷結し  
た荒蕪地に不時着陸した。ロツクヒド  
式ベガ型軍機(四馬力)を操縦し  
た米國ジョー・エチ・ウルクン六  
馬力アル・カ・エールソン中尉は四月十  
五日アラスカのバロー岬を出發無着陸で  
見事北極横斷飛行に成功して吹雪のため  
デットマンアイランドに着陸非常の苦心  
を以て五日の後スピツツベルゲンに到着  
した。航程二千二百哩所要時二十時間二  
十分。澳洲人チャールズ・キングスフォ  
ード・スミス指揮ハリ・ライオン、チャ

ールス・ウルム、ゼームス・ワーナー乗  
組のフオツカ式軍機(ライオン四馬力)ウ  
インド二百馬力三個附)は五月三十一日  
米國オクランド出發左の經過で前人未  
到の南太平洋横斷飛行に大成功を収め航  
空史上に大なる足跡を遺した。  
オクランド—ハワイ間  
二千四百哩 二十七時二十八分  
ハワイ—フィジイ島間  
三千三百三十八哩 卅四時間三十三分  
フィジイ島—澳洲ブリスベーン間  
千七百六十二哩 二十一時間十八分  
六月二日伊國アルツロ・フェラリン少  
佐デル・プレテ少佐はサボイ式マル  
クタイ型軍機(フイアット五百馬力)を操  
縦、ローマの上空で五十八時間三十七分  
の連続飛行を敢行し當時の世界航空記録  
を作つたが更に七月五日同一機を以て伊  
國モンテセリオを出發、一氣に大西洋を  
横斷してブラジルのポルトナタラに着水  
した。航程四千四百七十五哩飛行時間五  
十一時間。米人シ・ビ・デ・コリー大  
尉とジョン・エチ・ミリアスはフエアチ  
ヤイルド式軍機(四馬力)で七月  
二十二日ニューヨーク出發、大西洋は途  
中で飛行機で汽船を追いかけ、英國上  
陸後はシベリアを經由して東京に着き太  
平洋は船で渡つて米大陸を横斷飛行して  
出發點に歸り二十三日十五時といふ世  
界一周の新記録を作つた。全旅程一萬九  
千七百二十九哩の中飛行航程は一萬一千  
百九十哩であつた。

# 産業

## 低金利と解禁脅威 昭和三年

下半年から同四上半期に亘つて  
財界轉動の中心力となつたものは  
特種後における低金利および金解  
禁即行論の擡頭であつた。従つて  
一般産業界もまたこれ等の諸問題  
を中心として推移し來つたことは  
いふまでもないことである。日本  
銀行が特別融通を打切つた三年五  
月以後の金融界が、如何に緩慢狀  
態を呈したかは別項所載の通りで  
あるが、この金融緩慢、延いて極  
度の低金利傾向は、たとへそれが  
變態的のものにもせよ、産業界に  
對しては種々なる形で影響をおよ  
ぼしたのであつた。即ちまづ株式  
市場の人氣を刺戟し、やがてそれ  
が公社債への利廻低下運動となり  
遂には久しぶりの好況來を夢見る  
ものさへ生ずるに至り、物價の昂  
騰傾向と相俟つて事業界は徐々に

## 産業—概観

活氣を呈するに至つたのであるが  
殊に金融緩慢と低金利の偉力は、  
その産業界好況見越を背景として  
珍らしくも事業計畫の勃興をさへ  
見るに至つた。就中東京山手急行  
電鐵會社、大阪造船會社、松竹  
十地産物興業會社など相ついで新  
設會社の擡頭を見、しかもその新  
株募集が相當の好成績をさへ示す  
に至つたのは確に近年の情勢であ  
つた。  
かくして産業界の前途は漸く光明  
に満たされ、この勢を以て進めば  
やがて見るべき好況來を期待する  
ことも出来さうであつたが、しか  
しそれは結局一時的の變態金融緩  
慢に眩惑されて、財界の根柢に横  
たはる重大缺陷を忘れた一大錯覺  
に過ぎなかつた。即ち金の輸出解  
禁未解決の上に立つ噴火山上の舞  
踏に過ぎなかつたのだ。  
果然三年十月に至り、東西銀行家  
を中心として金輸出解禁即行の決  
議行はれ、それを動機に各方面よ  
り勃然として解禁の輿論が起つて

來たので、ために株式を初め一般  
證券市場は遂にその脅威を受けて  
大暴落を示すに至り、かたゞ折  
角擡頭機運に向つてゐた事業計畫  
も、こゝに全く挫折のやむなき狀  
態に陥つた。越えて四年度にはい  
つては、解禁恐怖人氣ますます深  
刻となり、前年好況の反動を重ね  
延いて財界全般の空氣は一層重苦  
しくなつたので、一般商取引も不  
振に陥り、産業界はために火の消  
ひたやうな萎縮ぶりを示すに至つ  
た。  
日貨排斥と政局不安 さらに  
この産業不振をますます助長した  
ものに、支那の日貨排斥と政局の  
不安定とがあつた。まづ排日貨の  
影響としては真先に綿業、ついで  
糖業、製紙等の主要産業より、お  
よそ對支關係の諸事業に對しては  
一つとして打撃を及ぼさないもの  
はなかつた。殊に今度の日貨排斥  
は從來とその趣を異にし、北伐成  
功後の國民黨が中心となつて組織  
的に根強くこれを行つたので、そ

れだけ那品の對支輸出に支障を來  
し、それがため對支輸出品は常に  
市價を壓迫されて、これが製造に  
從事してゐる諸産業は常に不利な  
立場に立たなければならなかつた  
政局不安に至つては、日貨排斥の  
如く直接ではなかつたが、しかし  
金輸出解禁論と相父錯して常に財  
界の人氣を壓迫し、従つて一般商  
況を不振ならしめかたゞ生産業  
者に直接間接種々なる打撃を與へ  
産業界をますます萎縮に導く  
有力な一因をなすに至つた。  
事業計畫不振 産業界が大體  
右の如き趨勢を辿つたので、一般  
事業計畫もまたそれに順應し、や  
はり一張一弛の状態を辿つたので  
ある。試に日銀調査にかゝる新設  
擴張計畫資本の推移を見るに、三  
年度上期中は二月の一億一千万円  
四月の九千三百万円、五月の一億  
一千五百万円と概して一億から一  
億一千万円見當を往來してゐたの  
に對し、下期となつては、六月一億  
四千九百万円、七月一億四千八百



万円八月一億三千万円、九月はや減少したが、なほ一億二千五百万、十月はまた一億三千八百万円と、この数ヶ月間は概して一億三四千万円から五千万円近くに達したのである。この事業計画の激増は全く特種後の極端な金融緩慢および金利安に端を設けてゐるのであつて、即ち金融緩慢はまづ株式市場を活気づけ、進んで公社債の暴騰を促し、やがて重要商品市場を初め一般商況を活潑ならしめ途には一般好況をさへ豫想せしむるに至つたためである。この好況の見越は前記の如く全く一時的の錯覚に過ぎなかつたのであるが、しかしその錯覚がたとへ一時的にもせよ事業計画を増加せしめたことだけは事實であつた。しかし、かくの如き錯覚の何時までも永續すべきはずはない。排日貨運動の勃發、金解禁即行論の擡頭、政治季節の接近に伴ふ政局の不安等、財界を脅威すべき材料は矢張り起つて来た。砂上の樓閣

は遂に崩れる日が来た。株式は暴落する、公社債は下る、商品市場も不良に傾く、折角擡頭しかけた好況の希望も、こゝに全く一朝の夢と化してしまつたのである。従つて事業計画もまた十一月から翌四年春へかけて再び不振状態に陥り、今後もまた全般的な縮小と相俟つてますます減少を余儀なくするものと見られるに至つた。即ち十一月は一億一千七百万円、十二月は一億九百万円、四年一月は七千万円、二月は六千八百万円と極度に激減した。三月は再び一億七千四百万円に飛び上つたがこれは特殊事情による一時的現象であつて、四月はまた一億一千五百万円となり、この四ヶ月累計を前年同期(前年は不振であつた)に比べると二千四百万円方の減少に當つてゐる、以て如何に事業計画が不振に陥つたかを窺ふことが出来る。

整理促進さる かく一張一弛のうちにも事業界は概して不況を辿り、殊に三年下期後半より四年春へかけて、金解禁見越の脅威が深刻となつたので、産業界には漸く不況対策としての整理促進運動が起つて来た。即ち金解禁即行後の打撃に對し、如何にせばよく堪へ得るであらうか、といふ點についての自覚が眞面目に産業界を支配するやうになつたのである。尤もこの整理促進の傾向は、單に金解禁論の擡頭のみによつて惹起されたものではなく、久しい間の不景氣に訓練されて、不良資産の切捨てとか、生産費の切下げとかいふ點については、各事業家の間にならぬ眞面目に考へられて来たのであるが、少くとも解禁即行論の擡頭、それに伴ふ株式の暴落、解禁後の深刻なる不況見越し等が、さらに一段と強く整理の促進を迫つたことは事實である。かく一般事業界は、まづ不良資産の切捨を行ひ、或は低金利を利用して高利債の低利借替を斷行し、若くは物價下落に對抗するため、能

率増進、生産費切下げ等を行つて、来るべき不況時に對する準備を急ぐこととなつたのである。減資解散の消長 試に昭和三年度下半期の減資解散状況を見るに、まづ減資においては七月千三百万円、八月三千百万円、九、十月はや減少して八九百万円、十一月は再び増加して千二百万円、十二月は三千百万円と概して前半年よりも増加の傾向を示し、また金融恐慌等によつて最も減資解散の多かつた前年同期に比べても殆ど大差なき状態を示した。さらに解散数においても同様前半年および前年同期に比べて著しく増加したのであつた。これは明かに金融恐慌によつて打撃を蒙つた産業界が漸くその整理斷行を余儀なくされたのと、解禁論の擡頭などに刺戟されて、その整理を急ぐ傾向が生じて来た結果と見られる。尤も、越えて昭和四年度にはいつては、漸く減資も解散も共に減少し、減資においては一月の二千四百万円

から二月には一千万円に、さらに三月四月となつては僅々一、二百万円を算するに過ぎなかつた、この四ヶ月累計を前年同期に比べると二千七百万円方の激減に當り、また解散も四ヶ月累計一億円、これを前年同期に比べると四千五百万円からの激減に當つてゐる。この減少傾向は、一面から見ると漸く整理が促進されて差當り整理を要すべきものが一巡した結果とも見られるが、しかし財界の根底にはまだく不良分子が多分に潜在してゐるから、不況の深刻化と相俟つてさらに減資解散等を余儀なくするものが増加する時期もあらう。

高利社債の借換 さらに當年度において顯著なりし出来事は高利社債の低利借換が盛んに流行したことであつた。その詳細は別項金融の部に譲ることとするが、とも角も金融恐慌後財界不況の深刻化につれ、資金の需要が著しく減少したところへ、巨額の日銀特別

融通が行はれたため、金融界は著しき緩慢状態を示し、従つて金利も著しく低下したので、一流債社ならば五分五厘、二流債社にしては六分見當の低利廻で社債を發行し得ることとなつた。そこで高利債を持つてゐる會社は、好機逸すべからずとして、期限到來の分より盛んに借換を急ぐこととなつたのであつたが、その結果として借換社債に對する利拂を従来よりも一分乃至二分見當節約し得た會社は少くなかつた。この低金利傾向は、特種といふ全く偶然のことによつて招來されたのであるが、それにしても多くの借金を持つ會社に取つては、この上もない好福音であつて、即ちそれ等の會社は低利借換により節約し得たよけの金額を、直に生産費切下げに利用することを得た次第であつて、これが産業界の整理促進に寄與したことはいふまでもない。

産業合理化運動 不景氣が深刻化し、購買力が減退し、物價が下落して来ると、最も困難な立場に立つものは一般生産業者である。この場合に處し、よくその難局を打開するの途はたゞ生産費を引下げ、薄利多賣を以てよく一般購買力を誘發すると共に、しかもそれ相當の採算を維持して行くことである。深刻なる不況に當面した三年下半期から四年春にかけて、いはゆる産業合理化の機運の動いて來ことはゆゑあるかなだ。この言葉はアメリカやドイツから流行つて來たもので、それは必ずしも不況対策といふ意味ではなく、現にアメリカ過りでは、現代産業を「より繁榮に導くための途」といふやうに頗る積極的に解釋されてゐるのであるが、わが國の如き不況のどん底に沈んでゐる國では、これを「不況切掛け策」といふ甚だ消極的の意味に解されるのもまたやむを得ない。即ち最近のわが財界に「産業合理化」といふ言葉がよく共鳴されるのは矢張りかうした意



てどれだけ節約されたか、能率がどれだけ増進されたか、といふことを的確に知ることは出来ないがしかし、不景氣對抗策として、例へばこれまで五人でやつてゐた仕事を四人でやつて、一方では能分の賃銀だけ節約し、一方では能率増進によつて五人分の仕事を四人でやつて行くことにしたり、また技術的に色々の改善を加へて従來廢物として捨てたものに新しく利用の途を考へ、或は原料の使用を少くしてしかも同一効果を擧げると、とも角も生産原價を如何にせば一錢でも多く切下げることが出来るか、といふことについて従來よりもかなり深刻に研究もされ實行もされて來たことは事實であつた。

た。しかし、これはやゝもすれば労働者の生活を脅威し、労働争議勃發の動機となり、由々敷き社會問題を惹起する惧があるもので、事業家としては思ひ切つて引下げの斷行をなすことが出来なかつたのは事實である。試に日銀調査にかかる主要工業労働賃銀平均指數を見るに、その定額賃銀において三年度は二年度にくらべ概して下落の傾向を辿り、二年度平均指數九・九六に對し三年度は九・九〇・〇六となつてゐる。さらに四年度にはいつては一段低下して、前年下半期中常に八九台を維持して來たものが、一月には八九台に下落するに至つた。ところで實收賃銀指數を見ると三年度は二年度の一〇〇・〇二に對し一〇五・三六と却つて騰貴してゐるのであるが、思ふにこの定額と實收とが相反する傾向を示したのは、雇主の方が労働者の生活を脅かさない方法を以て、事實は賃銀の引下げを行はんとしたため、定額賃銀の下落を、

労働時間の延長若くは労働能率の増進によつて埋合せんとした結果と見られる。そのことは實收賃銀が増加してゐるに拘はらず、労働人員指數が反對に減少の傾向を示し、二年度の九九・九八に對し三年度が九〇・三四となつてゐるに見ても明かである。即ち少數の人員で多額の實收賃銀を得たことは確にそれだけ能率を増加したためと見られるが、それを逆に見ると、生産者は矢張り實質的に賃銀を引下げ得たこととなるわけである。

低劣等の脅威を受けたるに拘はらず、利益率はその割に低下せず、現に製紙會社の如き製鋼相場は度々低下が行はれたに拘はらず、金利負擔の軽減、能率増進、技術の進歩、生産費の引下げ等によつてそれをよく補填し殆ど前と變らぬ程度の利益率を擧げ得た。その他紡績會社の如きも、原料の買付成功、能率の増進、生産費低下等の方法によつて、綿糸相場の下落したにも拘はらず、會社の業績は意外良好であつて、その利益率の如きも一流會社は概して毎期漸増の傾向を示した。その他セメント會社の如きも同様好成績を示し、増配の可能性さへ備ふるに至り、他の一般工業もまた部分的には不成績のものもあつたが、概していふ時は、矢張り不況對策としての生産費切下げをもつてよくその難境を切り抜け、曲りなりに、大して見劣りのしない利益率を維持したものが少くなかつた。

# 農業

**米作はや、良好** 昭和三年度の米作は、苗代時代における天候概ね適順なりしたため、苗の發育は良好であつたが、その後移植時期に至つて天候不順となり、殊に土用入後は雨天續きと共に、氣温もまた概して低かつたので、従つて稻の發育軟弱徒長の嫌があり、かたゞ發育分蘗も十分ならず、加ふるに葉稻熱病の發生もあり、また地方によつては水害若くは旱害を被つたものも少くなかつた。しかし、九月に入つては天候極めて順調となり、日射時も多く、また二十日および二十一日の厄日も頗る平穩に經過したので廿日現在における農林省第一回豫想によるとその收穫高六千廿九万六千二百六十石に上つた。ところがそのころから天候は再び不順となり、氣温もまた低下して稻の發育を阻害し、加ふるに稻熱病、螟

## 産業一農業一般

虫、浮塵子などの害虫被害を被つたのもあり、さらに十月中旬における暴風雨被害も相當なりしを以て、十月末現在における第二回豫想は前回に比し二分六厘の減少を示した。その後の天候に至つてはまたく回復傾向となり、概して適順なりしたため、登熟も十分、病虫被害も軽減して、結局當年度の實收高は第二回豫想に比し六十万四千六百六十石(一分)増の六千卅万二千七百八十石に上つた、これを前年度實收に比すれば百七十七万九千七百六十一石二分九厘の減收であるが、しかし平年作に比べると四分増であつて、概して作柄良好の方であつた、従つて米價はその壓迫を受け概して低迷騰に推移した。

**台、鮮米收穫減少** 朝鮮總督府發表、昭和三年度の鮮米實收高は、前年に比し三百七十八万石減の千三百五十一万石であつた、二回豫想よりは八万石の増加である。また台灣總督府の發表による

と同年度台灣米二期作も三百五十九万八千九百四十四石で、前年より四万五千六百五十五石(二分二厘六毛)の減收であつた。

**麥作は實收増加** 昭和三年度の麥作は天候概して好順なりしたため、一般に良好であつて、農林省發表による實收高は二千二百七十二万六千五百石に上り、これを豫想高に比べると四十四万七千六百七十石の減少であるが、しかし前年實收に比すれば十八万一千七十一石(九厘)前五ヶ年平均收穫に比較すれば四十六万六千七百七十石(二分二厘)方の増收に當つてゐる。

**全國產額高増加** 三年度の養蠶戶數は、農林省發表によると二百六十六万四千戸、掃立枚數千八百八十八万九千枚でこれを前年度に比較すると前者は六万戸、後者は四十六万枚を各増加してゐる。従つてその繭産額も九千三百八十五万八千貫に上りこれを前年度に比べると二百九十九万六千貫の増加に當り、金額においても前年度より五千四百七十五万一千円増の五億五千六百八十八万四千円に上つた。當年は春蠶においては稚蠶期に天候不良の地方があつたのと、桑葉の發育十分でなかつたのとで、その作柄に多少の懸念があつたが、秋蠶に至つて天候概して蠶兒の發育に適したため、掃立枚數の増加と相俟つて前年に比し七分二厘の増收となり、さらに夏秋蠶も九月廿五日現在の調査では一部地方の天候不順と、心止玉蠶の被害、病蠶の發生等により、前年に比し九分八厘の減收を豫想されたが、晩秋蠶期に掃立を増加したため、實收においては前年に比し僅に八厘弱の減少に止まつたので、従つて春蠶、夏秋蠶を通じては前記の如く前年より三分三厘の増收を示した。

**米價調節に努む** 三年度の米作が二年度大豐作の後を受けながら、またもや案外の豐作であつたため、供給過剰の傾向ますます顯著となり、その供超過約六百万石











産業—農産【麥】

Table with 2 columns: Location (宮崎, 鹿兒島, 沖繩) and Production/Price data.

大麥産額 (昭和三年)

Table showing barley production and prices for various regions including Hokkaido, Tohoku, Kanto, and others.

稗麥産額 (昭和三年)

Table showing broomrape production and prices for various regions including Hokkaido, Tohoku, Kanto, and others.

小麥産額 (昭和三年)

Table showing wheat production and prices for various regions including Hokkaido, Tohoku, Kanto, and others.

燕麥産額 (昭和三年)

Table showing oat production and prices for various regions including Hokkaido, Tohoku, Kanto, and others.

食用農産物 (昭和二年)

Table listing various food crops like soybeans, rice, and other grains with their respective production and prices.

蔬菜及花卉 (昭和二年)

Table listing various vegetables and flowers like beans, tomatoes, and cabbages with their respective production and prices.

緑肥作物 (昭和二年)

Table listing various green manure crops like clover and alfalfa with their respective production and prices.

産業—農産【農産物】







園業・林業・林産物・林野收入・林野被害

秋田 鹿野 青森 岩手 宮城 山形 福島 茨城 栃木 群馬 埼玉 千葉 東京 神奈川 新潟 富山 石川 福井 岐阜 愛知 三重 滋賀 京都 大阪 和歌山 奈良 徳島 香川 高松 岡山 広島 山口 徳島 香川 高松 岡山 広島 山口

林野産物

Table of forest products including timber, bamboo, and other forest goods, categorized by region and type.

Table showing forest products and their values for various regions like Aomori, Iwate, and Miyagi.

Table detailing forest products such as lumber and bamboo, with regional breakdowns.

Table of forest income (林野収入) categorized by region and product type.

Table showing forest damage (林野被害) including fire, insect damage, and other losses.

Table of forest income (林野収入) for specific regions like Hokkaido, Tohoku, and Kanto.

Table of forest income (林野収入) for various forest types and products.

Table of forest damage (林野被害) categorized by type of damage and region.

Table of forest damage (林野被害) showing the value of losses from fire and insects.

馬 (昭和二年末)

Table of horse statistics (馬) including headcount and value for various regions.

牛 (昭和二年末)

Table of cow statistics (牛) including headcount and value for various regions.

種牡馬 (昭和二年末)

Table of stallion horse statistics (種牡馬) including headcount and value.

種牡牛 (昭和二年末)

Table of stallion cow statistics (種牡牛) including headcount and value.

山羊 (昭和二年末)

Table of goat statistics (山羊) including headcount and value.

豚 (昭和二年末)

Table of pig statistics (豚) including headcount and value.

鹿・養・牧・畜 (家畜・家禽・園畜)

鶏 (昭和二年末)

Table of chicken statistics (鶏) including headcount and value.

鴨 (昭和二年末)

Table of duck statistics (鴨) including headcount and value.

屠殺 (昭和二年)

Table of slaughter statistics (屠殺) including headcount and value.

種牡馬 (昭和二年末)

Table of stallion horse statistics (種牡馬) including headcount and value.

種牡牛 (昭和二年末)

Table of stallion cow statistics (種牡牛) including headcount and value.

山羊 (昭和二年末)

Table of goat statistics (山羊) including headcount and value.

豚 (昭和二年末)

Table of pig statistics (豚) including headcount and value.

屠殺 (昭和二年)

Table of slaughter statistics (屠殺) including headcount and value.

養蜂 (昭和二年)

Table of beekeeping statistics (養蜂) including headcount and value.

屠殺 (昭和二年)

Table of slaughter statistics (屠殺) including headcount and value.















礦業—礦產物

鑛產物 (昭和二年)

Table of mineral production (昭和二年) including categories like 金 (Gold), 銅 (Copper), 鉛 (Lead), 錫 (Tin), 鋅 (Zinc), 鐵 (Iron), 硫磺 (Sulfur), 煤 (Coal), 石油 (Petroleum), 天然ガス (Natural Gas), 螢石 (Fluorite), 雲母 (Mica), 石墨 (Graphite), 石棉 (Asbestos), 螢石 (Fluorite), 雲母 (Mica), 石墨 (Graphite), 石棉 (Asbestos).

Table of mineral production (昭和二年) including categories like 銅 (Copper), 鉛 (Lead), 錫 (Tin), 鋅 (Zinc), 鐵 (Iron), 硫磺 (Sulfur), 煤 (Coal), 石油 (Petroleum), 天然ガス (Natural Gas), 螢石 (Fluorite), 雲母 (Mica), 石墨 (Graphite), 石棉 (Asbestos).

Table of mineral production (昭和二年) including categories like 亞鉛 (Cadmium), 錳 (Manganese), 鉻 (Chromium), 鈾 (Uranium), 鈾 (Uranium), 鈾 (Uranium), 鈾 (Uranium), 鈾 (Uranium), 鈾 (Uranium).

Table of mineral production (昭和二年) including categories like 滿他礦 (Others), 錳 (Manganese), 鉻 (Chromium), 鈾 (Uranium), 鈾 (Uranium), 鈾 (Uranium), 鈾 (Uranium), 鈾 (Uranium).

石油

Table of petroleum production (昭和二年) including categories like 揮發油 (Volatile Oil), 燈油 (Lamp Oil), 機油 (Machine Oil), 重油 (Heavy Oil), アスファルトム (Asphaltum), 流動パラフィン (Liquid Paraffin), ビツチ (Pitch).

Table of petroleum production (昭和二年) including categories like 北海道 (Hokkaido), 秋田 (Akita), 山形 (Yamagata), 新潟 (Niigata), 長野 (Nagano), 群馬 (Gunma), 鹿島 (Kashima), 計 (Total).

Table of sand production (昭和二年) including categories like 砂 (Sand), 金砂 (Gold Sand), 白金 (White Gold), 銀砂 (Silver Sand), 銅砂 (Copper Sand), 鐵砂 (Iron Sand), 其他 (Others).

Table of iron and steel production (昭和二年) including categories like 生鐵 (Cast Iron), 鋼材 (Steel), 鐵 (Iron), 鋼 (Steel), 鐵 (Iron), 鋼 (Steel), 鐵 (Iron), 鋼 (Steel).

石油原油產出高

産業—鑛業—鑛產物—鑛區—鑛製品

品製薬

Table of pharmaceutical products (昭和二年) including categories like 製造戸數 (Number of Manufacturing Households), 製造額 (Manufacturing Amount), 製造額 (Manufacturing Amount), 製造額 (Manufacturing Amount).



# 工業

**生産高増加す** 財界は概して不況を辿つたが、しかし諸工業は物資需要の自然増加に伴ひ各方面とも概して生産高増加の傾向を示した。まづ綿糸について見ると一方に操短があつたに拘らず能率の増進、錘数の新設などによつて、三年三月の十九万四千柄は、七月には廿万一千柄、十二月廿二万七千柄、越つて四月五月には三万一千柄と漸増を示し、また、洋紙も三年三月の一億二百万は七月には一億一千二百万、十二月には一億一千六百万、四月四月には一億二千百万とこれまた著しい増加を示した。その他晒粉、苛性曹達、肥料、セメント、砂糖など諸工業とも概してその生産高を増加した。

社は、市場好轉を理由に、三年八月廿日の例會において、十一月の兩月物につき四分緩和の六分限産と決定したが、その後限産撤廢論が盛んとなつたため、十一月の満期と共に一とまづこれを全廢することゝなつた。これは各主要産業が全部操短を行つてゐるうちにあつて頗る注目すべき出来事であつたが、しかしこの撤廢は必ずしも需要増加、市況好轉のためのみではなく、王子系、富士系各社の感情問題なども手傳つたので、撤廢後はかなり生産過剰の脅威を受け、遂に四年四月廿日の聯合會で五月一日より向う一ヶ年間二割方の減産を復活することとなつた。

**砂糖生産協定成る** 糖價暴落の結果、砂糖の生産協定はしばしば問題となつたが、各社利害一致せず、容易に成立を見なかつた。ところが糖界の深刻なる不況はも早急たる各社間の利害をかれこれいつてゐられないうちに立至つたので、三年も暮になつてから、

いよくその機運が熟して十二月卅一日遂にその決定を見た。協定の骨子は、北海道、朝鮮を除いた當年の産糖額を千二百三十万と定め、これを台灣、明治、大日本、鹽水港、帝國、新高、昭和等の加盟會社にそれぞれ割當て、それ以上の生産を制限するといふのであつた。

**砂糖供給組合の成立** 右生産協定の成立によつて、原糖相場はこれを維持することが出来るとしても、たゞこの協定のみでは糖糖および耕地白糖の相場を維持することは出来ない、そこでこの生産協定と關連して、完全なる糖價維持を計るために提唱されたのが即ち砂糖供給組合であつた。この案も生産協定と同時に問題となつたのであるが、實現は少しおくれ、四年一月十四日の各社販賣主任會議においてその細目が決定されたそれによると、マークは總て組合のマーク並にミルマークに統一し、また製品の色相および品質、

委員より「綿糸の需給關係改善され、かつ深夜業廢止の對策もはなれない」との無條件撤廢論も主張されたが、結局四年六月末までは現行率を維持し、その以前において深夜業廢止を實行する工場には左の條例を設けることの妥協案が出てそれに決定した。

- 一、現業操短を明年一月より六月末まで繼續すること
  - 二、三月卅一日以前に深夜業廢止をなす工場は休日および深夜業廢止に伴ふ操業時間の減少を休日に換算するを得、但四月一日以降は第三項によるものとす
  - 三、四月一日以降深夜業廢止をなす工場は第二次操短を免除し、第一次操短の休日および深夜業廢止に伴ふ操業時間の減少を休日に換算することを得
- 紡績深夜業廢止 右決議の結果として、四年七月一日に實施されるはずの深夜業廢止も操短繼續

## 林業一林業一説

問題との關係上、その時期を早めて四年一月より實施するものを出、まづ一月には日清紡績これを行ひ、ついで他の各會社もこれに倣ひ、五月末現在においては聯合會加盟會社中深夜業廢止をなしたるもの十七社、八十八工場、三百九十万百十八錘に上り、二割三分の操短率は一割三分方緩和されて、事實上二割の操短率となつた。

# 林業

(三三三頁參照)

**林野保護獎勵金** 近年外材の輸入は著しく増加の傾向を示してゐるが、これは値段の點において内地材に比し著しく割安なるためで、その安價な外材の輸入は延いて内地材の相場を壓迫し、従つて林業の發達を阻害するを以て、政府はこれが對策として別項の如く木材の輸入關稅引上げを行つたのであるが同時に内地林業の發達を助成し、將來外材の輸入を防止す

ることの必要なるを認め、昭和三年度算において、農林省新規事業費として林野保護獎勵費七万六千八百八十円を計上し、以て林業の發達を獎勵することとなつたが、右金額中七万二千二百二十五円はこれを獎勵金として支出し、他の四千七百五十五円を事務費旅費等に支出することとなつた。

**木材關稅引上げ** いはゆる農民黨としての政友會内閣は、その成立と同時に或は鐵道政策により或は自作農制定案、肥料管理案、米穀法改正案等によつて盛んに地方農民の御機嫌取りをやつたのであるが、それと共にまた前記の如き林業保護の意味を以て地方林業家の意を迎へ併せて積極政策遂行のための財源捻出手段として、新に木材關稅の引上げおよび新設を行ふこととなり、關稅調查會においてその原案を作成し、第五十六議會の協賛を経て實行することとなつた、その主なるもの左の如し。

品目	改正率	現行率
檜製材	從價二割	六分
同資材	同一割	無稅
杉製材	同一割	六分
同資材	一割二五	無稅
樺製材	三	六分
同資材	從價二割	六分
資材	大角丸同五分	無稅
丸大割材	同五分	無稅
同長き物	無稅	無稅
鉛筆	シダー無稅	無稅

林業一斑 (昭和二年)	
林野面積	三、八六、六五町
林野產物額價	一、〇〇、〇〇〇、〇〇〇円
木	一、〇〇、〇〇〇、〇〇〇円
柴	一、〇〇、〇〇〇、〇〇〇円
草	一、〇〇、〇〇〇、〇〇〇円
其	一、〇〇、〇〇〇、〇〇〇円
他	一、〇〇、〇〇〇、〇〇〇円
林野被害	一、〇〇、〇〇〇、〇〇〇円
面積	一、〇〇、〇〇〇、〇〇〇町歩
價額	一、〇〇、〇〇〇、〇〇〇円







工場數及從業者數

(昭和二年)

業種	工場數		從業者數	
	總數	事務所	男	女
紡織工業	1,895	10,533	1,895	10,533
金工工業	1,000	3,300	1,000	3,300
機械器具工業	1,000	3,300	1,000	3,300
化學工業	1,000	3,300	1,000	3,300
印刷工業	1,000	3,300	1,000	3,300
其他工業	1,000	3,300	1,000	3,300
合計	10,000	33,000	10,000	33,000

創業年別内地工場數表

(昭和二年末)

業種	工場數		職工數	
	男	女	計	計
明治以前	3,333	3,333	3,333	3,333
明治元一十年	3,333	3,333	3,333	3,333
同十一年	3,333	3,333	3,333	3,333
同十二年	3,333	3,333	3,333	3,333
同十三年	3,333	3,333	3,333	3,333
同十四年	3,333	3,333	3,333	3,333
同十五年	3,333	3,333	3,333	3,333
同十六年	3,333	3,333	3,333	3,333
同十七年	3,333	3,333	3,333	3,333
同十八年	3,333	3,333	3,333	3,333
同十九年	3,333	3,333	3,333	3,333
同二十年	3,333	3,333	3,333	3,333
同二十一年	3,333	3,333	3,333	3,333
同二十二年	3,333	3,333	3,333	3,333
同二十三年	3,333	3,333	3,333	3,333
同二十四年	3,333	3,333	3,333	3,333
同二十五年	3,333	3,333	3,333	3,333
同二十六年	3,333	3,333	3,333	3,333
同二十七年	3,333	3,333	3,333	3,333
同二十八年	3,333	3,333	3,333	3,333
同二十九年	3,333	3,333	3,333	3,333
同三十年	3,333	3,333	3,333	3,333
同三十一年	3,333	3,333	3,333	3,333
同三十二年	3,333	3,333	3,333	3,333
同三十三年	3,333	3,333	3,333	3,333
同三十四年	3,333	3,333	3,333	3,333
同三十五年	3,333	3,333	3,333	3,333
同三十六年	3,333	3,333	3,333	3,333
同三十七年	3,333	3,333	3,333	3,333
同三十八年	3,333	3,333	3,333	3,333
同三十九年	3,333	3,333	3,333	3,333
同四十年	3,333	3,333	3,333	3,333
同四十一年	3,333	3,333	3,333	3,333
同四十二年	3,333	3,333	3,333	3,333
同四十三年	3,333	3,333	3,333	3,333
同四十四年	3,333	3,333	3,333	3,333
同四十五年	3,333	3,333	3,333	3,333
同四十六年	3,333	3,333	3,333	3,333
同四十七年	3,333	3,333	3,333	3,333
同四十八年	3,333	3,333	3,333	3,333
同四十九年	3,333	3,333	3,333	3,333
同五十年	3,333	3,333	3,333	3,333
同五十一年	3,333	3,333	3,333	3,333
同五十二年	3,333	3,333	3,333	3,333
同五十三年	3,333	3,333	3,333	3,333
同五十四年	3,333	3,333	3,333	3,333
同五十五年	3,333	3,333	3,333	3,333
同五十六年	3,333	3,333	3,333	3,333
同五十七年	3,333	3,333	3,333	3,333
同五十八年	3,333	3,333	3,333	3,333
同五十九年	3,333	3,333	3,333	3,333
同六十年	3,333	3,333	3,333	3,333
同六十年	3,333	3,333	3,333	3,333

織物生産高

(昭和二年)

品名	數量		價額	
	(千碼)	(千圓)	(千碼)	(千圓)
廣幅物	1,000	1,000	1,000	1,000
細幅物	1,000	1,000	1,000	1,000
小巾類	1,000	1,000	1,000	1,000
其他共計	1,000	1,000	1,000	1,000
合計	4,000	4,000	4,000	4,000

農業工業【工業製造場・織物生産高】



産業—工業【各種工業物生産高】

Table of industrial production statistics for various goods, including categories like 'Textiles', 'Leather', and 'Foodstuffs', with columns for quantity and value.

各種工業物生産高

Table of industrial production statistics for various goods, including categories like 'Fertilizers', 'Wood products', and 'Household goods', with columns for quantity and value.

産業—工業【製糸場・蠶糸】

内地製糸場数及繰糸数

内地蠶糸産額





斯界の先驅！

裝飾敷物織物直輸出入商

# 吉田鹿之助營業部

大阪市東區北久寶寺町二丁目五七  
電話 船場代表 長 三六一一 番  
振替 大阪 三五三 番  
大阪中央私書函 第一二二三 番

## 交通

### 陸運

陸上運送の大勢を窺ふにはその動脈ともいふべき國有鐵道の貨物輸送状態によるを便利とする、即ち昭和三年以來のこれが概況を見るに、三年々初の三ヶ月間は天候頗る順調で輸送状態も円滑であつた石炭木材建築材料肥料等の大量貨物の出廻り殊に繁く、沿線在荷の如き各月共に廿万トンを超過したことなく、従つて遙かに前年の実績を凌駕し發送において百十餘万トンの収入においても四百廿餘万円の増加を示した。更に四月以降三ヶ月間の成績を見るに議買の形勢も定り貿易も稍見直して財界の前途に對する樂觀氣配さへ窺はれ概して好調といふべきであるが、雪水害の反動で異常に出貨反撥した前年同期との比較は年初の三ヶ月より

交通—陸運一般

聊か低下し四、五兩月は共に十八九万トンの増加に止り、六月は却つて十五万トンの減送さへ見るに至つた。この不勢の原因は濟南事件によつて擡頭した日貨排斥による對支貿易の沈衰と、入梅以來の雨天續きと、更に下旬本州中西部に暴風襲來し甚だしく荷動を阻害した等にある。かくて下半年に入るや前途に御大典を控へた關係から一般に秋冬雜貨の荷受急ぎと且つ大禮奉祝に伴ふ土木建築用品の荷動が殊に目立ち十月までは各月共前年より廿万ト内外の増送をかも知つたが、十月以降はその反動で出貨は漸減歩調に轉じ前年下半年が米を初め夏秋織造建築材料等總て恐慌後の反撥で出廻り活潑であつただけに對前年比較は著しく見劣りし、發送トン數において十月は五万五千余ト、十一月の如きは實に五十万ト余の減退を續けたが例年最繁忙期である年末にはさすがに百四十三万トからの激増を示し活況裏に越年した。

經濟界にも幾多懸案を孕んだまゝ、昭和四年を迎へたが一味清新の氣分を求めんとする心は都鄙に横溢するを窺はれた。かくて新年の運輸界を一瞥するに一般休業續きの關係から極めて不勢裏に沈滞する毎年の例に漏れず、加ふるに年末貨物一掃の後を受けて一段と活氣を殺ぐものがあつた。中旬以後は概して天候良好の結果一般荷役進捗し結局において前年同期より卅八万余トの増送となつた。一般商取引の進展、燃料肥料の季節的移動等相當期待されてゐた二月も金融の緩慢や政情不安の結果各市場は氣迷ひ裏に彷徨して財界一般に不活潑となり、雪害影響の如きは例年より少かつたに不拘出貨軟調を辿り前年同期に比して辛うじて二万四千余トを激増したに過ぎなかつた。しかし政府會計年度末に當る三月に入るや官廳諸納品初め建築材料等の出廻り頗る活況を呈し、かくて晴天霽きのため一般貨物の積出しを促し就中火力用石

炭の出廻り旺盛を極め、市況また見直り歩調に轉じたかと思はれたが如何せん久しきにわたる財界の沈衰は國民一般の消費力を萎縮し綿糸布和洋酒清涼飲料水等の移動を減少させ更に米價安による肥料の購買力減退と折からの肥料管理法案問題とは益々肥料の出足を鈍らせる等の悲觀材料に抑制されて發送トン數も貨物収入も前年より二分九厘方増加したのみで四月に移つたが、月初の天候不良に出貨衰へ、政府買上げを見越して市價硬化した米のみ獨り悦に入つた。下旬金解禁説に神經過敏となつた財界は警戒的に萎縮し物資の商取引が活せず、前年同期に比し十二万余ト減送の不振さであつた。續いて爲替の遞落に悩まされ公債株式は慘落し有價證券市場は半恐慌を呈したので一般商取引は一層萎縮して鐵道への出貨は益不振の度を加へ五月中の發送トン數は對前年十七万余ト減といふ不成績で遺憾なく財界の現状を反映してゐた。

三五三



交通—陸運【道路橋梁・車】

道路及橋梁

○大正一三年末現在 道路單位里 橋梁數 國道八、府縣道及地方道六、市道二、町村道三、合計一、六

國道	府縣道及地方道	市道	町村道	計	橋梁		道路	
					單位里	橋梁數	單位里	橋梁數
1,600	6,000	2,000	3,000	10,600	1,600	6,000	2,000	3,000
1,600	6,000	2,000	3,000	10,600	1,600	6,000	2,000	3,000

諸車

(馬車牛車荷車自動車人力車自轉車) ○(昭和二年三月末、免稅を含まず)

馬車	牛車	荷車	自動車		人力車	自轉車	
			乘用	荷積		乘用	自轉
1,200	1,000	1,500	1,000	1,500	1,000	1,500	1,500

國道	府縣道及地方道	市道	町村道	計	橋梁		道路	
					單位里	橋梁數	單位里	橋梁數
1,600	6,000	2,000	3,000	10,600	1,600	6,000	2,000	3,000

交通—陸運【車】











### 地方鐵道現況

(昭和四年四月末)

鐵道敷の計が内閣と相一致せるは一鐵道にして二動力以上を併用し若くは開業線工事施行線、免許線を併せ有するに因る。一部開業線工事施行線(分劃し難きものに限る)は開業線の部へ又未開業線にして工事施行線免許線を併せ有するものは工事施行線の部へ計上す

種別	動力別	鐵道敷	哩數	建設費豫算額		實本金
				(哩・分)	(圓)	
開業線	蒸氣	瓦斯併用	普通	27	1,540,000	303,647,133
			高架	3	4,500,000	8,551,826
			計	30	1,544,500,000	312,198,959
	電氣	瓦斯併用	普通	6	1,000,000	4,111,000,000
			高架	1	10,000,000	4,000,000
			計	7	11,000,000	8,111,000,000
	蒸氣	瓦斯併用	普通	1	1,000,000	1,000,000
			高架	1	1,000,000	1,000,000
			計	2	2,000,000	2,000,000
	電氣	瓦斯併用	普通	1	1,000,000	1,000,000
			高架	1	1,000,000	1,000,000
			計	2	2,000,000	2,000,000
蒸氣	瓦斯併用	普通	1	1,000,000	1,000,000	
		高架	1	1,000,000	1,000,000	
		計	2	2,000,000	2,000,000	
電氣	瓦斯併用	普通	1	1,000,000	1,000,000	
		高架	1	1,000,000	1,000,000	
		計	2	2,000,000	2,000,000	
蒸氣	瓦斯併用	普通	1	1,000,000	1,000,000	
		高架	1	1,000,000	1,000,000	
		計	2	2,000,000	2,000,000	
電氣	瓦斯併用	普通	1	1,000,000	1,000,000	
		高架	1	1,000,000	1,000,000	
		計	2	2,000,000	2,000,000	
蒸氣	瓦斯併用	普通	1	1,000,000	1,000,000	
		高架	1	1,000,000	1,000,000	
		計	2	2,000,000	2,000,000	
電氣	瓦斯併用	普通	1	1,000,000	1,000,000	
		高架	1	1,000,000	1,000,000	
		計	2	2,000,000	2,000,000	

### 地方鐵道並軌道營業收支

(昭和元年度)

▲地方鐵道

營業收入	6,666,666
營業費	7,500,000
金	8,000,000

▲軌道

營業收入	10,000,000
營業費	10,000,000
金	10,000,000

▲一日一軒平均

營業收入	100,000,000
營業費	100,000,000
金	100,000,000

▲一日一軒平均

營業收入	100,000,000
營業費	100,000,000
金	100,000,000

數計

種別	動力別	鐵道敷	哩數	建設費		實本金
				(哩・分)	(圓)	
開業線	蒸氣	瓦斯併用	普通	27	1,540,000	303,647,133
			高架	3	4,500,000	8,551,826
			計	30	1,544,500,000	312,198,959
	電氣	瓦斯併用	普通	6	1,000,000	4,111,000,000
			高架	1	10,000,000	4,000,000
			計	7	11,000,000	8,111,000,000
	蒸氣	瓦斯併用	普通	1	1,000,000	1,000,000
			高架	1	1,000,000	1,000,000
			計	2	2,000,000	2,000,000
	電氣	瓦斯併用	普通	1	1,000,000	1,000,000
			高架	1	1,000,000	1,000,000
			計	2	2,000,000	2,000,000
蒸氣	瓦斯併用	普通	1	1,000,000	1,000,000	
		高架	1	1,000,000	1,000,000	
		計	2	2,000,000	2,000,000	
電氣	瓦斯併用	普通	1	1,000,000	1,000,000	
		高架	1	1,000,000	1,000,000	
		計	2	2,000,000	2,000,000	
蒸氣	瓦斯併用	普通	1	1,000,000	1,000,000	
		高架	1	1,000,000	1,000,000	
		計	2	2,000,000	2,000,000	
電氣	瓦斯併用	普通	1	1,000,000	1,000,000	
		高架	1	1,000,000	1,000,000	
		計	2	2,000,000	2,000,000	
蒸氣	瓦斯併用	普通	1	1,000,000	1,000,000	
		高架	1	1,000,000	1,000,000	
		計	2	2,000,000	2,000,000	
電氣	瓦斯併用	普通	1	1,000,000	1,000,000	
		高架	1	1,000,000	1,000,000	
		計	2	2,000,000	2,000,000	

## 水運

歐洲大戰は世界の經濟狀態に劃期的大變化を現出したが、海運界において特に顯著な勢力の變動を齎した。即ち戰前英國と相角逐したドイツは、五百万トンの龐大な商船隊中五十万トンを残した外は、悉く没收されて往時の盛をしのぶよすがさへ残さぬ慘狀に陥せられ、新興勢力北米合衆國がむくむくと頭を擡げ英國に次いで第二位を占め、戰爭の圈外に立つて幾多の船成金を輩出した日本がまた、漁夫の利を得て北米合衆國の次に位し歐、米、亞の三角形の各頂點に立つて、世界海運の勢力を三分するかに見えた。そして日本の後にフランス、イタリ、ノルウェーが続いたのであつた。

して振はず、日、佛も辛うじて現有勢力を維持するに過ぎず、總じて各國とも戰後の世界的荷動き不振にたゞられて、オーヴァー・ト・ネイヂの悩みを續けてゐる間にノルウェーは先天的海國民精神を發揮してトランパーとして、世界各地に勢力を扶植し、内にあつては造船價格の低落を機會として優秀經濟船の建造に努力し、イタリ、またムツソリーニの海運立國政策の實行で新陣容を固めて來るべき海運戰に臨む準備を進めつゝある。しかしこゝに最も驚異に値するは、莫大な償金を課せられて、再起不可能と思はれたドイツ經濟力の眼見しい復興振りで、海運において特に著しく、閉戦直後の五十余万トが十年後の今日は早くも七倍の三百八十萬トに達し、和、諾、伊、佛をぐんぐん抜いてすでに日本の壘を塵せんとするにいたつた。殊に三百萬ト以上の船舶は最近の建造にかゝり、優秀經濟船の優をあつめたものであるだけに

實力においては數等日本を凌駕してゐる、トシ數に於てもドイツが日本を一蹴して英米につぐ第三位に達するものさう遠いことではあるまい。

以上は單にトシ數から見た積載力に限つた量的觀察であるが、これを船舶、船用機關、船材、速力、船型、船種、特殊船舶の數等の質的方面の觀察を下す時は日本は恐らく五位以上に上り得ぬであらう。

こゝに一々その説明を試みる余裕はないが、日本海運の缺點として(一)新造船の少き割合に、老朽船の多きと(二)最近經濟的優秀船として各國とも競争的に建造しつゝあるディーゼル船の少きと(三)速力の遅きと等を挙げねばならぬ。

然しかくの如く、海運力の質的方面即ち經濟的能率において著しく遜色を有しながら、なほかつ歐米の優秀海運國と伍して或る程度まで競争し得る一種のハンデキャップを附せられてゐる點を看過することはできぬ。日く地理的關係で

ある。世界において海運戰の最も激甚なるはいふまでもなく大西洋にして現に貨客船ともに白熱的な競争を續けつゝある。東洋の一角を占め、永久に眠れる支那を隣りに控へ、東、太平洋、西南、印度洋洲方面に獨占的地位を確保し得ないまでも、歐米各國よりも地理的に比較的有利に活動し得るは、特に日本が恵まれたたゞ一の強味である。

最近我國に於ても打續く一般財界の不況と昭和二年七月の船員給料引上等のために、海運界も極度に行詰り、船價の整理、船體の優秀化、經營の合理化の必要に迫られ、建造が漸く目立つて來た。即ち社船側に於ては日本郵船が、サンフランシスコ線航船(一六、八〇〇總噸)、三菱の建造に着手し既に進水を終へ、且下機裝中にして歐洲航路船二隻(一一、八〇〇總噸)、シヤトル航路船三隻(一一、〇〇〇總噸)、南米西海岸航路船一



交通—水運一般

（九、五〇〇噸）は皆目下建造中、なほニューヨーク航路船四隻（二万噸級）は新造計画中である、一方大阪商船は天津航路船三隻を手初めに、大連航路船一隻、北支那航路船二隻、別府航路船二隻合計八隻の新造を終り、すでに就航、現に活動を開始してゐるのみならず、更に南米航路船二隻（九、五〇〇噸級）、ボンベイ航路船二隻（五、三〇〇噸級）建造中で、最近にまたニューヨーク航路船四隻（二万噸級）の新造注文を發し、郵船兩社とも新陣容の整備に躍起となつてゐる。

一方社外船に於ても三井物産は三千噸型ディーゼル船四隻の建造を手始めに白馬丸（九、七四噸）、箱根丸（九、八〇〇噸）を建造し且つ信貴丸（八、一〇〇噸）を購入し、何れも精銳を誇るディーゼル船にして尙今後十年計畫を以て徹底的のディーゼル化する計畫を意氣込みであり、大連汽船も廿万噸主義を標榜して、買船と新造船

ですでに十六万八千噸を擁し、更に第二次造船計畫を樹て、三隻も既にディーゼル・フリートを整備して太平洋に活躍を開始した。なほ山下汽船もディーゼル船建造中國際汽船、東洋汽船に新造計畫あり、個人船主も富豪船主は板谷汽船、島谷汽船、昭和商船等すでに建造を終へ、岸本汽船はすでに二隻注文を了し、廣海商船の新造計畫を傳へられ、我が海運界にも遅れ走せながらディーゼル船時代が見舞つて來た。

八万九千噸を占め、運航船は十四隻九万噸にしてそのうち二隻のディーゼル船があり、汽船の分も十五年以上の老船船は殆んど見當らず、この方面にも優秀化の跡が歴然と現れて來た。かくて我が海運界にも船舶革命の時代が漸く到來したかの觀を呈し、極度に行詰つた海運界もここに初めて局面打開の途を見出したものゝ如くである。然るに一方太平洋の經濟的地位が高まつて來たと同時に、大西洋方面の競争がますます激甚の度を加へて來るにつれて、その落伍者は活路を他方面に求めねばならぬ苦境に陥り、太平洋に進出を企てる外國汽船が最近漸次に増加して來た。この傾向は最近まで地理的優越性を利用して、殆んどその獨り舞台として獨自的地位を擁してゐた我が海運には恐る可き脅威でなくてはならない。六月廿日太平洋運賃同盟が米國西海岸揚日本積生系運賃を四、五十倍から一思ひに三に引下げ

五六

たのも、表面は同盟外船川崎汽船および三井物産に對する同盟船の挑戦であるが、事實は同盟内における日本側會社、日本郵船および大阪商船に對する外國會社ダラ・シー・ビー・エスおよびブル・ファンネル間に纏つた内紛に因を發するもので、これを以て太平洋における日本對外國船の國際的海運競争はすでに火蓋を切つたものと見てもよい事情にある。勿論郵船のサンフランシスコ線、シヤトル線、ニューヨーク線、商船のニューヨーク線も二三年中には全部新陣容が整備する、社外船においても現在太平洋に活動しつゝあるディーゼル優秀船は今日既に十七隻十五万五千噸に達してゐる。これが卅萬噸に増加するのはさう遠くはない。

港灣

地方	軍港	要港	開港	商港	漁港	避難港	合計
北海道				1			1
青森				1			1
岩手				1			1
宮城				1			1
秋田				1			1
山形				1			1
福島				1			1
茨城				1			1
千葉				1			1
東京				1			1
神奈川				1			1
新潟				1			1
富山				1			1
石川				1			1
福井				1			1
静岡				1			1
愛知				1			1
三重				1			1
京都				1			1
大阪				1			1
兵庫				1			1
和歌山				1			1
鳥取				1			1
岡山				1			1
広島				1			1
山口				1			1
香取				1			1
徳島				1			1
高知				1			1
愛媛				1			1
福岡				1			1
山口				1			1
合計				15			15

船舶現數

地方	軍港	要港	開港	商港	漁港	避難港	合計
北海道				1			1
青森				1			1
岩手				1			1
宮城				1			1
秋田				1			1
山形				1			1
福島				1			1
茨城				1			1
千葉				1			1
東京				1			1
神奈川				1			1
新潟				1			1
富山				1			1
石川				1			1
福井				1			1
静岡				1			1
愛知				1			1
三重				1			1
京都				1			1
大阪				1			1
兵庫				1			1
和歌山				1			1
鳥取				1			1
岡山				1			1
広島				1			1
山口				1			1
香取				1			1
徳島				1			1
高知				1			1
愛媛				1			1
福岡				1			1
山口				1			1
合計				15			15

登簿船新造及購入並解撤及賣却

汽船	帆船	合計
新造	新造	新造
購入	購入	購入
解撤	解撤	解撤
賣却	賣却	賣却
合計	合計	合計

五六



汽船在籍別現在數

(二十噸以上登錄汽船 逕信會調查)

Table showing steamship registration statistics by year (大正, 昭和) and region (内地, 朝鮮, 台灣, 滿洲, 關東州).

造船所船渠及建造船舶

(噸數は噸數船とす)

開港出入船舶數

(昭和二年)

Table showing shipbuilding statistics and port entry/exit statistics for various ports (横濱, 神戸, 長崎, 門司, 大阪).

社外船配船狀況

(重量二十噸以上 單位—噸)

Table showing external ship allocation status by region (歐洲方面, 日本北米, 北米大西洋, 濠洲印度南洋海峽植民地, 近海一區, 入渠中, 繫停船, 其他, 合計).

船價

Table showing ship prices categorized by type (大型新船, 大型中古船, 英國新船) and month (一月 to 十二月).

備料

(昭和三年、單位—圓)

Table showing material prices for various ship components (千噸, 三千噸, 五千噸, 八千噸) by month (一月 to 十二月).

海運運賃表

(神戸海運集會所調査、單位—圓)

Table showing shipping rates for different routes (大連橫濱間, 關東内地間, 關西内地間) by year (昭和三年, 昭和二年, 昭和元年).

交通—水運【船價·備料·運賃】







# 航空一般

本邦航空界

昭和三年から同四年にかけて、日本航空界の最も大きな波紋は日本航空輸送株式會社（社長西野惠之助氏）の事業開始である。同社は昭和四年四月一日まづ東京大阪、大阪福岡、岡山京城、京城大連間の郵便定期飛行を始め、これと同時に試験的定期飛行に従事し本邦飛行界のため精進して来た川西龍三氏を社長とする日本航空株式會社の大阪福岡、大阪大連間、大阪上海間の航空事業と朝日新聞社經營の東西定期航空會の事業である東京大阪間、東京仙台南間の定期航空は全く閉鎖されるに至つた。過去六年の間、實際的飛行においてまたこれに伴ふ財力において多大の犠牲を拂ひ來つたこの兩事業の休止は時運の推移によるやむなき結果とはいへ、日本航空界にとつては正に一大變革であつた。日本航

空會社並に東西定期と共に堺大分間の飛行に従事してゐた日本航空輸送研究所は、その航空路が新會社のそれと抵触するところがないため、堺大分間を大阪松山間に改めて、そのまゝ事業を繼續するととなり昭和四年六月一日から旅客郵便の定期航空に従事してゐる。事業を閉鎖した日本航空株式會社の社長川西龍三氏は新に航空機の製造方面に進展するため昭和三年十一月川西航空機株式會社を設立（資本金五百万円）しすでに神戸兵庫の假工場において海軍指定の一三式水上練習機一五式水上機の製作に従事してゐるが四年秋頃までに兵庫縣鳴尾に本工場を建設し、飛行機の運用は全然斷念して製作方面に全力を盡すこととなつたから同社が今後、三菱、川崎、中島等の各航空機製作會社に對抗して如何なる成績を擧げ得るかは觀物であらう。

一方三菱航空機會社、中島飛行機製作所、愛知時計電機株式會社が軍用機製作の傍ら遞信省より受命製造した三菱のMCI旅客機（ジャガー一四〇〇馬力）中島のプレグー式旅客機（ジュビター四〇〇馬力）愛知のハインケル貨客機（ローレン四〇〇馬力）が日本航空輸送會社の手により昭和四年七月廿一日から福岡岡山間（朝鮮海峽横斷）の定期飛行に就航してゐることは、わが民間製作會社の事業の一端を具體的に示し得たるものとして一種の力強さを覺はさせる。

主なる飛行 は、陸軍にあつては所澤陸軍飛行學校教官花澤大尉が乙式一型（サルムソン二三〇馬力）を操縦して所澤太刀洗間の夜間無着陸飛行を決定したこと。海軍では伊藤少佐を指揮官とした一五式飛行艇二機になる南洋飛行（横濱須賀サイパン島間二千五百四十四往復）である。この飛行は、わが國最初の海洋飛行として注目されたが左の如き成績で大成功を収めた。

三六八

（往）五月廿日横濱須賀小笠原島間六時間廿九分▲廿一日小笠原モグウ島間六時間六分（二番機左翼小破とスコールのため一泊）▲廿二日モグウ島サイパン島間五時間十分（復）二十四日サイパン島モグウ島間四時間▲同日モグウ島小笠原島間六時間廿三分▲廿五日小笠原島横濱須賀間七時間五分

民間での主なる飛行は昭和四年七八兩月にわたつて實施された大阪毎日新聞社の日本山岳撮影飛行で大毎第十號輸送機（一三式改造イサノ・スイザ四五〇馬力）を羽太文夫、松下弁二兩飛行士交々操縦、日本アルプス以西近畿中國四國九州の名山を悉くカメラに收め連日同紙上に掲載され山岳航空關係者は元より一般の著しき注目を感じた、その飛行距離約六千五百キロ、朝日新聞社では同時ころ海防義會より貸下を受けた義勇號（BMW六〇〇馬力）で東京より北海道まで都市連絡飛行を行つた。一方通信連絡飛行にありては、昭和四年五月下旬より六月上旬にか

けて 天皇陛下が八丈島および關西方面行幸に際し大阪毎日新聞社はまづ八丈島に大蔵飛行士操縦の大毎第五號機（十年式改造イサノ・スイザ三〇〇馬力）を飛ばし寫眞空輪に當らしめて、はからずも飛行機天覽の光榮に浴し、次で南紀地方への行幸に際しては電報通信社はハンザ式水上機二台、朝日新聞社はハンザ式水上機二台及サルムソン式一台を使用して寫眞原稿の空中輸送を實施したが、大阪毎日新聞社は大毎第十四號機（十年式改造イサノ・スイザ三〇〇馬力）を羽太松下和田の三飛行士交々操縦、同社獨得の原稿の上飛行を敢行して敏活に通信任務を完了したのは目覚しかつた。

外國飛行機日本訪問 は、昭和三年九月十八日ベルリンを出發した獨逸飛行家リンドナー氏操縦、フオン・フヒ一ネフェルト氏及機師士同乗のユンカイ式W三十三型（ユンケル・エル五型三二〇馬力）ヨロツツ六號はベルリン、印度を経て十月十日上海着十七日

夜間地盤一氣に日本に飛來箱根以東猛烈に雷まされて遂に立川飛行場を發見すると出來ず、多摩川原に不時着、小破損を修理し廿三日朝立川飛行場に着陸したのとこれも獨逸の青年ケーニツヒと男が、モスコイから輕飛行機で世界周遊を企てベルシア、印度を経てシンガポール着同地から汽船で四月廿八日神戸着、大阪木津川飛行場を機體を組立て五月十一日大阪から東京立川に飛行したのとケーニツヒ男は更に汽船で米國に向つたが滞在中絶えず無邪氣な愛嬌を振りまいて行つた。

邦人の外國飛行路利用 世界周遊の途にあつた大阪毎日新聞社編輯職務奥村信太郎氏バリ留學の同社員前田三男氏が昭和四年七月カザから飛行機に乗り初め五日間水上機や陸上機に乗つてロンドンまで空中旅行を續けたのは邦人の單なる空中旅客として外國飛行路利用のレコードであらう。

世界航空界 航空界の部分的改善進歩は時進日歩の状態にあるけれども、劃期的の發明はなかくに期待し得ない。劃期的の飛行——極地飛行、海洋横斷飛行——は時々敢行され

交通—航空一般

るけれども、これは、その飛行の擔任者である操縦士、機師士、航空士たちが多年の経験と熟練した技能とを傾注して巧に使用飛行機の全能力を發揮せしめ、これに明快な判断力と膽力とを加へて、初めて達成することが出来るもので従つてそこに冒險味も湧いて來るのである。現代においては劃期的であり冒險的である飛行も、やがては何等の心配もない平穩な飛行に歸する日が來るのは遠くもあるまいけれど、それには、飛行機そのものに劃期的の發明を待たねばならない。飛行機の經濟化並に安全系數の増加に第一歩を進め得べきデイゼル・エンジンの航空化は、英獨米等で研究されつゝあるが、まだ完成の域には達してをらぬ。

また完成の域には達してをらぬ。ドイツのフォツカー式を基幹とし、これにアメリカ風味を加へたライアン式、ペランカ式、フエヤチヤイルド式等々——空却式屋形發動機裝着の單葉リムジンといふ飛行機の型式は米國より歐洲に渡

り、英國でも佛國でも、それに似た飛行機の製作を見つゝあることは最近世界航空界の注目すべき一傾向であらう。

歐洲でも米國でも航空路は、ますます擴張されます。大型飛行機の出現を見つゝあるが、かねて噂の高かつたドイツ、ドルニエ會社の製造にかゝり世界の最大飛行

機といはれてゐる發動機十二個附の大型飛行機は七月十二日フリードリツヒスハーフェンにおいて最初の試験飛行を行ひ十六名の乗客をのせ三回にわたつて飛行したが成績は頗る良好であつたと傳へられてゐる。「人の力」が主となつて創造的の威力を示すドイツに對し「金の力」が主となつて働く米國では最近銀行家その他金融關係

三六九



交通—航空一般

の企業家が盛んに航空事業に投資を始めてゐる。一九二九年一月米國商務長官ホワイティング氏は「合衆國の商業航空事業は最早

全く試験的時期を脱し一個の確立した事業となるに至り一九二八年定期航空の旅客五千人(米國は從來郵便飛行のみ旅客は余り取扱は

ず)飛行郵便は一ヶ月平均四十七万に達し飛行機並に附屬用品の生産は急増し一九二七年に比し二倍の産額が豫想されてゐる」と發

表してゐるやうな状況で米國における最近の航空事業進展の目撃しは見え出すことが出来ぬ。

日本飛行記録

Table with columns for speed, altitude, and flight records. Includes entries for various aircraft like '大正十三年四月二十日' and '昭和三年七月十六日'.

世界飛行記録

Table with columns for speed, altitude, and world flight records. Includes entries for '一九二八年三月三十日' and '一九二九年五月廿九日'.

主要各國民間航空豫算概算

Table showing budget estimates for aviation in various countries like Japan, France, and the US for the years 1927 and 1928.

本邦民間航空機乗員數

Table showing the number of pilots in Japan's private aviation for the year 1933 (昭和三年十月一日調).

列國最大航空機一覽

Table listing the largest aircraft in various countries, including details like name, manufacturer, and specifications.

本邦民間飛行機數並免狀受有者數

Table showing the number of private aircraft and license holders in Japan, categorized by license type (e.g., 自由氣球, 航空士).

交通—航空【各國民間航空豫算・民間乗員並機數・列國最大航空機・民間機數並免狀受有者數】







航空船之部

▼最大飛行時間(無着陸)(未公認)百十一時間
操縦者 獨逸人ドクトル・エツケネル
使用機 LZ廿七號ツェツペリン伯號
日 昭和三十二年十月十一日一十五日

自由氣球之部

▼最大航空高度(獨) 一〇、八〇〇米
操縦者 獨逸人スーリツグ並ベルツン
飛行機 伯林
日 明治卅四年七月卅一日

螺旋飛行機之部

▼最長水平飛行(伊) 七三六米
操縦者 伊國ベスカラ侯爵
使用機 イスパノ・スキザ百八〇馬力一基、プロペラ二個、螺旋機ベスカラ式
飛行機 佛國イツシー・レ・ムリノ

Table with columns for aircraft type (飛行機), engine (エンジン), and other specifications. Includes entries for various models like '飛行機' and 'エンジン'.

本邦軍用機拂下數

Table showing the number of Japanese military aircraft destroyed from 1915 to 1933. Columns include year (昭和元年), number of aircraft, and other details.

旅客輸送

本邦民間航空機製作所數

Table showing the number of Japanese private aircraft manufacturing plants from 1915 to 1933. Columns include year, number of plants, and other details.

本邦民間飛行操縦術練習所數

Table showing the number of Japanese private flight training schools from 1915 to 1933. Columns include year, number of schools, and other details.

本邦民間工業所

Table showing the number of Japanese private industrial plants from 1915 to 1933. Columns include year, number of plants, and other details.

三七四

東京瓦斯電機工業株式會社(明治卅二年八月創立)
所在地 東京都原町入新井町不入斗
石川島飛行機製作所(大正三十二年二月創立)

逓信省航空局

民間航空事業の監督保護獎勵に關しては大正九年陸軍大臣の管理に屬する航空局の設置によつて初めて組織的機關の活動を見るに至り、越えて同十二年四月航空局は逓信省の一局となり、左の各項の事務を掌ることとなつた

- (一)民間航空取締に關する事項
(二)民間航空に關する事業の監督及保護獎勵に關する事項
(三)民間航空に伴ふ施設に關する事項
(四)民間航空の取締に關する事項
(五)民間航空の取締に關する事項

交通—航空—航空局・民間航空團體

救護及事故調査

航空局においては別に飛行士の養成に努め、大正九年航空局設置以後毎年一般から飛行機操縦術練習生若干名を募集してゐる、志願者は年齢十七歳以上二十歳未満の獨身の男子に限り、陸軍航空勤務者身體検査の例による體格検査と中等學校卒業程度の學術試験を行つた上、合格者は所屬陸軍飛行學校(陸上)暨海軍航空隊(水上)とに依りて正規の飛行術を練習せざる、修業中は一定の宿舎に居住し、被服その他操縦術練習に關する諸費は航空局から支給され修業中成績優秀の者には特待生として月額三十圓の支給を受けることが出来る練習生は卒業と同時に二等飛行機操縦士の免狀を下附される

帝國飛行協會

帝國飛行協會は大正二年四月二十三日、日本航空協會と帝國飛行協會との合併により成立、翌三年九月二十六日財団法人の認可を得て、東京麹町區有樂町に本部を置き、各府縣廳内に支部を設け、大正七年六月二十四日更に國民飛行會を併合し、同八年萬國航空協會に加盟した、協會の主なる目的事業は航空に關する學術技能器材等の研究、民間航空従業員の保護獎勵及航空思想の普及にあり、先に多

額の御内帑金を賜はる、大正十五年秋大阪に、昭和二年春名古屋に、航空デイスプレーを開催して成功を博した、昭和四年春豫て東京芝區櫻田本郷町に建築中であつた同協會の航空館竣工、協會事務所は同館内に移轉す、毎月一回航空雜誌「飛行」を發刊してゐる

日本航空輸送株式會社

日本航空輸送株式會社は昭和四年四月一日より事業を開始した、最初はサルムン式(サルムン二三〇馬力)を使用して東京大阪(一日二往復)大阪福岡(一日一往復)岡山東京(一日一往復)大連(一日一往復)の定期郵便飛行を行ひ、六月十五日よりMCCU(ジャガー四五〇馬力)プロペラ(ジュービター四五〇馬力)ハインケル(ローレン四〇〇馬力)を使用して福岡岡山間の空中郵便連絡を開始して東京大連の航空路初めて貫通、更に和蘭と米國に注文したフオツカー式F七型(ライト・ワールウインド二〇〇馬力三機)及フオツカー式スーパー・ユニバーサル(ジュービター四五〇馬力)の到着を待ち東京福岡間(大阪中継)一日二往復の旅客輸送飛行は七月十五日からユニバーサル機で目出度く開始され、福岡大連間の旅客飛行は八月十五日から開業する豫定であ

るが、これが初まれば、いよいよ東京大連間の定期旅客郵便飛行が完全に實施されることとなるのである、同社の現在實施してゐる航空路並に旅客運賃は別表の如く、航空郵便は左の通りである

海防 警備

海防協會は東京市麹町區丸の内海上ビル内に事務所を置く、大正十二年ユンケル式水上機を購入して以來航空事業の間接的獎勵に力を注ぎ、我海軍に對して大正十四年全金屬製飛行機を製作寄附(不幸災厄にかゝる)し更に昭和三年には二發動機附の金屬製大型飛行機を寄附してゐるが一方民間に對しては左の通り飛行機を製作無償貸與してゐる

川西式八型水上機勇第一第二號(日本航空株式會社)
金剛式水上機勇第一號(日本航空株式會社)
義勇第四第五號(朝日新聞社)
ユンケル式水上機勇第六第七號(日本航空輸送研究所)



### 通信及ラヂオ

ラヂオおよび通信界が昭和三年後半期から四年前半期にわたつて隔世的に一大躍進を遂げたことは、正に曠古の御大典が三年十一月京都において行はれたためであつて、この御大典を中心として、あらゆる新施設が完成せられたのである。この期間において世間を驚かしたものは即ち我が社に率先して電送寫眞を紙上に發表して世間の注意をひいたことである。電送寫眞は曠古の御大典を記念すべく我國通信界に初めて採用せられた通信界唯一のものであつた。

電送寫眞に次ぐものは地下ケーブル電話線の東京神戸間の完成である。この地下ケーブル電話線の完成により初めて御大典の御模様を六放送局に有線中継し津々浦々にまでラヂオの放送を聴取せしめることが出来た。かく御大典の御模様を國民の目にいち早く運んだものは電送寫眞であり、同じく國民の

耳に運んだものはラヂオであつた。最も發達した通信機關として昭和三年末に我國通信界を驚かしたものは電送寫眞である。

### 電送寫眞

日本電氣株式會社丹羽保次郎博士の發明したNE式電送寫眞機の東京大阪間における遞信省の試験が三年八月に發表せられ、次いで九月初旬、大阪毎日新聞社が東京日日新聞社との間に架設せられた専用電話線を使用して佛國ペラン式電送寫眞機によつて東京の寫眞を大阪に、大阪の事件を東京に電送しこれを紙上に掲載したのである。これを第一歩を印したのである。これに次いで十月末電報通信社、大阪朝日新聞社がドイツテレフンケン會社製カロールス式電送寫眞機によつて東京大阪間の寫眞電送を初め、十一月の京都における御大典期間中約一ヶ月にわたつて大毎大朝、電通の三社が競つて京都の御即位式の寫眞を東京に電送し、

新聞寫眞の速達に一大改革を與へて世人を驚嘆せしめたのである。これがため遞信省でも四年十二月ごろから電報と同様電送寫眞の取扱を開始することとなり、その施設を急ぐこととなつた。けれどもこれが實現は五年四月以降に延期せられる模様である。

### ラヂオ

電送寫眞に次いで特筆すべきものはラヂオの御大典期間における活躍である。大正十一年七月東京日日新聞社主催で初めて實地試験が行はれて以來三ヶ年にして東京放送局が出来て放送ラヂオを開始し、引續いて大阪放送局、名古屋放送局が出来十五年八月三局合同して日本放送協會となり、全国的に統一し、全國礦石化の目的で仙台放送局、札幌放送局、廣島放送局、熊本放送局の四局を増設して全國に向つてこの七放送局から放送を開始してその基礎をなした。然し全國の七

放送局を連絡する陸上線の施設がないため七放送局個々別々の放送を行ふの止むない状態であつたが東京神戸間の地下ケーブル電話線の開通によつて、これ等放送局が昭和三年十月末から聯絡することとなり有線中継によつて札幌放送局を除くの外、仙台から熊本に至るまで同時放送が出来ることとなつたのである。

### 有線中継による聯絡放送

昭和三年十一月御大典の御盛儀を放送するため仙台—東京—名古屋—大阪—廣島—熊本間七百四十余キの中繼線が竣成し一放送局の放送が全国的に中繼放送せられることとなり放送事業に一大革新を來した。その第一歩として、全國的中繼放送が京都からの御大典放送によつて實現せられたのである。そしてこの中繼線を有しなかつた北海道の札幌放送局では無線中継によつて御大典放送を行ひ、他局と同様に京都からの放送を同時に放送するを得、日本放送協會の七

放送局は個々の放送波長で京都からの放送を同時に中繼放送し、全國五十六万の聴取者に居ながらにして御大典の御模様を聴取せしめたのである。

### 御大典放送記録

六日 賢所を移し奉る午前四時三十分「青島風」の羽搏きを放送  
七日 午後一時五十分より三時廿九分迄一時間廿九分に亘り聖上陛下京都御到着より京都皇宮入御に至る國進御の御模様に國民奉迎の實況を、京都驛内プラットホーム、同驛前奉迎門、京都日日新聞社前および御所建禮門前に設置したマイクホンより放送  
十日 午後一時廿分より三時十五分迄聖殿において執り行はせられた即位禮の御模様に御所御苑内建禮門前のマイクホンより放送、午後三時の田中内閣總理大臣の發聲に隨ひ諸員一同の萬歳奉唱の大聲は破れるばかりに放送せらる  
午後六時五十分より廿分間堺町御門前における京都市民の奉祝實況を放送  
午後七時廿五分から一即位禮御終了後の所感—田中首相の謹語を京都御所より放送

### 交通—通信及ラヂオ

十六日 午前十時から「大嘗宮の儀」を奉り奉る所感」と題する山本國相の講演を京都スタヂオから放送  
廿五日 午後六時廿分から「關西における諸儀をめぐりて」近衛大體使長官の講話を放送  
廿六日 午前九時廿分より十一時廿分迄聖上皇宮御發聲より京都驛御發聲迄、國進御の御模様に國民奉迎實況を七日と同様の施設によつて放送  
以上の通り實況放送の外に大體ニュースの放送は七日より廿七日迄の間に八十回、延時間四時間九分、庶民奉祝實況七回、延時間六時間三十三分、御大典に關する放送を行つた

### 實況放送と地方色

中繼聯絡線が出来て以來のラヂオは東京大阪を中心とする都市放送即ち都市の演藝、娯樂が地方放送局を賑はすと同時に都市聴取者のために地方色の豊かな俚語、俗語といつたものが都會生計者の家庭に織り出されることとなつて非常に面目を一新して來ることとなつたのは非常に放送ラヂオに興味を添へて來たわけであるが、放送技術の未だ

發達しないためか實況放送に當つて演藝の深味を現はすことが出来ないのは遺憾である。

四年一月十九日大阪中央放送局で最初の舞台中繼放送として大阪南地中座に出演中の藤治郎、延若一座の「阿波十郎兵衛」を放送したことが大阪で初めての實況放送であるから興味をもつて聴取したがその放送効果は豫期に反して實につまらないものであつた。

一口にいへば浮き、ない實にフラツトな芝居として放送せられたのである。主役のセリフもその他大ゼいの聲も同じ大きさに放送せられたのである。芝居を見てゐないものには主役がどれであるか、説明によつて初めて知られるのである。これは多数のマイクホンを使用して舞台の全部を忠實に放送したため、かゝる結果を來したもので技術上の失敗であつた。技術者なり放送指揮者が芝居を今少し理解してゐたならばもつと立派

な放送が出来たことと思ふ。

現在の放送程度ならば甲子園の野球の實況放送などがやゝ縮つた、缺點のないよい放送であらうが、指導をまつて、立派な實況放送に向つて進まないと既に行詰りの感があると思ふ。

今全國の聴取者數(四年三月末)をあけてラヂオの項を終るとする

- 全國ラヂオ聴取者數 關東支部 (JOAK) 二八三、六七四 關西支部 (JOBK) 一五〇、六七四 東海支部 (JOC) 五〇、四二二 中國支部 (JOFK) 二一、六三九 九州支部 (JOGK) 二一、八七三 東海支部 (JOHK) 二〇、六二二 北海道支部 (JOIK) 一五、六五三 合計五十六萬四千五百五十八

### 通信

#### 無線電信の發達

放送ラヂオに次いで我國の無線電信界も最近大發展を遂げ、日本無線電氣株式會社の手によつて建設中であつた愛知縣碧海郡依佐美村の對歐無線電信送信所は昭和四年一月を以て



完成し、四月十五日より通信を開始するに至つた、同對歐無線局の通信範圍は現在ドイツのベルリン局、フランスのパリ局、ポーランドのワルソー局の三局であるが、近く英國、イタリーの無線局とも直接通信を開始する豫定である。

同無線局の波長は一万七千二百百尺で、その送信能力は十四万八千五百メートルアムペア、空中線電力五百五十ワットで、現在世界中最有力の大無線局で、送信装置機械は獨逸テレフンケン會社製作の發電機式の最も進歩したものであつて、内地より發信せられる歐洲宛の電報は、名古屋無線電信局からこの對歐無線局によつて直接歐洲に發信せられてゐる。

航空無線電信局設置 逓信省では航空路の發達に伴ひ航空機の安全、並に航空機上より發信する電報を取扱ふために全國に六ヶ所、航空無線電信局を敷設することとなり本年四月一日より東京、大阪無線電信局、箱根無線電信局

を航空無電局となし、更に鈴鹿山脈を控へた我國の航空路の最難所である龜山町に航空無線電信局を設置し八月ごろから開始することとなつてゐる。この外福岡、五島の富江にも設置するはずであるから、今後航空機との通信は現在船舶と海岸局との無線通信と同様に陸上と航空機との間に自由に通信する事ができ非常に便利となる。のみならずこれ等の局を利用して將來は航空機上と陸上との間に通話をも開始する方針であるといふから、航空無電局の未來は非常に多端であらう。

短波長アマチュア放送局 海外諸國ではアマチュアの無線電信研究家によつて短波長の放送が開始せられてゐるにもかゝらず、我國では獨りその自由を有しなかつたが、無電の發達につれ昭和二年末から逓信省でもアマチュアの短波長放送局出願者に對し三十八ワットの波長で研究的に放送することを許可し初めたので、出願者非常

に増加し、昭和三年から四年にかけて許可せられるもの非常に多く昭和二年末には僅かに草間、菅原の二氏のみであつたが、現在では非常に増加し數十におよんだことは將來我國無電界のために非常に喜ぶべきことである。

電話地下ケーブル線の完成

逓信省の東京岡山間地下ケーブル電話線計畫は大正十一年以來總經費三千七百万円で工事中であつたが、漸く昭和三年九月、東京神戸間の工事が完成したので九月廿七日東京京都間、廿八日京都神戸間の試験通話をなし好成績を得たので十一月一日から使用を開始し從來東京大阪間は十九回線であつたものを廿八回線とし、御大典を期して通話能力の増進を行ひ、神戸東京間三回線を七回線に、神戸大阪間十二回線を廿六回線に、その他大阪名古屋、名古屋東京間の各回線の大擴張をなし、通信能率に一大改良を來し、東京大阪間の通話の如き同一市内と通話するが

如き良好なる成績をあげるに至つた。しかもこの地下ケーブル完成によつて從來の如く暴風雨その他雪害等にかゝるが如き障害を一扫し得たことは、我が電話界の一大記録である。

逓信省の電話擴張計畫

逓信省は昭和四年度より全國各都市における電話の大擴張計畫をなし、前記東京岡山間の地下ケーブルの完成を行ふと同時に、大正四年度より向う十二ヶ年間に毎年四千二百万円乃至五千万円を支出して電話の普及をなし高價な各都市の電話架設費を漸次低減して十二年後には非常に安くし、一般に安價で使用し得しめんと計畫を樹て、議會を通過し四年度より開始することとなつたが濱口内閣の成立と共に七月この大擴張計畫の根本方針である、募債主義をくつがへしたため、四年度以降の擴張は再び中止の形となつたことは通信發展上誠におしむべきである。

郵便取扱高 (昭和二年度)

Table showing postal handling statistics for various regions including 通都大邑, 名古屋, 大坂, 名古屋, 東京, etc. with columns for 引受, 配達, 小包, 引受, 配達.

引受通常郵便物數管轄區別 (昭和二年度)

Table showing postal receipt statistics by jurisdiction for various regions including 東京, 名古屋, 大坂, 名古屋, 廣島, 熊本, 仙臺, etc.

交通—通信【郵便】

配達通常郵便物數管轄區別 (昭和二年度)

Table showing postal delivery statistics by jurisdiction for various regions including 東京, 名古屋, 大坂, 名古屋, 廣島, 熊本, 仙臺, etc.



外國通常郵便物數發着國別

(昭和二年)

發着國別	本邦より發送		本邦へ到着	
	書狀	書籍	書狀	書籍
歐羅巴	1,771,261	2,771,261	1,771,261	2,771,261
亞細亞	1,771,261	2,771,261	1,771,261	2,771,261
北米合衆國	1,771,261	2,771,261	1,771,261	2,771,261
南米合衆國	1,771,261	2,771,261	1,771,261	2,771,261
合計(其他共)	1,771,261	2,771,261	1,771,261	2,771,261

電報通數

(昭和二年度、日支電報は内國電報中に含む)

内國電報	内地	台灣	樺太	朝鮮	南洋
合計	1,771,261	2,771,261	1,771,261	2,771,261	1,771,261

陸上電信線路及線條

(昭和二年度管轄區別、單位一里・町)

管轄區別	線路	線條
東京	1,771,261	2,771,261
名古屋	1,771,261	2,771,261
大阪	1,771,261	2,771,261
廣島	1,771,261	2,771,261
岡山	1,771,261	2,771,261
合計	1,771,261	2,771,261

水底電信線路及線條

(昭和二年度管轄區別、線條心條、單位一里)

管轄區別	線路	線條
東京	1,771,261	2,771,261
名古屋	1,771,261	2,771,261
大阪	1,771,261	2,771,261
廣島	1,771,261	2,771,261
合計	1,771,261	2,771,261

郵便、電信電話收入及支出

(昭和二年度、單位一圓)

項目	收入	支出
郵便	1,771,261	2,771,261
電信	1,771,261	2,771,261
電話	1,771,261	2,771,261
合計	1,771,261	2,771,261

水底電話線路及線條

(昭和二年度)

管轄區別	線路	線條
東京	1,771,261	2,771,261
合計	1,771,261	2,771,261

電話加入者、申越者

累年比較(附数は内地に於けるものとする)

項目	昭和九年度末	昭和二年度末
加入者	1,771,261	2,771,261
申越者	1,771,261	2,771,261
合計	1,771,261	2,771,261







兵庫縣武庫郡魚崎町  
宮内省御用達  
櫻正宗釀造元 山邑酒造株式會社

酒はサクラ

# 櫻正宗



支店

東京 大阪 京都 神戶 京都 奉天 山城



婦人の讀もの

## 家庭生活から經濟を觀る

下田 將美

經濟現象や經濟政策は普通の家庭の人々からは専門的なむづかしいことのやうに思はれてゐる傾きがあります。貿易がどうの、金融がどうの、財政がどうのと書いてあるものを見ても、それは一向われわれの日常生活には緊切な關係のない専門のことのやうな氣がしますが、しかし元來經濟と人間の生活そのものとは切放すことの出来ないものであります。アダム・スミスの時代には經濟は富に關する學問のやうに考へられてゐました。しかしその後ドイツ派の學者

婦人讀物—家庭と經濟

に富時の競相相口氏によつて奢侈關稅なるものが設けられました。これは歐洲の戦後、世の中が不景氣になつてをるにもかかはらず、一般の人々はまだ所謂成金時代の夢が醒めずに奢侈の風習が盛んであつて、すてゝおいては面白くない影響が來るといふ所から、國家の財政も緊縮せると共に、一般の人々も質素節約を旨として放漫なる生活を改めるのが必要であるといふ意味から、外國から輸入される贅澤なものに重い關稅を課して買ひにくいやうにするものであつたのであります。それ故この關稅は非常に重いもので約百二十種のもので從價十割の稅がかげられたのであります。たとへば家庭の奥様たちが使ふ贅澤な舶來の化粧品などは外國で百円のものならば輸入税にも百円かけられて結局、日本へ入れば二百円になるといふ勘定だつたのであります。かういふ例は戦後の外國にもあることで、あの自由貿易の權化のやうに思は

れてゐるにイギリスで聯立内閣がマクケンナ關稅といふのを設けたのも最初はやはり奢侈を防止する意味の關稅だつたのであります。さうてかやうな奢侈を防ぐための政策が決して間違つたものでないことは明らかであります。これはその當時も今日も同様であつて、いつまでも成金時代の夢が吾々の心にこびりついてをることは大きな禍であるので無用な贅澤は國家經濟の上からみても、くれぐれもつゝしむべきことであるのは申すまでもないことでもあります。

けれどもさていよく此奢侈關稅即ち十割關稅を實施して見ますと中には奢侈でないものが奢侈として算へられてゐるものがあります。たとへば茶とかコーヒーとかチーズとかいふものはその當時には奢侈品と見なされて十割の關稅がかげられたのであります。しかし今日の吾々の日常生活で一ぱいの紅茶をのみ、コーヒーをのみ、食事にチーズを食べることが贅澤であ



るでせうか。これは恐らく誰でも  
贅澤だといへないだらうと思ひ  
ます。今日の進んだ世の中にコー  
ヒーの一ぱい位のむことは寧ろ生  
活になくてならぬものであるかも知  
れませんが。そこでかやうな贅修  
でもないものを贅修として十割も  
關稅をかけるのは結局は吾々の生  
活費を無用に高くするだけで何の  
利益もなく寧ろ損失を與へるだけ  
のことです。ありますから思ひ切つて  
改正するのが當然だといふことに  
なりました。そこで第五十六議會  
ではこの關稅改正案が議せられた  
結果、いはゆる奢修關稅の中で二  
十種ほどのものが除外されること  
になり十割關稅でなしに普通の關  
稅を課せられることとなつて、昭  
和四年の三月三十日から實施され  
ました。いひかへると二十種程の  
ものは關稅がずつと安くなつて早  
くいへば値が大いに下がることにな  
つたのであります。

のを少しあげて見ますと次のやう  
なものです。  
紅茶粉および包種茶以外の茶。砂  
糖を加へないコーヒー。蜂蜜、ジ  
ヤム、フルーツゼリー類、砂糖の  
入らないビスケット、チーズ、犬  
猫の皮、テニス、ラケット用のガ  
ット、沈香、寫眞、轉寫用簿紙以  
外の繪畫、カード、カレンダーおよ  
びブロック・カレンダー。石およ  
び石膏品。人物および動物の石膏  
像、つげ、テニス、野球、フット  
ボール具以外の戶外運動具および  
その附屬品。その他であります。  
つまり吾々は三月末からは外國か  
ら入つてくるチーズを食べてもジ  
ヤムやフルーツゼリーを食べても  
以前のやうにすばらしく高いもの  
を買はされなくてすむやうになつ  
たのであります。スキーだのスケ  
ートだのゴルフだの運動に必要な  
器具もこれまでは十割の奢修稅が  
課せられてゐたのであります。こ  
れを贅澤だとして高い關稅をかけ

るのは間違つたことであるといふ  
ので今度は稅が安くなつたのであ  
ります。従つてこれらの道具の値  
も當然下つてくることになつたので  
あります。かやうに奢修關稅の中  
で不穩當だと思はれるものは改正  
されましたけれども、その後政友  
會内閣が倒れて、民政黨の政府が  
出來ましてからは、金解禁を目標  
として公私共に緊縮節約につとめ  
ることになりました。この當然の  
結果として本當に奢修と認められ  
る外國品は一層重い稅が課せられ  
る順序になるだらうと考へられて  
ゐます。どの道贅澤な外國品など  
はこの際お互ひに自重して用ひぬ  
やうにするのが第一であります。

れるものが非常に多いのでありま  
す。特に關東の大震災以後にはア  
メリカ木材の需要は著しく増加し  
て、一口で木材といはれる位に普  
通の人にも知られてきてをります  
勿論これには杉もあれば檜もある  
のであつて、米杉、米檜などと呼  
ばれてをるわけです。今日の所で  
アメリカから一體どれ程の木材が  
輸入されてをるのであるかといへ  
ば、まづ八千万円から一億円近く  
年々入つてきてをるのであります  
石敷になほして見ると一年に一千  
万石ほどであります。かやうに米  
材が方々で用ひられるやうになつ  
たために家を造るには大分安く  
出來るやうにもなつたのでありま  
すけれども、これを一面から申し  
ますと内地の山林業者への打撃と  
なるのはいたし方のないことです。  
つまり安い木材が外國から入つて  
くるのであるから、それだけ日本  
の木材を賣る人は壓迫を受けるわ  
けなのです。そこで政府では關稅  
の改正に際して、内地の山林業者

保護と、内地の植林獎勵といふ各  
のもとに今度木材關稅を引上げる  
こととして三月末から實施したの  
です。

一體この關稅引上によつてどんな  
風に稅が重くなつたのであるかと  
いふと大體に於て製材したものは  
二割、素材のものは一割二分五厘  
を輸入價格に對して課するといふ  
ことになつてをるのであります。  
これまでは素材のものなどは全く  
無稅であつたのですが、今度はいか  
やうな稅のかゝるものとなつたの  
です。もとよりアメリカから輸入  
される木材のすべてに稅が重くな  
つたといふのではなく、鉛筆の軸  
に使用されるシダーなどはものと  
通りに無稅なのです。しかしその  
他の主として建築に用ひられる米  
櫓であるとか、米杉、米檜、米松  
等のすべてに對しては何れも重い  
稅が課せられることになつたので  
あります。

々の生活の上にとどのやうな影響が  
來るでせうか。實をいへばその影  
響は決して筋書き通りには現はれ  
て來なかつたのであります。もし  
筋書き通りに現はれるものだとする  
ならば關稅の上つただけは木材の  
値段が上つて高くならなければな  
らない筈であります。しかし世の  
中は實に妙なものでいよく關稅  
が引上げられるといふことがわか  
つてくると内地の木材業者は見越  
し思惑即ち關稅のかゝらない安い  
ものを賣つておいて儲けようとい  
ふ考へからしきりに引上實施前に  
注文を出して木材の輸入をしたも  
のです。それと同時にいよく實  
施されてからは内地木材の値は上  
るに違ひないといふ考へから山林  
業者はしきりに山の濫伐をはじめ  
ました。そのためにいよく關稅  
引上をやつて見ると木材の値は供  
給過剰のために逆に下落するとい  
ふやうな妙な始末になつてしまつ  
たのであります。しかし要するに  
これは一時的のことであつて、長

い目で見れば木材關稅の引上げは  
結局木材の値の上ることになつて  
くるのは間違ひのないことであ  
ります。  
木材の値が上つたらばどうなる  
か。これはいふまでもないことで  
家を建てる他が高くなります。建  
築が高くなればどうしても家賃  
が高くなつて來ないわけにはゆき  
ません。つまり木材關稅の引上げ  
はわれわれの生活の三大要素であ  
る衣食住のうちで、雨露をふせぐ  
住の費用の上騰といふ結果になつ  
て現はれてくるのであります。關  
稅問題を輕視するとの出來ぬ理由  
は實にこゝにあるのであります。  
一體關稅の保護は國內の産業を保  
護するといふ意味から出るものが  
多いのであります。一度び立  
場をかへていへば消費者にとつて  
はすべてこれ負擔の増加であり、  
生活の重荷を更に重からしめるも  
のゝみであります。わが國は保護  
貿易を希望する人が非常に多くて  
随分澤山のものに關稅がかゝつて

るます。食糧品などを見ても主要  
なるものは殆んどすべて關稅が課  
せられてゐます。砂糖然り、小麦  
や小麦粉然りであります。しかし  
かやうな關稅は何れもそれだけ砂  
糖なり製粉なりの値を高くしてを  
るものに他ならないのでありま  
す。吾々は消費者の立場から今後  
余程慎重に關稅問題を考慮して、  
無暗に關稅ばかり高くするやうな  
わが國の通弊をのぞくやうにしな  
ければならないと考へます。

金解禁と家庭の經濟 五年金  
解禁の問題はいたる所で論ぜられ  
てゐます。實をいへばあらゆる經  
濟界の問題は金解禁を中心にして  
動いてゐるのだといつても差支へ  
ない位のものなのであります。前  
の政友會内閣の時には解禁は原則  
として認めてはゐましたが實際に  
はなか／＼これを行ひさうにもあ  
りませんでした。しかるに民政黨  
内閣になつてからは、すべての財  
政經濟政策を解禁を目標にして立  
直すことにしましたので、こゝに



はじめて眞剣に解禁が近づいた気がするやうになつて來たのであります。いままではいつ實現するやらわからなかつた解禁が今度こそ本ものになつて來たといつても差支へないのであります。いひかへて見れば日本はやがて解禁をするのです。たゞそれは時期の問題であります。そこで遠からぬうちに解禁は行はねばならないものだとするならばそれが實現された時に一體吾々の家庭生活には目に見えてどんな影響が來るものであらうか、私にいへばれば一般の家庭の人達は一向さういふことに気がついてゐないやうであります。気がつかずにはゐるすむことならば結構ですが、實はそれではすみません。今からその時の覺悟をしておく必要は大いにあります。そこで私は金解禁のむづかしい議論などは一切ぬきにして、家庭經濟の上にとりな影響が來るかといふ實際問題だけを書いて見たいと思ふのであります。お断りしておきます。

すがこゝに解禁後の影響といふのは今日のやうな事情の下に、今日の平價（日本の百円がアメリカの金にしてザツと五十弗足らずの割合のことです）で解禁をする場合のことをいふのであります。所謂平價切下げの解禁などの場合を豫想してではないことを申上げておきます。そこで解禁が實現されたまづ第一に物價がかなり下つて來ます。これは金の解禁と共に當然起つてくる爲替相場の騰貴と、正貨の流出増加との兩方面からの作用をうけて下り、結局金が自由に海外に出てゆくことになるため日本の物價も世界の物價標準なみにまで低落してゆくためなのです。日本の物價は今日では外國の物價に比べてまだ高いのです。さてこれらの理由の一つ一つについて申上げることをやめますが、一番早い例として爲替のことをいひますと、たとへば四十八が百円の爲替相場の際に解禁をしたと假定

します。さうして相場が百円に上つて五十五に上つたとします。さうした場合に、どうしてこの物價の變動が起るかといひますと解禁の前にアメリカから時計一つ四十八のものを輸入するとすれば百円日本の金で拂はなければなりません。しかるに解禁して爲替が上つて今度は百円が五十五につかへるとすれば四十八の時計を輸入しても百円で二つおつりが來るわけですが、いひかへれば前は四十八のものに百円拂つたのに今度は九十何円かを拂へばいゝわけでありました。早くいへば解禁して一割爲替相場が上るとすれば一割だけ日本への輸入品は安くなるわけですが、しかるに日本が今日外國から輸入するものは何であるかといへば棉花、鐵、羊毛といつたやうな原料品であるとか、米とか小麦とかいふやうな食糧品が輸入品の八九割までを占めてゐるのであります。つまり原料品と必需品を輸入してゐるのであります。さ

うしたものがこゝで一割安く輸入されるとしたならば日本の物價はそれだけ下つてくるわけでありました。つまり解禁をして爲替が一割上れば輸入するものは一割安くなる。従つて棉花が一割安く輸入されれば綿糸も安くなる、木綿の衣類も安くなる。羊毛が安く輸入されるから羊毛で造られた毛糸が安くなり、メリンスが安くなる。子供さん達のスエーターも安くなれば毛糸のシャツも安くなり、女中さん達のメリンスの帯も安くなるといふ理窟になるのです。更に食糧品からいつてもアメリカその他から輸入される小麦が安くなるから日本でそれを原料にして造つたうどん粉が安くなります。従つてうどんも安くなればパンも安くなるといふことになるのです。以上は爲替關係だけのことですがその他に正貨の流出増加といふことからお金の値打が高くなつて物も安くなるといふわけで、これらが集つて解禁をすれば物價が安く

なるといふことは争はれないことなのです。物價が下落をすれば吾々の生活は苦しくなるか樂になるかといへば、これは申すまでもないことでありませう。暮しはたしかに樂になつてくるに違ひありません。これが解禁による一ツの現象であります。

利子も上ることには間違ひがありません。その他すべて利子は高くなつてくるのであります。家庭經濟からいへば銀行に今日澤山預金をしてゐたり、信託會社に澤山お金をあづけてゐるやうな人々にとつては解禁は一つの福音であつてさうしたものゝ金利は今日よりよくなるものと考へていゝのです。第三には金利關係によつて利子は上りますけれど今度は株券とか公債社債などを持つてゐるものは逆に値が下ります。これは金利が上れば利廻りの計算の上から見ても然起つてくることでありまして、たし方はありません。ですから證券類を澤山にもつて財産にしてゐる人達は解禁によつて一時財産が減る勘定になるのを覺悟しなければならぬのでせう。

のやうにも思はれる方があるかも知れませんが、成程物價や銀行利子だけから見たならば金解禁はうまい話に違ひありません。しかし今度は事業界といふ點から見るとこゝには慘憺たる不景氣がやつてくるものと覺悟しなければなりません、中でも一番大きな打撃をうけるものは内地の原料で造つたものを外國に輸出する商賣のものです。例をあげれば生絲のやうなもので、かやうなものは解禁によつてどうしても値が下る他はありません。したがつて生絲に關係するものは皆打撃をうけます。おかひこを働かせる農家にも打撃が來ます。つぎには日本の工業中で外國品と競争してゐるやうなものが打撃をうけます。たとへば砂糖であるとか人絹であるとか硫酸肥料であるとかいふやうなものがそれです。製鐵製鋼の事業も矢張り同じやうに經營が苦しくなつて來ます。たゞ外國から原料を買つてそれに加工して外國に輸出してゐる商賣、例

へば紡績のやうなものには外國から買ふ棉花が安くなるのですから大變都合よくなる筈です。しかし世の中は仰々さううまくはゆかぬものでかうした紡績業者などはいつても澤山の原料を手持してゐます。さういふ蔵の中の手持原料がみな損失になることになりませうから矢張り一時的に大きな打撃をうけることになるのです。尤も中には解禁をして本當に利益のすぐに出てくるものもありますけれどもまづ大體からいへば事業界は大なり小なり解禁によつて打撃をうけるものだらうといふをあらかじめ覺悟しておかなければならないのです。さてこゝに問題が起ります。成程解禁すれば物價は安くなるし、銀行の利子は高くなるし大變どうも家庭にとつては結構なやうではあります。が、事業界がかやうに大不景氣になつて來ては肝腎の主人の取り崩が大減少を來してくることになります。ボーナスも勿論減りませう。ボーナスが減つたり月給



が上らない位はまだ我慢も出来ま  
す。首がとんでしまふものも澤山  
に出来ませう、労働者の家庭にし  
て見れば賃銀は減らされることに  
なりませう。失業の苦しみを背め  
るものも多くなつてくるでせう。  
要するに一家の収入は減すればと  
て決して増すことはないといふの  
が月給取りや労働者の生活の上  
かゝつてくるのであります。かう  
考へてくると物價が安いのと金利  
の高くなるのとばかりを見て悦ん  
でゐるわけにはゆかないことがわ  
かるだらうと思ひます。

第五には金利高、物價安、事業不  
振といふやうなことの間に世間  
が一時火の消れたやうな不景氣に  
なつて來ますので、どうしても一  
般的にいやなことがこれに伴つて  
起つてくるものと覺悟しなければ  
なりません。たとへば土地の値段  
なども下りませう。事業界が不振  
で一つ間違へばまた破産する會社  
や商店が出来るかも知れないとい  
ふわけなのでありますから土地などの處

分ものが澤山に現はれて來ます。

したがつて賣り手が多いから土地  
の値は下つてくると見なければな  
りませう。地代もそれについで  
下りませう、家賃も下がりませ  
う。百姓は早く米を賣らうとする  
ので米の値だつて上る方には考へ  
られません。要するにつまり所謂  
不景氣の現象がどの方面にも強く  
現はれてくるものと考へてみれば  
間違ひがないのであります。

まづさつと以上のやうなことが家  
庭經濟を中心にして解禁と共に起  
つてくるものだといへませう。考  
へて見るとどうもいやな事の方が  
多くてやり切れない氣がします。  
そんないやなことはやらぬ方が  
いいだらう。金解禁なんかしない  
方がいゝと一應は誰れしも考へて  
くるに相違ないのです。誠にもつ  
とも千萬なことです。私共にして  
見ても、もし金解禁をしないです  
むものならばしない方がいゝでせ  
う、金解禁をしないで國が榮の家  
が富むものならば誰れだつてこん

ないやな目には會ひたくありません。

ん。けれども残念なことには金解  
禁をしないで置くと日本の經濟は  
救ふことの出来ないドン底に落ち  
さうなのです。金解禁をすれば一  
時は今まで書いたやうないやな目  
に會ふけれども、そのあとは良く  
なるのです。こゝに問題の焦點が  
あるのです。もつとわかり易い例  
をあげますと日本の今日の經濟界  
は慢性の腫物の出来た大病人見た  
いなものなのです。この病人を今  
のうちに手術台にのせメスで腫物  
を切つてとり去ると一時は成程痛  
いかも知れない。一時は今よりも  
衰弱してしまふかも知れない。し  
かしその手術をしたあとではすつ  
かり病根がとれて健かな身に回復  
して大いに活動も出來ようといふ  
ものです。しかし手術をするのが  
痛いだらうとか、こゝで切開をし  
たら目を廻してしまふだらうとか  
いつて毒にも薬にもならぬやうな  
ものをのませて一日のぼしのぼ  
しておくと、そのうちに腫物の毒

手に一撃を與へることになつたの  
などは特に注目すべきことであ  
ります。この問題は百貨店が多いと  
ころは何千万円といふ商品切手を  
發行してゐる。まるで紙幣に類し  
たものであつて、かやうに莫大な  
金額のものが發行されていゝと無  
利子の金を使つてゐる有様では小  
賣業者はいよゝ／＼壓迫されるばか  
りであるから適當な制裁を加へよ  
といふものなのです。

は全身に廻つてそれこそ生命にか  
ゝはつてくるのです。遅れれば遅  
れる程手術の機會がなくなつてく  
るのです。これが今日の現情なの  
です、腫物は行詰つた日本の經濟  
です、かう考へて來ますと家庭經  
濟から見ていかに金解禁が苦痛で  
あるにしても國家の生命のために  
これを忍ばなければならぬといふ  
理由もわかることだらうと思ひ  
ます。

詮する所金解禁はどの道しなけれ  
ばならないことなのであります。  
従つて金解禁によつて起る打撃に  
對してもすべての家庭の人は今か  
らこれに十分の用意をしておかぬ  
ばならぬのであります、事業が不  
振になつて主人の月給やボーナス  
が減つても驚かないやうに、地代  
が下つても困らないやうに、商賣  
する人は一時不景氣で今日よりも  
物が賣れなくなつてもあわてない  
やうに今日から十分に覺悟してそ  
れを切りぬけられる方策を立て、

おかねばならぬと考へるのであり  
ます。私はかういふ覺悟と對策と  
がすべての人によつて持たれてを  
るならば金解禁をしても驚くには  
足らないであらうと思ひますし又  
一般の人々が心からさういふ覺悟  
をもつてゐるやうになつたならば  
金解禁を執行しうる時期も早くな  
るに違ひないと信するものなので  
あります。一言でいへば解禁を前  
にしてすべての人の覺悟すべきと  
は、すべてを引締めることであり  
ます。生活上のむだを出来るだけ  
少くして勤儉節約につとめて、一  
生懸命に働くことでもあります。だ  
らしのない考へ方や生活をしてを  
つては此大きな受難時代の敗者と  
なる他はないのであります。

百貨店と小賣店の對抗問題  
世の中は近年非常な不景氣であり  
ます。この不景氣の中にあつては  
商賣は思ふやうに賣れないのは當  
り前のことであり、ところが  
實際はどうかといふに多くの小賣  
商店は四苦八苦の有様であります

のに、デパートメント・ストア  
だけはすばらしくよい景氣です。  
東京では三越や松屋、松阪屋と何  
れもますます盛んです。大震災の  
後には大きな損失をうけた佛はいま  
いつこにありやといふやうな有様  
です。大阪でも三越、大丸をはじめ  
として高島屋や白木屋と相競ひ更  
に阪急デパートが出來て新勢力を  
はつてゐますし南海鐵道もいよゝ  
よ大きなビルの建築に取かゝつて  
高島屋が乗出すさうです。まづた  
くこの不景氣の世に百貨店だけは  
別世界といふ氣もします。それだ  
けに小賣店のさびれ方は甚しいも  
のです。そこで最近になつて小賣  
業者が團結して百貨店に當らうと  
する運動が漸く目立つてくるやう  
になりました。これは近年の消費  
運動上の著しく目立つた出來ごと  
であります。その中で小賣店の團  
結運動の一つとして百貨店の商品  
切手に對する抗争運動などは面白  
い問題であります。各地の商工會  
議所がこれを取扱つて百貨店の切

ないやな目には會ひたくありません。  
ん。けれども残念なことには金解  
禁をしないで置くと日本の經濟は  
救ふことの出来ないドン底に落ち  
さうなのです。金解禁をすれば一  
時は今まで書いたやうないやな目  
に會ふけれども、そのあとは良く  
なるのです。こゝに問題の焦點が  
あるのです。もつとわかり易い例  
をあげますと日本の今日の經濟界  
は慢性の腫物の出来た大病人見た  
いなものなのです。この病人を今  
のうちに手術台にのせメスで腫物  
を切つてとり去ると一時は成程痛  
いかも知れない。一時は今よりも  
衰弱してしまふかも知れない。し  
かしその手術をしたあとではすつ  
かり病根がとれて健かな身に回復  
して大いに活動も出來ようといふ  
ものです。しかし手術をするのが  
痛いだらうとか、こゝで切開をし  
たら目を廻してしまふだらうとか  
いつて毒にも薬にもならぬやうな  
ものをのませて一日のぼしのぼ  
しておくと、そのうちに腫物の毒

百貨店に對して小賣店がその特長  
とする所を十分にのぼしてゆくに  
はどうしたらよいかといふやう  
なことこそ一番大切な今後の大問  
題であり研究事項であるだらうと  
考へてゐます。

しかしかやうな百貨店や小賣店の  
自覺した抗争に對して一般の家庭  
の人々、いひかへれば一般の消費  
階級はまたどれほどに新しい自  
覺をもつてをるのであらうか。い  
はゆる消費組合運動などが實は一  
向にすゝんでゐないのを見て、消  
費者の團體運動が一番遅れてゐる  
といふ感が深いのであります。今  
後の各家庭ではかうした方面にも  
つと／＼眞剣な研究が必要だらう  
と思ひます。

米穀法の話 隨分外國の文化  
は日本に入つても來ましたし服装  
にしても、住宅にしても、外國風  
が多く取入れられるやうになつて  
は來てゐますが食物だけは矢張り  
いつまでたつても日本では米が主  
食であることにはかはりありません



ん。日本人と米の飯とは本當に切つても切れない余程縁の深い仲だといはなければなりません。したがつて米の値段は苟くも日本人であるならば生活上の最も大きな關心事だといつて差支へないものでありませう。更にすべての家庭の人に米の値が大切であることも日本國民の半分ははと百姓であります。農家であります。その人達にとつて米の値の上り下りは今度は生活の基礎を左右する問題となつて來ます。米の値が大問題である所以はこゝにあります。さてかやうなわけで米は生産者、消費者の何れの立場から見ても重大なものであります。その値が余りに高くなれば生産者にはよいが消費者が苦しむ、余り安くなれば消費者は樂だが生産者が立ちゆかなくなる。あちら立てればこちらが立たずとは正に米の値のとであります。丁度いゝ所に置きたいと思ふがこれがまたむつかしい問題であります。けれどもむつかしい

からといつてすてゝも置けないので適當な米の値の調節方法として考へ出されたのが米穀法といふものなのであります。

最初この米穀法が出來たのは大正十年のことであつて、早くいへばこの法律によつて米が豊作で出來すぎた時にこれを政府が買入れて貯蔵しておく。さうして凶作の年になつたらばそれを民間に抛下げをしてやる。更に内地の米ばかりではなしに凶作の時には外國米の輸入税を免除してどしどし入つて來るやうにしたり、反對に米が余る時には外國から入る米を制限してしまふといふやうなこともするのであります。つまり日本人としては主食物として一番大切な米の需要と供給とを巧みに政府の力で調節してゆかうといふのが米穀法の主意だつたのであります。このために東京、大阪、酒田、門司等には國立倉庫もたてられてゐて政府が買入れた米を貯蔵しておくことになつてゐるのであります。さ

て米穀法はかやうに最初はたゞ單に需給の調節だけが目的だつたのですが、それではどうしても徹底してゐない、一層米の値段まで調節しなければ不當でないといふ意見が多くなつて今日では數量と市價と兩方の調節を目的とするといふことになつて來てゐるのです。さて以上書き記したことは米の調節に關する政府のやり方の大略なのであります。いよくこれを實際に行つて見た成績はどうであつたかといふと第一にまづ資金の運用において失敗してしまつたのであります。元來米穀法によつて政府が米を買つたり賣つたりする金はどこから出るかといふとこれは特別會計の制度であつて、最高二億円で借入金によることを得るといふのであります。ところが大正十年以來今日までにすでに一億四千万円の金を借りてしまつてあとに余裕は少なくなつてゐます。これだけの金を借りても一方運用によつて利益でも上つてゐる

ば一向差支へないわけですがこれがまた大きな損になつてすでに六千何百万円といふ損失金を計上してゐるのです。一寸考へると政府は安い米を買つてしまつておいて米が高い時に賣り出すのですから損はするはずがないやうに考へられますがさうではないのです。かやうな状態で折角の米穀法もやり出してから十年もたないうちにすつかり行きつまつてしまつて今では借入金さへ心細い程しか余裕がなく、どうにも始末がつかないので五十六議會で運用資金を七千万円だけ増加することにきまつました。つまり今までは借入金額の制限が二億円であつたものを二億七千万円にしたのであります。とはいへこれは一時の應急策であつて、日本の米を調節するといふためには米穀法そのものゝ不備を何とか根本的に改善してゆかねばならないので今日ではこれが政府の一つの大きな懸案となつて頻りに考究されてゐるのであります。

要するに米の問題はどの家庭にとつても最も大切なものであります。いはゞ必需品中の必需品とも申すべき米の値が無暗に變動しないやうにするのは生活の基礎を安定する道なのに違ひありません。政府の苦心もまたそこにあるのであつてわれわれはかういふ制度が今日のやうな不備なものではなしに、もつとく完備したものとなり生活の不安がのぞかれるやうになりたいと祈らざるを得ません。

x x x x x

以上私はごく手近かな例によつて經濟がいかに各人の家庭生活の上に密接な關係があるかの一斑を書き記して見ました。これはホンの一つの例であります。これ以外に實はあらゆる經濟現象、日に月に移り變つてゆく經濟界の動きが直接間接に大なり小なりすべての人の家庭に影響をおよぼして來てゐるのであります。たゞかやうに影響があるといふことを多くの人が気がつかずにゐるだけのことであ

婦人讀物—家庭と經濟

つて影響のあることについては一向かはりはないのです。どうぞこれからは經濟を専門的なものであらんと考へたり、各人の生活に密接な關係のあるものだといふことを思はないで輕視したりするやうなことのないやうに、家庭の人は家庭の人なりに經濟の動き方に注意してゐていたゞきたいと思ふのであります。これが私の最後に御願ひしておくとのも一つであります。(七月十三日稿)



救急手當

創傷 切創、挫創、刺創、擦創などは木や竹片の刺さつた時は毛抜で抜き、切創、擦創などガラス片や砂粒など附着の場合は硼酸水でよく洗ひ落し硼酸軟膏をガーゼに延ばし創面に當てゝ上から繃帯を

する。出血の甚だしい時には止血法を施し醫師を待つべきである。

出血 血管の大小によつて手常法も異なるが大出血は特に生命の危険が甚だしいから手常法を心得てゐる必要がある。動脈出血は血が迸れるからガーゼか布片を創の上に當てゝ強く押しその上に別にガーゼで球を作つておき強く繃帯をして置く、又黒味を帯びた血の出る靜脈出血や皮膚を傷けたために起る毛細管出血などはいづれも少し壓迫して繃帯しておけば止る。鼻血が出た時は軽いのなら血の出る方の鼻孔を指先で壓迫するか鼻孔に栓をして置く又多い場合は鼻孔に栓をして冷やすと共に直ぐに醫師を迎へる。

腹痛 熱もなく下痢などとして急に腹痛を起した場合は懷爐とか炊き立ての飯などを布に包んで痛むところを温める。盲腸炎など熱がある場合(盲腸は右側の下腹にある)或は嘔き氣の伴ふ場合は冷す方がよい。

咯血 肺結核の患者に突然來るので狼狽させるが決して咯血そのものは驚くに當らない。直ぐに食鹽水をコップに一杯吞まし(これは止血の効がある)靜かに床上に仰臥させ絶対に談話を禁じ飲食物も熱いものを避けねばならぬ。

假死 凍死は急に温めないで先づ身體を清掃し、雪などで全身を摩擦し體温が出て手足が軟くなつたら床に入れ部屋を温め興奮劑を嗅がせ氣が附いたら葡萄酒などの飲料、温い牛乳或は味噌汁などを與へる。溺死は先づ衣服を去り俯向にし背中の方を兩手で壓迫して十分に水を吐かしそれから仰臥させ人工呼吸法を施す。窒息は食道閉塞なら中指を口に入れて吐かせるか、俯向けにして腹部に枕をあてトクトクと背中を叩くかすると吐き出して了ふ。奥に詰つたものは速に醫師を招かねばならぬ。縊死又は氣道壓迫による場合は靜かに仰臥させて人工呼吸法を行ふ。